

福岡市埋蔵文化財年報 VOL.20

— 平成 17 (2005) 年度版 —



2007

福岡市教育委員会

序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、また重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、平成 17 年度における本市の埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。開発事業に起因する事前審査及び緊急調査件数は、平成 12 年度をピークに以後減少しましたが、平成 15 年度から一転して増加に転じる傾向にあります。平成 17 年度の事前審査件数は平成 16 年度に比べ、公共事業では微増でしたが、民間事業では個人・共同住宅建築等を中心に 50 件増加し、申請件数としては審査開始以来最高となりました。また民間事業に伴う照会件数も大幅な伸びをみせ、緊急調査件数、発掘調査面積もここ数年では平成 16 年度に次ぐものになっております。これは民間での景気の回復傾向を示しているとともに、埋蔵文化財の周知化が進み、開発関係各位の文化財保護に対する理解が深められつつある状況を示していると思われます。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成 19 年 3 月 30 日

福岡市教育委員会

教育長 植木とみ子

例 言

- 本書は、埋蔵文化財課が平成 17 年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。巻末には福岡県西方沖地震に伴う指定文化財災害復旧事業の概要を付載した。
- IV に掲載した発掘調査のうち、調査番号 0505、0508、0514、0516、0520、0525、0529、0530、0536、0542、0548、0552、0558、0568、0569 の 15 調査は、この年報をもって本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定または、既刊であり、刊行年度については各概要の文末に記載している。
- VI の各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。VI・付については文化財整備課が執筆した。
- 本書は濱石哲也が編集した。

表紙写真：元岡・桑原遺跡群第 42 次調査（調査番号 0451）

目 次

頁

I 平成 17 年度文化財部の組織と分掌事務	2
II 開発事前審査	3
III 発掘調査	14
IV 平成 17 年度発掘調査概要および報告	21
V 平成 17 年度刊行報告書一覧	126
VI 平成 17 年度福岡市新指定文化財	128
付 福岡県西方沖地震指定文化財災害復旧事業	130

I 平成 17 年度文化財部の組織と分掌事務

文化財部の組織と分掌事務

文化財部	54
文化財整備課	15
管理係（事7）	部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化施設の管理
整備係（文3事2）	文化財指定、史跡の保存・整備
主査（学1）	文化財調査等
主査（文1）	やきもの歴史館・文化財資料室開設準備
課長（鴻臚館跡調査担当）	2
主 査（文1）	鴻臚館跡の調査
埋蔵文化財課	25
調査第1係（文6）	課の庶務、早良区・城南区・西区に係る埋蔵文化財の発掘調査
主任文化財主事（文3）	
調査第2係（文7）	国庫補助事業及び南区・中央区・博多区・東区に係る埋蔵文化財の発掘調査
主任文化財主事（文3）	
事前審査係（文4）	公共及び民間開発事業の埋蔵文化財に係る事前調査
主任文化財主事（文1）	
課長（大規模事業等担当）	5
主 査（文4）	大規模事業埋蔵文化財の発掘調査
埋蔵文化財センター	6
運営係（文2事2）	施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示
主任文化財主事（文1）	

埋蔵文化財課の職員構成（職員はすべて文化財専門職）

◇埋蔵文化財課長	山口譲治
調査第1係長	山崎龍雄
係員（文化財主事）	加藤良彦 久住猛雄 田上勇一郎 阿部泰之 今井隆博（9月採用）
主任文化財主事	松村道博 杉山富雄 宮井善朗
調査第2係長	池崎謙二
係員（文化財主事）	屋山 洋 中村啓太郎 大塚紀宜 星野恵美 藏富士寛 赤坂 亨
主任文化財主事	小林義彦 吉武 学 荒牧宏行
事前審査係長	濱石哲也
係員（文化財主事）	本田浩二郎 松浦一之介 井上蘭子
主任文化財主事	吉留秀敏
◇課長（大規模事業等担当）	力武卓治
主 査	米倉秀紀
係員（文化財主事）	池田祐司 上角智希 木下博文

II 開発事前審査

1. 概 要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。分布地図には埋蔵文化財包蔵地の範囲を示し、その範囲内および隣接地（包蔵地範囲から外へ50mまで）の開発については埋蔵文化財確認の申請を求めている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を行っている。また個々の事業の実施にあたっては改めて申請を求めている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000m以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者、不動産取引関係者、一般市民等の文化財分布地図の閲覧や建築等の計画策定期階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

2. 平成17年度の事前審査

平成17年度の開発事業等に伴う事前審査件数は、公共事業781件（うち事業照会668件、17年度の申請件数113件）、民間事業1,257件の計2,038件であった（表1）。公民の比はおよそ4対6である。審査件数は平成12年度をピークに減少傾向をみせていたが、15年度は一転して増加に転じ、16年度はやや減少したもの、17年度はまた増加した。16年度に比べ公共事業は微増であったが、民間事業は50件増加し、件数としては事前審査開始以来最高となった（表2）。

なお、文化財保護法第93条による届出は798件（15年度687件、16年度754件）、第94条による通知は56件（15年度52件、16年度87件）となっている。

申請内容

公共事業113件の申請内容をみると、事業者は国省庁9件（8%）、福岡県4件（4%）、福岡市92件（81%）、都市再生機構・JRなどが8件（7%）、事業別では上下水道が36件（32%）、道路23件（20%）、学校15件（13%）、公民館等建物11件（10%）と続き、他は10件未満である。ちなみに事業照会では上下水道53%、道路20%、学校9%、他は3%未満である。

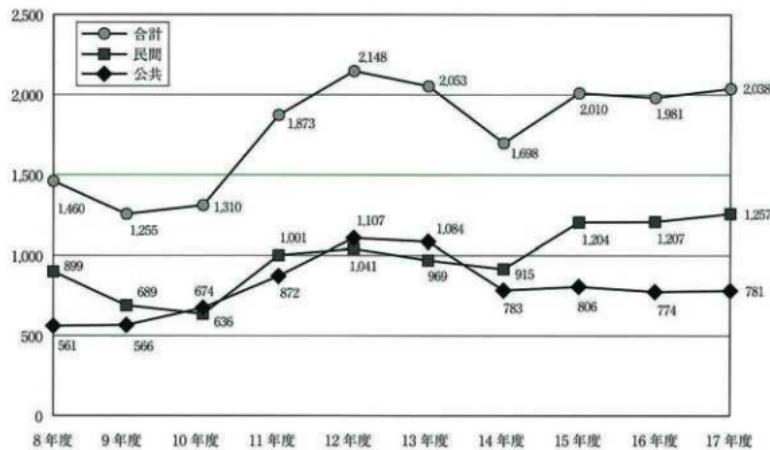
民間事業1,207件の申請内容は、申請者が個人466件（37%）、一般企業443件（35%）、個人事業者（26%）、法人等の民間事業者24件（2%）、事業別では個人住宅560件（45%）、共同住宅388件（31%）、これにその他の住宅をあわせると全体の77%を住宅建築で占めることになる。その次は事務所・社屋103件（8%）、店舗76件（6%）、土地取引等41件（3%）と続き、他は1%内外にとどまる。住宅建築はほぼ16年度と同じ割合であるが、事務所・社屋、店舗の増加が著しい。

申請地を区別に見ると、公共・民間ともにここ数年の傾向として都心部の博多区及び西部地区に偏る傾向がある。17年度（表3）も同様で、具体的には、博多区の342件（25%）が最も多く、早良区の284件（21%）、西区の269件（20%）、南区174件（13%）、城南区131件（10%）、東区133件（10%）、中央区が最も少なく37件（3%）となる。16年度と比べ早良・西区の増加がみられる。なお申請地のうち、約26%にあたる354件は埋蔵文化財包蔵地外（うち隣接地283件）であるが、隣接地の解除により割合・件数とも前年度より少なくなっている。

表1 平成8~17年度事前審査件数推移

事業	内訳	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
公共	事業照会審査件数	561	566	674	872	1,107	1,084	783	671	662	668
	申請件数								135	112	113
	審査件数計	561	566	674	872	1,107	1,084	783	806	774	781
民間	窓口照会件数					2,832	3,597	4,540	4,662	4,292	5,842
	FAX 照会件数								524	1,499	2,296
	照会件数計					2,832	3,597	4,540	4,662	4,816	7,341
申請（審査）件数	899	689	636	1,001	1,041	969	915	1,204	1,207	1,257	
公・民審査件数計	1,460	1,255	1,310	1,873	2,148	2,053	1,698	2,010	1,981	2,038	

表2 事前審査件数推移表



審査内容

次年度への継続(71件)および取り下げ(3件)を除いた公民合わせた1,296件の申請審査は、書類(897件、69%)、試掘(369件、28%)、踏査(34件、3%)で埋蔵文化財取り扱いの判断を行い、その結果、開発同意101件(8%)、慎重工事1,025件(79%)、工事立会71件(5%)、発掘調査93件(7%)、要協議(開発未定で遺跡有り)6件(1%)の回答を行った(表3)。発掘調査の回答はほぼ前年度並みであるが、慎重工事の割合が増加している。事業照会では、事業にあたって協議が必要なもの253件(包蔵地内177件、隣接地66件、その他10件)、協議が不用なもの415件(包蔵地外382件、包蔵地解除等33件)であった。

試掘調査

試掘調査(包蔵地内での確認調査、隣接地・包蔵地外での試掘調査を総称)は国庫補助を受けて実施しているが、試掘時期の関係等から事業者が重機を用意して行う場合もある。試掘件数は1申請に対し1件として扱いであり、面積等によっては1申請に対し複数回の調査を行う事もある。

17年度は公共事業38件、民間事業381件のあわせて419件(うち17年度申請分365件)について実施した(表4)。16年度に比べ54件の増加となった。これは民間事業が58件増加したことによるもので、公共事業は逆

表3 平成17年度事前審査内訳

区名	事業	審査種別(書類審査・現地踏査・試掘調査)でみた判断指示の結果																区別審査件数 照会件数 (註)		
		開発同意		慣重工事		工事立会		発掘調査		協議		審査		取り纏め		下げる				
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	公民別計	区計		
東	公共	4	0	4	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	15	106	
	民間	16	6	0	64	1	15	2	0	2	2	0	5	0	0	1	4	0	118	1,100
博多	公共	2	0	2	25	0	2	3	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	38	145
	民間	1	8	1	146	2	59	13	0	10	12	0	28	0	0	3	20	1	304	1,828
中央	公共	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	86
	民間	8	0	0	14	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	33	1,367
南	公共	0	0	1	4	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8	83
	民間	14	0	0	100	2	28	6	0	1	1	0	5	1	0	0	7	1	166	1,291
城南	公共	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	68
	民間	5	0	0	77	3	29	2	0	2	0	0	4	0	0	0	4	0	126	712
早良	公共	0	0	1	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	15	62
	民間	4	0	0	137	1	77	8	0	4	7	0	16	0	0	0	15	0	269	1,114
西	公共	3	0	0	10	0	7	5	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	28	116
	民間	18	0	1	151	8	36	7	0	3	2	0	5	0	0	1	9	0	241	938
小計	公共	11	0	8	51	3	15	8	0	0	2	0	4	0	0	0	10	1	113	668
	民間	66	14	2	689	17	250	41	0	22	24	0	63	1	0	5	61	2	1,257	1,370
合計		77	14	10	740	20	265	49	0	22	26	0	67	1	0	5	71	3	8,422	

(註) 照会の公共は事業照会件数、小計には市外の2件を含む。民間は窓口およびFAX照会の合計、小計には不明67件を含む。

に減少している。試掘件数では過去最高となった。事業別では共同住宅(150件)、個人住宅(102件)、社屋等住宅以外の建物(48件)の上位三事業で72%をしめ、その次は土地取引等に伴う38件が続く。他の事業は20件に満たない。区別では博多区118件(28%)、早良区111件(26%)、西区66件(16%)、南区43件(10%)、城南区40件(10%)、東区33件(8%)、中央区8件(2%)となり、早良区が16年度(58件)と比べ著しく増加している。従来の有田、西新・藤崎地区に加え、外環状道路沿線で共同住宅や店舗の建設が進んできたことによるものである。博多区は依然として、博多、比恵、那珂遺跡群での共同住宅等の開発が多い。なお、試掘地点は包蔵地内が347件(83%)、包蔵地外が73件(17%)となっている。

窓口等照会

民間業者等による窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は6,126件、ファックスでの照会は2,296件(民間照会あわせて8,422件)で、16年度に比べ増加率は落ちていたものの、件数としては1千件以上増加した。これは土地取引、土地評価等に際し、埋蔵文化財の有無の調査が確実に浸透したことによるものと考えられる。ちなみに照会を区別の割合でみると、多い順に博多区22%、中央区16%、南区15%、東区13%、早良区13%、西区11%、城南区8%となり、16年度とほぼ同様の傾向であり、また博多区以外は遺跡の多寡もあり必ずしも申請件数とつながらない。埋蔵文化財の周知化が一層進み、窓口等照会件数は増加の一途をたどっている。

3. 埋蔵文化財包蔵地の改訂

試掘調査や踏査、また発掘調査などに基づき、50遺跡(重複有り)で埋蔵文化財包蔵地の改訂を行った。新たに発見された遺跡はないが、都地遺跡と都地南遺跡を都地遺跡として統合した。またコノリ遺跡からコノリC遺跡を分離した。他は埋蔵文化財包蔵地の拡大・縮小、隣接地の解除を行った。

表4 試掘調査一覧

凡例：審査番号は年度（平成）-申請者種別（1公共 2民間）-申請者種別ごとの受付通し番号。有無は試掘で遭撲、遭物が確認されたもの○、なし×。指示の要協議は遭撲があったものの開発計画が未定のもの。発掘調査の数字は平成17年度に調査に入った道路の調査番号。発掘にあたっては新たに申請が行なわれる場合もあり、試掘と発掘の審査番号が一致するとは限らない。各区とも公共事業を先に置き、試掘調査日順に列べた。

東 区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
07-1-0050	馬出1丁目外	箱崎遺跡	土木局	区画整理	2005. 4. 5	○	発掘調査	6	0504
16-1-111	大字弘	弘遺跡、宮方遺跡	福岡県土木事務所	道路新設等	2005. 4. 26	○	慎重工事	24	
17-1-011	香椎駅前1丁目	元寇防塁	都市整備局	区画整理	2005. 6. 15	×	慎重工事	81	
17-1-019	三苦1丁目	包蔵地外	福岡財務支局	土地取引等	2005. 6. 29	×	包蔵地外	99	
17-1-002	香椎2丁目	香椎A遺跡群	国土交通省	道路	2005. 8. 8	○	発掘調査	151	
17-1-035	下原1丁目	塚ノ本遺跡隣接	福岡財務支局	土地取引等	2005. 9. 7	×	包蔵地外	181	
16-1-019	馬出6丁目	箱崎遺跡隣接	土木局	道路	2006. 1. 19	×	包蔵地外	343	
17-1-101	大字勝馬	中津宮遺跡隣接	教育委員会	学校施設	2006. 3. 29	×	包蔵地外	419	
17-2-0040	名島1丁目	名島城跡	個人	住宅兼事務所	2005. 5. 2	×	慎重工事	32	
16-2-0986	千早2丁目	名島城跡	社会福祉法人	保育園	2005. 5. 6	○	慎重工事	34	
17-2-0083	馬出6丁目	箱崎遺跡	個人	個人住宅	2005. 5. 23	○	発掘調査	57	
16-2-0983	青葉6丁目	土井遺跡群	個人	店舗地造成	2005. 5. 30	×	慎重工事	64	
17-2-0144	香椎3丁目	香椎B遺跡群	個人	土地取引等	2005. 6. 7	×	慎重工事	75	
16-2-1186	箱崎2丁目	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 6. 28	○	慎重工事	96	
17-2-0230	名子3丁目	名子遺跡	個人	共同住宅	2005. 7. 6	×	慎重工事	108	
17-2-0424	馬出5丁目	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 8. 26	×	慎重工事	167	
17-2-0270	箱崎3丁目	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2005. 9. 7	×	慎重工事	180	
17-2-0505	馬出1丁目	箱崎遺跡	個人	土地取引等	2005. 9. 13	×	慎重工事	186	
17-2-0556	蒲田3丁目	蒲田部木原遺跡群	個人	倉庫	2005. 9. 14	○	発掘調査	190	0556
17-2-0566	多々良1丁目	顕寺寺跡	個人	個人住宅	2005. 9. 26	×	慎重工事	202	
17-2-0721	馬出5丁目	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2005. 11. 2	○	要協議	257	
17-2-0351	箱崎1丁目	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2005. 11. 8	○	発掘調査	263	0559
17-2-0628	蒲田3丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	事務所	2005. 11. 8	○	慎重工事	262	
17-2-0715	香椎3丁目	香椎B遺跡群	一般業者	土地取引等	2005. 11. 17	×	慎重工事	278	
17-2-0911	蒲田2丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	倉庫	2006. 1. 11	○	発掘調査	331	
17-2-0684	大字勝馬	勝馬遺跡群	個人	個人住宅	2006. 1. 17	×	慎重工事	334	
17-2-0537	箱崎3丁目	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 1. 24	×	慎重工事	348	
17-2-1070	蒲田3丁目	蒲田部木原遺跡群	個人	倉庫	2006. 2. 16	○	発掘調査	376	
17-2-0978	大畠3丁目	大畠遺跡隣接	一般業者	土砂採取	2006. 2. 27	×	慎重工事	384	
17-2-1118	香椎2丁目	香椎E遺跡群	個人	土地取引等	2006. 2. 28	○	慎重工事	385	
17-2-1096	蒲田2丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	流通センター	2006. 3. 1	○	発掘調査	388	
17-2-1226	馬出4丁目	元寇防塁	社団法人	社屋	2006. 3. 22	×	慎重工事	411	
17-2-0010	香椎3丁目	香椎E遺跡群	個人	宅地造成	2006. 3. 31	×	慎重工事	422	

博多区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-1-1001	博多駅	包蔵地外(大洞遺跡)	J R九州	仮駅舎	2005. 6. 20	×	慎重工事	86	
17-1-022	板付6丁目	高畠遺跡	九州管区警察学校	合同教場	2005. 7. 12	○	慎重工事	119	
17-1-031	月隈6丁目	上月隈B遺跡	博多区	道路拡幅	2005. 7. 20	○	発掘調査	126	0536
17-1-034	諸岡5丁目	包蔵地外	J R九州	共同住宅	2005. 7. 28	×	包蔵地外	137	
17-1-070	吉塚本町	吉塚本町遺跡群	J R九州	商業ビル	2005. 10. 12	○	発掘調査	223	
17-1-079	諸岡3丁目	諸岡A遺跡群	財政局	土地取引等	2005. 10. 21	×	慎重工事	239	
16-2-1181	三筑2丁目	麦野B遺跡群	一般業者	事務所兼倉庫	2005. 4. 1	×	慎重工事	3	
16-2-1184	東雲町4丁目	田代C遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005. 4. 14	○	要協議	18	
16-2-1188	吉塚1丁目	堅船遺跡群	個人	共同住宅	2005. 4. 22	○	慎重工事	20	
16-2-1136	比恵町	比恵遺跡群	個人	事務所ビル	2005. 4. 22	×	慎重工事	21	
16-2-1189	吉塚1丁目	堅船遺跡群	個人	共同住宅	2005. 4. 22	○	慎重工事	20	
16-2-1194	那珂1丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2005. 4. 26	○	工事立会	25	
17-2-0028	博多駅南5丁目	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2005. 4. 26	×	慎重工事	26	
17-2-0004	東郡1丁目	東郡遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 4. 28	○	発掘調査	27	
17-2-0005	東郡1丁目	東郡遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 4. 28	○	発掘調査	28	0539

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-2-1191	竹下5丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2005. 5. 2	○	慎重工事	29	
17-2-0043	元町1丁目	南八幡遺跡群	個人	店舗	2005. 5. 2	○	発掘調査	30	0520
17-2-0026	麦野3丁目	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2005. 5. 2	○	慎重工事	31	
17-2-0030	青木1丁目	席田青木遺跡群	個人	共同住宅	2005. 5. 6	○	発掘調査	35	0527
17-2-0022	博多駅南4丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 5. 11	○	発掘調査	41	0522
17-2-0033	博多駅南4丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 5. 11	○	発掘調査	42	0532
17-2-0032	須崎町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 5. 11	○	発掘調査	43	0544
17-2-0091	諸岡6丁目	徳原遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 5. 16	×	慎重工事	45	
17-2-0053	井相田1丁目	井相田C遺跡群	一般業者	社屋建設	2005. 5. 17	○	発掘調査	48	0525
17-2-0064	東郷町2丁目	東郷町遺跡	個人	個人住宅	2005. 5. 23	×	慎重工事	55	
16-2-0944	麦野4丁目	麦野C遺跡群	個人	住宅兼店舗等	2005. 5. 26	×	慎重工事	60	
16-2-0952	三筑2丁目	三筑遺跡群接	個人	共同住宅	2005. 5. 26	×	慎重工事	61	
16-2-1126	那珂4丁目	那珂君体遺跡群	個人	共同住宅	2005. 6. 1	×	慎重工事	69	
17-2-0138	青木1丁目	席田青木遺跡群	個人	共同住宅	2005. 6. 3	○	慎重工事	73	
16-2-1113	店屋町	博多遺跡群	財団法人	共同住宅外	2005. 6. 16	○	発掘調査	103	0572
17-2-0181	東比恵3丁目	東比恵3丁目遺跡	一般業者	学校増築	2005. 6. 21	○	慎重工事	87	
17-2-0221	堅船5丁目	吉塚遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 6. 21	○	発掘調査	88	
16-2-1114	千代1丁目	堅船遺跡群	個人	共同住宅	2005. 6. 22	×	慎重工事	92	
17-2-0193	堅船5丁目	吉塚遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 6. 28	○	発掘調査	97	0545
17-2-0265	吉塚2丁目	吉塚祝町遺跡	一般業者	店舗増築	2005. 7. 3	×	慎重工事	104	
17-2-0154	三筑2丁目	三筑遺跡	個人	個人住宅	2005. 7. 5	×	慎重工事	106	
17-2-0245	竹下5丁目	那珂遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 7. 11	○	発掘調査	107	0550
17-2-0252	空港前5丁目	席田遺跡群	個人	宅地造成	2005. 7. 14	×	慎重工事	120	
17-2-0257	金隈1丁目	金隈遺跡	個人	土地取引等	2005. 7. 14	○	要協議	121	
17-2-0293	西春町1丁目	中ノ原遺跡	個人	診療所	2005. 7. 21	×	慎重工事	128	
17-2-0330	西春町3丁目	中ノ原遺跡	個人	共同住宅	2005. 7. 28	×	慎重工事	138	
17-2-0378	吉塚3丁目	吉塚遺跡群接	一般業者	社屋	2005. 7. 28	×	慎重工事	139	
17-2-0388	祇園町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 8. 17	×	慎重工事	157	
17-2-0402	金隈1丁目	金隈遺跡	個人	共同住宅	2005. 8. 18	○	慎重工事	158	
17-2-0403	祇園町	博多遺跡群	個人	貸ビル	2005. 8. 18	○	発掘調査	159	
17-2-0405	麦野1丁目	麦野A遺跡群	個人	土地取引等	2005. 8. 18	○	要協議	160	
17-2-0440	堅船4丁目	吉塚遺跡群	一般業者	私道	2005. 8. 24	×	慎重工事	165	
17-2-0431	竹下5丁目	那珂遺跡群	一般業者	土地取引等	2005. 8. 26	○	要協議	166	
17-2-0037	金隈2丁目	影ヶ浦遺跡群接	個人	個人住宅	2005. 8. 30	×	慎重工事	171	
17-2-0481	須崎町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2005. 9. 7	○	工事立会	189	
17-2-0561	諸岡2丁目	諸岡B遺跡群	一般業者	擁壁	2005. 9. 13	×	慎重工事	188	
17-2-0562	竹下5丁目	那珂遺跡群	一般業者	土地取引等	2005. 9. 13	○	要協議	187	
17-2-0416	堅船4丁目	吉塚遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9. 15	○	発掘調査	193	
17-2-0499	元町2丁目	南八幡遺跡群接	個人	事務所ビル	2005. 9. 16	×	慎重工事	195	
17-2-0488	麦野4丁目	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9. 20	○	慎重工事	197	
17-2-0524	那珂2丁目	那珂遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 9. 20	○	発掘調査	198	
17-2-0521	麦野3丁目	麦野A遺跡群	個人	共同住宅	2005. 9. 27	○	慎重工事	203	
17-2-0340	竹丘1丁目	南八幡遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9. 30	×	慎重工事	209	
17-2-0502	博多駅南5丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 10. 4	○	慎重工事	210	
14-2-0288	冷泉町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2005. 10. 4	○	慎重工事	211	
17-2-0622	博多駅南5丁目	比恵遺跡群	一般業者	住宅兼店舗	2005. 10. 6	○	慎重工事	217	
17-2-0279	祇園町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2005. 10. 6	○	発掘調査	214	0551
17-2-0563	寿町2丁目	南八幡遺跡群	個人	共同住宅	2005. 10. 6	○	慎重工事	215	
17-2-0613	吉塚2丁目	吉塚祝町遺跡	一般業者	住宅兼事務所	2005. 10. 11	○	発掘調査	219	
17-2-0253	竹下2丁目	比恵遺跡群接	一般業者	共同住宅	2005. 10. 11	×	慎重工事	220	
17-2-0550	千代1丁目	吉塚本町遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 10. 11	×	慎重工事	221	
17-2-0039	博多駅南3丁目	比恵遺跡群接	個人	共同住宅	2005. 10. 19	×	慎重工事	231	
17-2-0670	博多駅南4丁目	比恵遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10. 19	×	慎重工事	232	0548
17-2-0628	網町場	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 10. 20	○	発掘調査	234	
17-2-0665	立花寺2丁目	立花寺遺跡群	一般業者	電話鉄塔	2005. 10. 25	×	慎重工事	243	
17-2-0525	店屋町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 10. 26	○	発掘調査	245	0564
17-2-0693	堅船5丁目	吉塚遺跡群	個人	共同住宅	2005. 10. 26	○	発掘調査	246	0555
17-2-0673	諸岡3丁目	諸岡A遺跡群接	一般業者	共同住宅	2005. 10. 26	○	慎重工事	247	
17-2-0711	吉塚1丁目	堅船遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 11. 1	×	慎重工事	256	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-2-0533	網場町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11. 4	○	発掘調査	259	
17-2-0235	博多駅南 3 丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11. 4	×	慎重工事	260	
17-2-0703	博多駅南 5 丁目	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2005.11. 4	×	慎重工事	258	
17-2-0659	井相田 2 丁目	井相田 C 遺跡群	一般業者	土地取引等	2005.11.17	○	発掘調査	279	
17-2-0705	中呉服町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11.17	○	発掘調査	277	
17-2-0732	銀天町 2 丁目	麦野 C 遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11.24	×	慎重工事	285	
17-2-0792	網場町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11.24	○	発掘調査	287	
17-2-0761	麦野 5 丁目	麦野 A 遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11.25	○	工事立会	291	
17-2-0784	奈良屋町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11.25	○	慎重工事	292	
17-2-0762	麦野 5 丁目	麦野 A 遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.11.25	○	工事立会	291	
17-2-0834	諸岡 3 丁目	諸岡 A 遺跡群隣接	一般業者	老人ホーム	2005.12. 5	×	慎重工事	294	
17-2-0865	吉塚 3 丁目	吉塚遺跡群	個人	共同住宅	2005.12. 7	×	慎重工事	301	
17-2-0845	空港前 3 丁目	上臼井遺跡群隣接	個人	個人兼共同住宅	2005.12. 8	×	慎重工事	304	
17-2-0884	山王 1 丁目	那珂遺跡群	個人	個人兼共同住宅	2005.12. 8	○	発掘調査	306	
17-2-0821	博多駅南 4 丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.12.15	×	慎重工事	317	
17-2-0855	東光寺町 2 丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2005.12.15	○	発掘調査	318	
17-2-0814	比恵町	比恵遺跡群	個人	店舗	2005.12.15	○	慎重工事	315	
17-2-0843	博多駅南 5 丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.12.15	○	発掘調査	316	0570
17-2-0908	東那珂 1 丁目	東那珂遺跡	一般業者	共同住宅	2005.12.19	○	慎重工事	319	
17-2-0922	東平尾 2 丁目	久保園遺跡	一般業者	看板	2005.12.22	○	慎重工事	324	
17-2-0804	那珂 2 丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2005.12.22	×	慎重工事	326	
17-2-0014	吉塚 1 丁目	吉塚祝町遺跡	個人	個人住宅	2005.12.22	○	慎重工事	328	
17-2-0806	吉塚 3 丁目	吉塚遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005.12.22	×	慎重工事	329	
17-2-0915	諸岡 2 丁目	諸岡 B 遺跡群隣接	個人	共同住宅	2006. 1.11	×	慎重工事	332	
17-2-0938	那珂 3 丁目	那珂遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 1.18	○	発掘調査	339	
17-2-0996	那珂 3 丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2006. 1.18	×	慎重工事	340	
17-2-0794	山王 2 丁目	山王遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 1.26	○	発掘調査	353	0571
17-2-0793	山王 2 丁目	山王遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 1.26	○	発掘調査	353	
17-2-0962	東比恵 2 丁目	東比恵三丁目遺跡近接	一般業者	共同住宅	2006. 1.26	×	包蔵地外	354	
17-2-1038	吉塚 3 丁目	吉塚遺跡群隣接	個人	共同住宅	2006. 2.15	×	慎重工事	374	
17-2-0976	榎田 1 丁目	榎田遺跡群	一般業者	事務所	2006. 2.16	×	慎重工事	377	
17-2-1049	古門戸町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 2.23	○	発掘調査	381	
17-2-1067	那珂 1 丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2006. 2.23	○	慎重工事	382	
17-2-1050	祇園町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 3. 7	○	慎重工事	393	
17-2-1107	住吉 2 丁目	住吉神社遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2006. 3. 7	×	慎重工事	395	
17-2-1069	奈良屋町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2006. 3. 9	○	慎重工事	397	
17-2-1130	東那珂 1 丁目	東那珂遺跡	一般業者	ゴルフ場	2006. 3. 9	○	慎重工事	399	
17-2-1190	那珂 1 丁目	那珂遺跡群	一般業者	宅地造成	2006. 3.10	×	慎重工事	400	
17-2-1165	下呉服町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 3.16	×	慎重工事	405	
17-2-1203	吉塚 3 丁目	吉塚遺跡群	個人	土地取引等	2006. 3.16	○	発掘調査	407	
17-2-1161	奈良屋町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 3.22	×	慎重工事	409	
17-2-1129	中呉服町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 3.22	×	慎重工事	410	
17-2-1148	麦野 3 丁目	麦野 A 遺跡群	一般業者	個人住宅	2006. 3.28	×	慎重工事	418	
17-2-1137	寿町 2 丁目	南八幡遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 3.28	○	発掘調査	417	

中央区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-1-056	今川 2 丁目	鳥飼遺跡	土木局	道路	2006. 3.15	○	慎重工事	404	
16-2-0921	天神 2 丁目	福岡城肥前櫓	一般業者	商業ビル	2005. 4.19	○	発掘調査	19	0514
17-2-0223	大濠 2 丁目	福岡城長土手跡	一般業者	共同住宅	2005. 6.30	×	包蔵地外	100	
17-2-0344	警固 2 丁目	茶白山古墳	一般業者	学校施設	2005. 8.23	×	慎重工事	164	
17-2-0407	地行 2 丁目	元寇防壘	一般業者	共同住宅	2005. 8.23	×	慎重工事	162	
17-2-0709	大濠 1 丁目	福岡城長土手跡	一般業者	土地取引等	2005. 11. 8	×	慎重工事	264	
17-2-0869	唐人町 3 丁目	元寇防壘	宗教法人	寺院創建	2005. 12. 6	×	慎重工事	296	
17-2-1033	赤坂 2 丁目	福岡城跡	一般業者	共同住宅	2006. 2.23	○	慎重工事	380	

南区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-1-047	横手2丁目	寺島遺跡群隣接	JR九州	共同住宅	2005.8.31	×	包蔵地外	174	
17-1-068	野多目2丁目	野多目B遺跡群	市民局	公民館	2005.10.21	×	慎重工事	238	
17-1-087	五十川2丁目	五十川遺跡群	消防局	消防施設	2006.1.25	○	発掘調査	352	
16-2-1162	桧原3丁目	桧原遺跡群	個人	個人住宅	2005.4.1	×	慎重工事	2	
16-2-1052	井尻1丁目	井尻B遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2005.4.1	○	慎重工事	1	
16-2-1185	臼佐3丁目	弥永原遺跡群	学校法人	学校施設	2005.4.5	○	発掘調査	5	
17-2-0080	弥永3丁目	警跡郷B遺跡群	個人	土地取引等	2005.5.16	○	要協議	46	
17-2-0050	野多目2丁目	野多目B遺跡群	一般業者	老人ホーム	2005.5.17	×	慎重工事	47	
16-2-1168	井尻5丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2005.5.19	×	慎重工事	51	
17-2-0086	和田3丁目	三宅B遺跡	個人	個人住宅	2005.5.20	×	慎重工事	54	
16-2-0776	臼佐3丁目	弥永原遺跡群	個人	共同住宅	2005.5.23	○	発掘調査	56	
17-2-0098	井尻1丁目	井尻B遺跡群	個人	土地取引等	2005.5.23	○	要協議	58	
17-2-0122	五十川2丁目	五十川遺跡群	個人	共同住宅	2005.5.31	○	発掘調査	65	
16-2-1446	大橋1丁目	大橋E遺跡群隣接	一般業者	店舗	2005.6.3	×	慎重工事	72	
17-2-0103	柏原1丁目	花畠A遺跡群	一般業者	老人ホーム	2005.6.7	×	慎重工事	76	
17-2-0145	筑紫丘2丁目	大橋A遺跡群隣接	一般業者	宅地造成	2005.6.14	×	慎重工事	77	
17-2-0211	中尾3丁目	屋形原遺跡	一般業者	事務所	2005.6.21	×	慎重工事	89	
17-2-0116	三宅2丁目	三宅B遺跡	個人	共同住宅	2005.6.22	○	慎重工事	91	
17-2-0267	横手南町	笠抜遺跡	個人	個人住宅	2005.7.7	×	慎重工事	109	
17-2-0189	野間3丁目	中村町遺跡	一般業者	店舗	2005.7.14	○	慎重工事	122	
17-2-0415	三宅3丁目	三宅C遺跡	一般業者	共同住宅	2005.8.23	×	慎重工事	163	
17-2-0443	南大橋1丁目	三宅遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.8.26	×	慎重工事	168	
17-2-0441	横手3丁目	横手遺跡群	個人	土地取引等	2005.8.30	×	慎重工事	170	
17-2-0496	野間2丁目	野間A遺跡	個人	社員寮	2005.9.1	×	慎重工事	178	
17-2-0635	井尻3丁目	笠原遺跡群	個人	個人住宅	2005.9.5	×	慎重工事	179	
17-2-0516	野間4丁目	中村町遺跡	個人	共同住宅	2005.9.15	×	慎重工事	191	
17-2-0573	臼佐3丁目	弥永原遺跡群	個人	共同住宅	2005.9.20	×	慎重工事	196	
17-2-0576	野間4丁目	中村町遺跡隣接	一般業者	土地取引等	2005.10.6	×	包蔵地外	216	
17-2-0601	南大橋1丁目	三宅A遺跡	個人	共同住宅	2005.10.20	○	慎重工事	233	
17-2-0624	臼佐4丁目	臼佐遺跡群	個人	個人住宅	2005.11.1	×	慎重工事	254	
17-2-0830	柳瀬1丁目	弥永原遺跡群	個人	個人住宅	2005.11.22	○	慎重工事	284	
17-2-0748	野多目2丁目	野多目D遺跡群隣接	一般業者	老人ホーム	2005.11.24	×	慎重工事	286	
17-2-0774	中尾3丁目	屋形原遺跡	個人	共同住宅	2005.11.25	×	慎重工事	293	
17-2-0831	五十川1丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2005.12.8	○	発掘調査	305	0558
17-2-0851	臼佐3丁目	弥永原遺跡群	個人	共同住宅	2005.12.13	○	発掘調査	310	
17-2-0850	柏原5丁目	大平寺遺跡群隣接	一般業者	宅地造成	2005.12.22	×	慎重工事	327	
17-2-0946	南大橋2丁目	和田桑池遺跡	一般業者	共同住宅	2006.1.18	×	慎重工事	341	
17-2-0974	弥永3丁目	警跡郷B遺跡群	個人	宅地造成	2006.1.26	×	慎重工事	355	
17-2-1006	弥永3丁目	警跡郷B遺跡群	個人	宅地造成	2006.1.26	○	発掘調査	356	
17-2-1034	高宮5丁目	高宮B遺跡隣接	一般業者	個人住宅兼医院	2006.2.15	○	慎重工事	375	
17-2-1088	大橋4丁目	大橋E遺跡群	個人	共同住宅	2006.3.7	×	慎重工事	394	
17-2-1144	弥永4丁目	警跡郷B遺跡群	一般業者	土地取引等	2006.3.9	○	発掘調査	398	
17-2-1003	野多目2丁目	野多目B遺跡群隣接	一般業者	ガソリンスタンド	2006.3.16	○	慎重工事	406	

城南区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-1-083	七隈6丁目	飯倉F遺跡群	都市整備局	公園	2005.11.1	○	発掘調査	253	
17-2-0034	飯倉1丁目	飯倉B遺跡群	一般業者	駐車場	2005.4.12	×	慎重工事	14	
16-2-1141	飯倉1丁目	飯倉B遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.4.12	×	慎重工事	13	
16-2-1159	七隈6丁目	飯倉E遺跡群	個人	個人住宅	2005.4.22	×	慎重工事	22	
16-2-1115	田島2丁目	田島A遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005.5.6	×	慎重工事	33	
17-2-0071	七隈6丁目	飯倉F遺跡群隣接	個人	宅地造成	2005.5.10	×	慎重工事	38	
16-2-1160	別府6丁目	茶山遺跡	個人	個人住宅	2005.5.31	×	慎重工事	67	
17-2-0158	七隈3丁目	飯倉D遺跡群	個人	共同住宅	2005.6.16	○	工事立会	85	
17-2-0229	鴨井川3丁目	鴨井川A遺跡群	個人	スポーツ施設	2005.7.7	×	慎重工事	112	
17-2-0256	別府5丁目	別府遺跡隣接	個人	給油所	2005.7.8	×	慎重工事	113	
17-2-0232	七隈3丁目	飯倉D遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005.7.12	○	慎重工事	118	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-2-0282	田島1丁目	田島A遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005. 7.21	×	慎重工事	129	
16-2-1187	茶山5丁目	茶山遺跡	個人	土地取引等	2005. 8. 2	×	慎重工事	142	
17-2-0284	片江1丁目	片江B遺跡群	個人	土地取引等	2005. 8. 2	○	要議議	143	
17-2-0426	七隈1丁目	飯倉B遺跡群	個人	共同住宅	2005. 8. 8	×	慎重工事	149	
17-2-0334	梅林3丁目	飯倉F遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005. 8. 8	×	慎重工事	150	
17-2-0492	田島1丁目	田島A遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2005. 8.30	×	慎重工事	172	
17-2-0468	南片江4丁目	烏越古墳群C群隣接	個人	個人住宅	2005. 9. 8	×	慎重工事	185	
17-2-0546	別府5丁目	別府遺跡群隣接	個人	校舎建設	2005. 9.22	○	慎重工事	200	
17-2-0578	茶山6丁目	茶山遺跡	個人	個人住宅	2005. 10. 4	×	慎重工事	212	
17-2-0515	茶山1丁目	茶山遺跡	個人	個人住宅	2005. 10. 6	×	慎重工事	218	
17-2-0669	片江3丁目	片江A遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10.14	×	慎重工事	227	
17-2-0655	樋井川2丁目	長尾遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10.18	×	慎重工事	230	
17-2-0596	千隈2丁目	飯倉G遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005. 10.25	×	慎重工事	241	
17-2-0598	大字梅林	駄ヶ原古墳群A群隣接	一般業者	個人住宅	2005. 10.27	×	慎重工事	248	
17-2-0528	荒江1丁目	飯倉B遺跡群	個人	共同住宅	2005. 11. 1	○	発掘調査	252	0552
17-2-0666	七隈1丁目	飯倉B遺跡群	個人	土地取引等	2005. 11. 4	×	慎重工事	261	
17-2-0799	七隈2丁目	飯倉B遺跡群	個人	個人住宅	2005. 11.16	×	慎重工事	275	
17-2-0741	梅林4丁目	梅林遺跡	個人	個人住宅	2005. 11.16	×	慎重工事	276	
17-2-0653	神松寺2丁目	片江B遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2005. 11.22	×	慎重工事	281	
17-2-0734	茶山6丁目	茶山遺跡	個人	土地取引等	2005. 11.22	×	慎重工事	283	
17-2-0752	七隈2丁目	飯倉C遺跡群	個人	個人住宅	2005. 11.29	×	慎重工事	289	
17-2-0885	七隈2丁目	飯倉B遺跡群	個人	個人住宅	2005. 12.14	×	慎重工事	311	
17-2-0878	樋井川1丁目	長尾遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2005. 12.21	×	慎重工事	321	
17-2-0848	梅林5丁目	クエノ遺跡	個人	個人住宅	2006. 1.24	○	発掘調査	349	
17-2-0941	七隈3丁目	飯倉C遺跡群隣接	一般業者	土地取引等	2006. 1.31	×	慎重工事	357	
17-2-0958	荒江1丁目	飯倉B遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 2. 7	×	慎重工事	365	
17-2-0983	梅林5丁目	飯倉H遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 2. 7	×	慎重工事	366	
17-2-1043	別府6丁目	茶山遺跡	個人	土地取引等	2006. 2. 14	×	慎重工事	371	
17-2-1149	梅林4丁目	梅林遺跡	個人	土地取引等	2006. 3.14	○	発掘調査	402	

早良区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-1-004	飯倉4丁目	原東遺跡群	教育委員会	学校施設改築	2005. 5.18	×	慎重工事	50	
17-1-005	小田部3丁目	有田遺跡群	教育委員会	学校改築	2005. 5.18	×	慎重工事	49	
17-1-006	大字脇山	脇山A遺跡群	教育委員会	学校施設	2005. 7.27	×	慎重工事	136	
16-1-108	原7丁目	原遺跡群	市民局	公民館	2005. 8. 5	×	慎重工事	147	
15-1-085	重留6丁目	重留村下遺跡群	早良区	道路	2005. 8.30	×	慎重工事	169	
16-1-082	内野8丁目	広瀬遺跡	土木局	道路	2005. 11.22	○	慎重工事	280	
17-1-066	有田3丁目	有田遺跡群近接	県教育庁	高校校舎	2006. 2. 1	×	包藏地外	360	
15-2-0373	四箇6丁目	四箇東・西八郎丸遺跡群	社会福祉法人	老人福祉施設	2005. 4. 5	○	慎重工事	4	
16-2-1175	有田3丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 4. 7	×	慎重工事	7	
16-2-1143	野芥2丁目	野芥遺跡群	個人	共同住宅	2005. 4. 8	○	発掘調査	10	0505
16-2-0820	飯倉2丁目	飯倉A遺跡群	個人	住宅兼医院	2005. 4.12	×	慎重工事	11	
16-2-1180	有田1丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 4.13	○	発掘調査	16	0508
16-2-1202	飯倉6丁目	飯倉C遺跡群	一般業者	宅地造成	2005. 5.13	×	慎重工事	37	
16-2-1051	小田部5丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 5.13	○	発掘調査	44	0519
17-2-0070	脇山1丁目	脇山城／原遺跡	一般業者	老人施設造成	2005. 5.19	○	発掘調査	52	
17-2-0090	野芥5丁目	山崎古墳群C群	個人	個人住宅	2005. 5.19	×	慎重工事	53	
17-2-0106	西入部2丁目	安通遺跡群	一般業者	電話鉄塔	2005. 6. 3	×	慎重工事	74	
17-2-0210	梅林6丁目	クエノ遺跡	個人	個人住宅	2005. 6.14	○	発掘調査	78	
17-2-0188	梅林4丁目	梅林遺跡	個人	スポーツ施設	2005. 6.14	×	慎重工事	79	
17-2-0217	小田部2丁目	有田遺跡群	個人	倉庫	2005. 6.15	○	慎重工事	80	
17-2-0165	小田部5丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 6.23	×	慎重工事	95	
17-2-0214	四箇6丁目	四箇遺跡群	一般業者	老人ホーム	2005. 6.30	×	慎重工事	102	
17-2-0199	小田部2丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 6.30	○	慎重工事	101	
17-2-0135	小田部1丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2005. 7. 7	×	慎重工事	110	
17-2-0246	四箇4丁目	四箇古川遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005. 7. 7	○	慎重工事	111	
16-2-0927	次郎丸4丁目	次郎丸遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005. 7.11	×	慎重工事	115	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-2-0308	重留 5 丁目	古田 B 遺跡群接	個人	老人ホーム	2005. 7.12	○	慎重工事	117	
17-2-0240	西新 5 丁目	西新町遺跡	個人	共同住宅	2005. 7.19	○	発掘調査	123	0543
17-2-0133	早良 1 丁目	内野熊山遺跡群	個人	共同住宅	2005. 7.19	×	慎重工事	124	
17-2-0314	賀茂 2 丁目	野芥大軒遺跡	個人	個人住宅	2005. 7.26	×	慎重工事	131	
17-2-0203	内野 8 丁目	広瀬遺跡	個人	店舗	2005. 7.26	×	慎重工事	132	
17-2-0263	小田部 5 丁目	有田遺跡群	個人	住宅兼店舗	2005. 7.26	×	慎重工事	133	
17-2-0391	有田 1 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 7.28	○	発掘調査	140	0542
17-2-0361	小田部 1 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 8. 2	×	慎重工事	141	
17-2-0278	藤崎 1 丁目	藤崎遺跡	個人	共同住宅	2005. 8. 4	○	発掘調査	144	
17-2-0302	有田 3 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 8. 4	×	慎重工事	145	
17-2-0326	東入部 6 丁目	東入部道路群	一般業者	遊技場	2005. 8. 4	○	発掘調査	146	
17-2-0354	田村 2 丁目	田村遺跡群	個人	宅地造成	2005. 8.11	×	慎重工事	153	
17-2-0353	次郎丸 5 丁目	次郎丸道路群接	個人	宅地造成	2005. 8.11	×	慎重工事	154	
17-2-0355	次郎丸 5 丁目	次郎丸道路群接	一般業者	宅地造成	2005. 8.11	×	慎重工事	155	
17-2-0428	重留 6 丁目	重留村下遺跡群	一般業者	共同住宅	2005. 8.17	×	慎重工事	156	
17-2-0117	高取 2 丁目	藤崎遺跡	個人	共同住宅	2005. 8.22	×	慎重工事	161	
17-2-0385	次郎丸 1 丁目	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2005. 8.30	○	慎重工事	173	
17-2-0215	野芥 6 丁目	野芥遺跡群接	個人	個人住宅	2005. 9. 1	×	慎重工事	177	
17-2-0457	原 6 丁目	原遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9. 1	○	慎重工事	175	
17-2-0462	有田 2 丁目	有田遺跡群	一般業者	個人住宅	2005. 9. 1	×	慎重工事	176	
17-2-0450	野芥 4 丁目	野芥遺跡群	一般業者	老人ホーム	2005. 9. 8	×	慎重工事	182	
17-2-0561	梅林 7 丁目	クエゾノ遺跡	個人	個人住宅	2005. 9. 8	×	慎重工事	183	
17-2-0494	原 6 丁目	原遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9.15	○	発掘調査	192	
17-2-0513	小田部 2 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9.15	○	慎重工事	194	
17-2-0512	重留 5 丁目	重留村下遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9.22	×	慎重工事	199	
17-2-0589	原 5 丁目	原遺跡群	一般業者	倉庫	2005. 9.28	○	慎重工事	205	
17-2-0241	有田 1 丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2005. 9.28	○	発掘調査	207	0549
17-2-0610	有田 2 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9.28	○	工事立会	208	
17-2-0592	有田 2 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10.12	×	慎重工事	222	
17-2-0420	田村 4 丁目	田村遺跡群	個人	宅地造成	2005. 10.13	×	慎重工事	226	
17-2-0504	飯倉 4 丁目	原東遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10.18	×	慎重工事	228	
17-2-0605	重留 5 丁目	重留古墳群 G 群接	個人	個人住宅	2005. 10.18	×	慎重工事	229	
17-2-0644	西新 5 丁目	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 10.20	○	慎重工事	237	
17-2-0679	小田部 1 丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10.25	×	慎重工事	242	
17-2-0698	西新 7 丁目	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 10.26	×	慎重工事	244	
17-2-0606	藤崎 1 丁目	藤崎遺跡	一般業者	個人住宅	2005. 10.27	○	慎重工事	249	
17-2-0656	野芥 2 丁目	野芥遺跡群	一般業者	土地取引等	2005. 10.27	○	要協議	250	0568
17-2-0710	賀茂 3 丁目	免遺跡群	個人	個人住宅	2005. 10.28	○	慎重工事	251	
17-2-0766	田原 2 丁目	田原遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 11. 9	×	慎重工事	265	
17-2-0697	田村 5 丁目	田村遺跡群接	個人	個人住宅	2005. 11.10	×	慎重工事	266	
17-2-0672	原 6 丁目	原遺跡群	一般業者	葬祭場	2005. 11.10	○	発掘調査	267	
17-2-0719	有田 1 丁目	有田遺跡群	一般業者	個人住宅	2005. 11.15	○	発掘調査	270	0557
17-2-0671	飯倉 4 丁目	原東遺跡群	個人	個人住宅	2005. 11.15	×	慎重工事	271	
17-2-0629	有田 1 丁目	有田遺跡群	一般業者	個人住宅	2005. 11.15	○	慎重工事	272	
17-2-0728	次郎丸 1 丁目	次郎丸高石遺跡接	個人	共同住宅	2005. 11.22	×	慎重工事	282	
17-2-0756	野芥 5 丁目	野芥大軒遺跡群	個人	個人住宅	2005. 11.29	×	慎重工事	290	
17-2-0686	野芥 1 丁目	野芥遺跡群接	一般業者	老人ホーム	2005. 12. 1	○	慎重工事	295	
17-2-0841	高取 1 丁目	藤崎遺跡	個人	個人住宅	2005. 12. 8	○	慎重工事	303	
17-2-0729	高取 1 丁目	藤崎遺跡	個人	個人住宅	2005. 12. 8	○	慎重工事	302	
17-2-0735	飯倉 5 丁目	飯倉 B 遺跡群	個人	共同住宅	2005. 12.12	○	発掘調査	307	0561
17-2-0829	梅林 6 丁目	クエゾノ遺跡	一般業者	土地取引等	2005. 12.13	×	慎重工事	308	
17-2-0824	藤崎 1 丁目	藤崎遺跡	個人	共同住宅	2005. 12.13	○	慎重工事	309	
17-2-0892	大字鷲山	鷲山 A 遺跡群	一般業者	拂帯電話基地局	2005. 12.14	×	慎重工事	312	
17-2-0817	賀茂 1 丁目	免遺跡群	個人	個人住宅	2005. 12.14	×	慎重工事	313	
17-2-0876	内野 5 丁目	内野遺跡群接	一般業者	福祉施設	2005. 12.21	×	慎重工事	322	
17-2-0854	飯倉 5 丁目	飯倉 C 遺跡群	一般業者	分譲住宅	2005. 12.21	×	慎重工事	323	
17-2-0212	西新 7 丁目	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	2005. 12.22	×	慎重工事	325	
17-2-0901	飯倉 2 丁目	原東遺跡群接	個人	共同住宅	2005. 12.22	×	慎重工事	330	
17-2-0621	有田 1 丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2006. 1.17	×	慎重工事	336	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-2-0940	野芥2丁目	野芥遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 1.17	○	慎重工事	337	
17-2-0921	梅林7丁目	中尾北遺跡	一般業者	分譲住宅	2006. 1.18	×	慎重工事	342	
17-2-0835	飯倉4丁目	原遺跡群隣接	個人	共同住宅	2006. 1.19	×	慎重工事	347	
17-2-0995	藤崎1丁目	藤崎遺跡	一般業者	看板	2006. 1.24	○	発掘調査	350	
17-2-0907	藤崎1丁目	藤崎遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 1.24	○	発掘調査	350	
17-2-0963	南庄3丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2006. 1.31	○	慎重工事	359	
17-2-0969	有田2丁目	有田遺跡群隣接	個人	個人住宅	2006. 2. 2	×	慎重工事	361	
17-2-0970	有田1丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2006. 2. 2	×	慎重工事	362	
17-2-0977	有田7丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 2. 2	×	慎重工事	363	
17-2-0972	原7丁目	原遺跡群	個人	個人住宅	2006. 2. 9	×	慎重工事	367	
17-2-0759	賀茂2丁目	免造跡群	個人	共同住宅	2006. 2. 9	×	慎重工事	369	
17-2-0966	有田3丁目	有田遺跡群隣接	個人	共同住宅	2006. 2.14	×	慎重工事	372	
17-2-1035	飯倉2丁目	飯倉A遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2006. 2.21	×	慎重工事	378	
17-2-1024	西新6丁目	元寇防塁	一般業者	大学施設	2006. 2.28	○	要協議	386	
17-2-0997	藤崎1丁目	藤崎遺跡	個人	個人住宅	2006. 2.28	×	慎重工事	387	
17-2-1062	重留6丁目	重留村下遺跡群	個人	共同住宅	2006. 3. 2	○	発掘調査	389	
17-2-1095	南庄3丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2006. 3. 2	×	慎重工事	391	
17-2-1071	小田部2丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 3. 6	×	慎重工事	392	
17-2-1079	大字石釜	新町遺跡	個人	病院	2006. 3. 7	×	慎重工事	396	
17-2-1114	小田部5丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 3.14	○	発掘調査	401	
17-2-1142	有田7丁目	有田遺跡群	個人	私道	2006. 3.14	×	慎重工事	403	
17-2-1105	次郎丸1丁目	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2006. 3.23	○	発掘調査	414	
17-2-1207	次郎丸6丁目	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2006. 3.23	×	慎重工事	415	
17-2-1136	田隈2丁目	田隈遺跡	個人	個人住宅	2006. 3.24	×	慎重工事	416	
17-2-1197	次郎丸4丁目	次郎丸高石遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 3.30	×	慎重工事	421	
17-2-1186	西新5丁目	西新町遺跡	個人	共同住宅	2006. 3.30	○	発掘調査	420	

西 区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
13-1-233	今宿町	大塚遺跡、今宿五郎江遺跡	都市整備局	区画整理	2005. 5.26	○	発掘調査	62	0528-0531
16-1-100	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	土木局	道路拡幅	2005. 5.30	○	発掘調査	63	0538
17-1-020	生の松原3丁目	生の松原遺跡	福岡財務支局	土地取引等	2005. 6.22	×	慎重工事	90	
17-1-064	上山門1丁目	拾六町ファジ遺跡	市民局	公民館	2005. 9.27	○	慎重工事	204	
10-1-083	大字吉武	郡地遺跡隣接	農林水産局	圃場整備	2005. 11. 1	×	包蔵地外	255	
17-1-233	今宿町	女原遺跡群外	都市整備局	区画整理	2005. 11.14	×	慎重工事	273	
17-1-084	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	土木局	道路	2006. 1.11	×	慎重工事	333	
17-1-085	周船寺1丁目	周船寺遺跡群	土木局	道路	2006. 1.19	○	(継続)	344	
16-1-077	今宿駅前1丁目	今宿遺跡群	土木局	道路	2006. 1.25	×	慎重工事	351	
17-1-075	戸切2丁目	戸切遺跡群	建築局	共同住宅	2006. 2.13	○	慎重工事	370	
17-1-074	戸切3丁目	戸切遺跡群	建築局	共同住宅	2006. 2.23	○	発掘調査	383	
13-1-233	今宿町	女原遺跡群隣接	都市整備局	区画整理	2006. 3.22	○	発掘調査	412	
16-2-1179	下山門2丁目	下山門乙女田遺跡隣接	一般業者	土地取引等	2005. 4. 7	×	慎重工事	9	
16-2-1171	今宿町	女原古墳群C群隣接	一般業者	土地取引等	2005. 4. 7	×	慎重工事	8	
17-2-0006	大字羽根戸	羽根戸三反園、畠津遺跡	社会福祉法人	身障者施設	2005. 4.12	○	慎重工事	12	
16-2-1172	石丸3丁目	下山門敷戸遺跡隣接	個人	土地取引等	2005. 4.12	○	慎重工事	15	
16-2-1205	今宿東1丁目	青木遺跡群	個人	共同住宅	2005. 4.14	×	慎重工事	17	
16-2-0467	生の松原2丁目	生の松原遺跡隣接	一般業者	土地取引等	2005. 4.26	×	慎重工事	23	
17-2-0060	今宿駅前1丁目	今宿遺跡群	個人	個人住宅	2005. 5.10	×	慎重工事	39	
17-2-0089	大字田尻	今宿田尻遺跡	個人	個人住宅	2005. 5.10	×	慎重工事	40	
17-2-0151	周船寺2丁目	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2005. 5.26	○	発掘調査	59	0533
17-2-0009	野方3丁目	戸切遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005. 5.31	×	慎重工事	66	
17-2-0017	有田1丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005. 5.31	○	慎重工事	68	
17-2-0077	大字千里	千里遺跡	一般業者	納骨堂	2005. 6. 2	×	慎重工事	71	
17-2-0078	大字今宿上ノ原	相原古墳群J群	一般業者	電話鉄塔	2005. 6. 2	×	慎重工事	70	
17-2-0184	今宿東1丁目	青木遺跡群	個人	共同住宅	2005. 6.16	×	慎重工事	84	
17-2-0236	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	町内会	公民館	2005. 6.16	×	慎重工事	82	
17-2-0119	今宿町	今宿五郎江遺跡	一般業者	変電所	2005. 6.16	×	慎重工事	83	
17-2-0172	大字女原	女原遺跡	個人	個人住宅	2005. 6.23	○	慎重工事	93	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-2-0079	野方1丁目	野方久保遺跡	個人	個人住宅	2005. 6.23	○	慎重工事	94	
17-2-0204	福重3丁目	福重桶木遺跡隣接	個人	共同住宅	2005. 6.28	×	慎重工事	98	
17-2-0233	上山門2丁目	城ノ原遺跡	個人	個人住宅	2005. 7. 5	×	慎重工事	105	
17-2-0304	野方1丁目	半多田遺跡	個人	倉庫増築	2005. 7.12	×	慎重工事	116	
17-2-0251	拾六町2丁目	拾六町亀田遺跡群	個人	共同住宅	2005. 7.19	×	慎重工事	125	
16-2-1094	福重3丁目	福重桶木遺跡	個人	共同住宅	2005. 7.20	○	発掘調査	127	0537
16-2-1197	姪浜3丁目	姪浜遺跡群	個人	共同住宅	2005. 7.21	×	慎重工事	130	
17-2-0332	野方6丁目	内ヶ浦遺跡	個人	店舗	2005. 7.27	×	慎重工事	135	
17-2-0318	大字飯氏	飯氏遺跡群	個人	個人住宅	2005. 8. 8	○	発掘調査	148	0569
17-2-0356	今宿1丁目	今宿遺跡群	一般業者	医院	2005. 8.11	×	慎重工事	152	
17-2-0475	大字元岡	元岡桑原遺跡群	個人	個人住宅	2005. 9. 8	○	工事立会	184	
17-2-0517	拾六町5丁目	大林遺跡隣接	個人	個人住宅	2005. 9.22	×	慎重工事	201	
17-2-0595	大字西浦	西ノ浦C遺跡	個人	倉庫	2005. 9.28	○	慎重工事	206	
17-2-0591	下山門4丁目	下山門北小路遺跡	個人	個人住宅	2005.10.13	×	慎重工事	224	
17-2-0538	大字千里	千里遺跡群	個人	店舗	2005.10.13	×	慎重工事	225	
17-2-0695	大字吉武	都地遺跡	個人	福祉施設	2005.10.20	○	発掘調査	235	
17-2-0696	大字吉武	都地遺跡	個人	温泉	2005.10.20	○	発掘調査	236	
17-2-0652	大字金武	乙石A遺跡	一般業者	無線鉄塔	2005.10.25	×	慎重工事	240	
17-2-0667	大字周船寺	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2005.11.10	×	慎重工事	268	
17-2-0804	大字西浦	西ノ浦C遺跡	個人	農業倉庫	2005.11.16	×	慎重工事	274	
17-2-0751	下山門4丁目	下山門北小路遺跡	個人	個人住宅	2005.11.29	○	発掘調査	288	
17-2-0856	今宿1丁目	今宿遺跡群	個人	共同住宅	2005.12. 6	×	慎重工事	298	
17-2-0877	横浜2丁目	今宿遺跡群	個人	個人住宅	2005.12. 6	×	慎重工事	299	
17-2-0800	今宿1丁目	今宿遺跡群	一般業者	共同住宅	2005.12. 6	×	慎重工事	297	
17-2-0866	大字羽根戸	羽根戸古墳群N群	一般業者	資材置き場	2005.12. 6	×	慎重工事	300	
17-2-0847	大字元岡	元岡・桑原遺跡群隣接	個人	区画整理	2005.12.20	×	慎重工事	320	
17-2-0927	野方3丁目	羽根戸原B遺跡群	個人	土地取引等	2006. 1.17	×	慎重工事	335	
17-2-0826	大字吉武	都地遺跡	個人	共同住宅	2006. 1.19	○	慎重工事	345	
17-2-0912	大字吉武	吉武牛谷遺跡	一般業者	資材置き場	2006. 1.19	○	発掘調査	346	
17-2-0935	周船寺1丁目	周船寺遺跡群	個人	個人住宅	2006. 1.31	×	慎重工事	358	
17-2-0979	横浜2丁目	今山遺跡	一般業者	土地取引等	2006. 2. 7	○	発掘調査	364	
17-2-0942	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	個人	個人住宅	2006. 2. 9	×	慎重工事	368	
17-2-1077	今宿3丁目	今宿遺跡群	個人	個人住宅	2006. 2.14	×	慎重工事	373	
17-2-0874	拾六町1丁目	橋本一丁田遺跡	一般業者	遊技場	2006. 2.21	×	慎重工事	379	
17-2-1085	橋本1丁目	橋本遺跡群隣接	個人	個人住宅	2006. 3. 2	○	慎重工事	390	
17-2-1195	横浜2丁目	今山遺跡	個人	擁壁	2006. 3.10	○	工事立会	408	
17-2-1225	姪浜6丁目	姪浜遺跡群	個人	個人住宅	2006. 3.23	×	慎重工事	413	



事前審査状況

左から 窓口での埋蔵文化財包蔵地照会、試掘調査、工事立会

III 発掘調査

1. 概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第1係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第2係が担当している。また、西区大字元岡、大字桑原一帯にかかる九州大学移転用地については、別途大規模事業等担当課を置き調査を実施している。また史跡整備とともに確認調査を文化財整備課、鴻臚館跡調査担当課が実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「埋蔵文化財資料の整理・収蔵要項」（昭和62年）に基づき、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下2桁と年度中の番号を組み合わせた4桁で表している。1遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、同一調査事業で複数の遺跡を調査する場合は、原則として遺跡ごと、場合によっては同一遺跡を地区に分けて調査番号を付し、それぞれを発掘調査件数として扱っている。

2. 平成17年度の発掘調査

市域内で実施された17年度の発掘調査件数は、表6に示したように14～16年度からの継続事業が11件、17年度新規事業が72件の計83件である。このうち10件が平成18年度に継続した。この発掘件数には本発掘調査74件のほか、史跡の整備事業に伴う事前調査2件（調査番号0502・0534）、詳細分布調査1件（0553）、確認調査1件（0546）、記録作製を行った試掘調査4件（0505・0508・0514・0548）、および史跡整備工事に伴う調査1件（0554）のあわせて9件も含んでいる。

公民別では公共事業に伴う調査が33件、民間事業に伴う調査が50件である。原因となった事業別では共同住宅36件（43%）、個人住宅12件（14%）、学校8件（10%）、社屋・公民館等7件（9%）、区画整理5件（9%）、道路4件（5%）、圃場整備4件（5%）、史跡等の整備3件、確認調査2件、店舗1件、公園1件であり、住宅建築が57%を占める（表8左）。

今宿地区古墳群詳細分布調査（調査番号0553）を除いた82件の発掘調査総面積は90,937m²（古墳6基を含む）で、前年度に比べ約19,300m²減少した（表5・表7）。公民別では公共事業が78,708m²（うち圃場整備が56,000m²）、民間事業が約12,264m²であり、公共が87%を占めるが、全体をみても圃場整備の割合（62%）が大きい。個々の発掘調査の面積は、100m²以下が20件、101～300m²が31件、301～500m²が13件、501～1,000m²が6件、1,001～5,000m²が14件、5001m²～10,000m²が1件、10,001m²以上が2件となる。調査面積が最も少ないのは比恵遺跡群103次（0548）の2m²（本発掘調査では上月隈B遺跡第2次（0536）の23.7m²）、最も多いのが圃場整備に伴う都地泉水遺跡第1次（0458）の32,000m²である。平均は1,052m²（16年度1,125m²）であるが、公民別では民間236m²、公共事業のうち圃場整備14,000m²、その他の公共841m²と差が大きい。博多遺跡群、箱崎遺跡などでは遺構面が複数あり、これを面ごとに調査しているため、実際の発掘面積はさらに増加する。

調査地点を区別に見ると（表8中）、博多区が最も多く32件（15年度39件）、西区22件（20件）、早良区14件（18件）、東区7件（10件）、中央区4件（2件）、南区3件（7件）、城南区1件（3件）と続く。中央区を除いた各区は調査件数が減少しているが、博多区の件数が一番多く、西区、早良区がそれに次ぐ傾向は変わらない。博多区では博多遺跡群（10件）、比恵遺跡群（7件）に集中するほか、区南部の麦野地区にも調査例が増えてきた。また、早良区では有田遺跡群（8件）、西区では九州大学移転用地及びその周辺にあたる元岡・桑原遺跡群（8件）での発掘調査が頗著である。区別の発掘調査面積は、金武圃場整備、九大移転地、伊都区画整理など大規模事業を抱える西区が全市の約2/3を占めている（表8右）。

表5 平成11～17年度発掘調査推移表

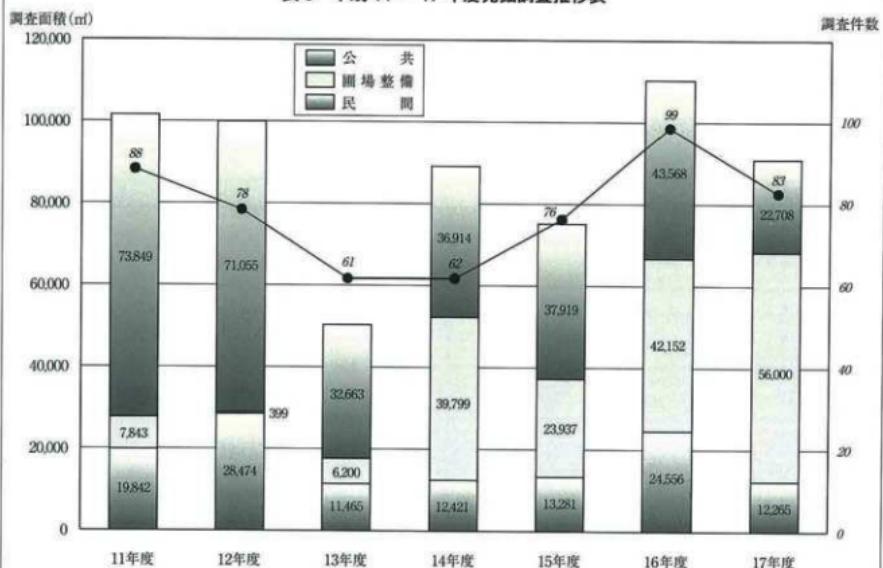


表6 発掘調査件数の推移（）前年度からの継続件数

事業	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
民 間	43 (4)	37 (0)	43 (0)	47 (0)	67 (1)	52 (3)
圃 场 整 備	1 (0)	2 (0)	1 (3)	2 (0)	4 (0)	4 (2)
公 共	34 (4)	22 (0)	18 (1)	27 (4)	28 (5)	27 (6)
合 計	78 (9)	61 (0)	62 (4)	76 (4)	99 (6)	83 (11)

表7 発掘調査面積の推移(m²)

事業	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
民 間	28,474	11,465	12,421	13,281	24,556	12,265
圃 场 整 備	399	6,200	39,799	23,937	42,152	56,000
公 共	71,055	32,663	36,914	37,919	43,568	22,708
合 計	99,928	50,328	89,134	75,137	110,276	90,973

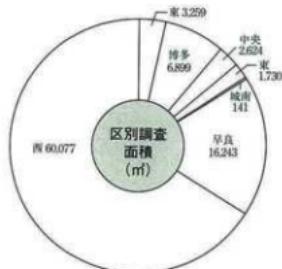
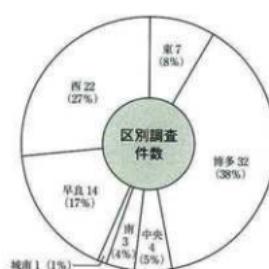
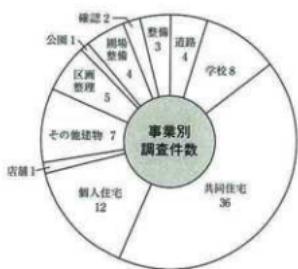


表8 発掘調査内訳

表9 平成17年度発掘調査総括表

区名	事業別	調査費用					県教委 — 民間	総計	調査主体別内訳						
		令達	受託	補助事業		市単費	小計		埋蔵文化財課	大規模事業	鴻臚館跡担当	文化財整備課	福岡県教委	民間調査機関	
				補助	補助+民受										
東	公共	3		1			4		7	4					
	民間			1	1	1		3		3					
博多	公共	3					3		32	3					
	民間			13	6	10		29		29					
中央	公共			1	2			3		3	2		1	1	
	民間							0							
南	公共	1		1			2		3	2					
	民間			1			1			1					
城南	公共						0		2						
	民間			1	1		2			2					
早良	公共					1	1		13	1					
	民間				9	3		12		12					
西	公共	6	8	2		3	19		22	12	7				
	民間				3		3			3					
小計	公共	13	9	6	0	4	0	32	0	82	24	7	1	1	
	民間			16	20	14	0	0	50		50	0	0	0	
合 計		13	25	26	14	4	0	82	0	74	7	1	1	0	

*調査番号 0554 福岡城跡 55次は委託事業内での調査であり、調査費用の項目から除外している。また補助事業には試掘4件を含む(博多区1件・中央区1件・早良区2件の民間)。

調査費用別(表9)では、国庫補助を受けた事業が44件(国補26件(試掘含む)、国補+民間受託14件、国庫+令達4件)、公共受託事業が9件、民間受託事業が16件、令達事業が13件である(調査番号 0554 福岡城跡 55次は委託事業内での調査であり、調査費用の項目から除外)。国庫補助事業の増加が目立つが、これは補助の対象を平成16年度から個人事業者、零細企業まで拡大したことによるところが大きい。

調査主体別(表9)では埋蔵文化財課が74件、大規模事業担当課による九州大学移転用地の調査が7件、文化財整備課、鴻臚館跡調査担当課の史跡指定地の確認調査等が各1件である。

以上のように17年度は発掘調査件数、面積とも16年度より減少したが、ここ5年では16年度に次ぐ件数、面積となっている。17年度の調査一覧は前年度からの継続分も含め表10に示した。

なお、文化財保護法による第99条の書類提出は62件(15年度52件、16年度87件)であった。

表 10 平成 17 年度調査一覧（前年度からの継続含む）

調査番号	道路名	次数	地点	区	所在地	調査原因事業者	予算種別	申請面積(m ²)	調査面積(m ²)	古墳	調査開始日	調査終了日	担当者	審査番号	道路略号
0242	元岡・桑原遺跡群	31		西	大字元岡字宮草	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	公受	3,500.00 (10,000.00)	3,500.00 (10,000.00)		2002.10.01 2006.01.13	上角	14-1-018	MOT	
0420	今宿五郎江遺跡	10		西	今宿町地内	伊都区面整理 福岡市都市整備局	令達	10,000 (2,998.00)	170.00 (2,998.00)		2004.04.04 2005.07.06	杉山	13-1-233	IZG	
0435	元岡・桑原遺跡群	41		西	大字元岡字峯	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	公受		100.00 (863.00)		2004.05.07 2006.02.17	米倉	14-1-018	MOT	
0437	箱崎遺跡	47		東	馬出5丁目地内	道路建設(馬出東浜線) 福岡市土木局	令達	1,400 (1,071.00)	71.00 (1,071.00)		2004.07.20 2006.04.15	中村	10-1-020	HKZ	
0451	元岡・桑原遺跡群	42		西	大字元岡字二又	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	公受		4,000.00		2004.10.01 継続	米倉 木下	14-1-018	MOT	
0458	都地泉水遺跡	1		西	大字吉武地内	金武吉地区面積整備 金武吉武土地改良区	令達 国補		32,000.00 (41,000.00)		2004.11.25 2006.07.31	宮井	10-1-142	TZS	
0475	博多遺跡群	149		博多	上典服116、117、 118	共同住宅建築 一般企業	民受	314 (110.00)	35.00 (110.00)		2005.01.11 2005.04.28	星野	15-2-1191	HKT	
0481	五十川遺跡群	14		南	五十川1丁目 629-1	道路建設(御供所井尻線) 福岡市土木局	令達		480.00 (960.00)		2005.01.24 2005.06.03	吉武	13-1-077	GJK	
0484	有田遺跡群	216		早良	小田部2丁目91、 92-1、92-2	共同住宅建築 個人	民受 国補	1,915 (1,405.00)	469.30 (1,405.00)		2005.02.01 2005.04.26	阿部	16-2-0351	ART	
0485	上広瀬遺跡群	2		早良	大字西字広瀬	石釜地区面積整備 広瀬石工土地改良区	令達 国補	43,000 (15,750.00)	14,400.00 (15,750.00)		2005.01.13 2005.12.20	加藤良	13-1-0557	KHI	
0488	藤崎遺跡	35	西皿山	早良	高取2丁目219-2 外	共同住宅建築 個人	民受 国補	3,599 (412.00)	212.00 (412.00)		2005.02.15 2005.05.17	松浦	16-2-0840	FUA	
0501	比恵遺跡群	98		博多	博多駅南3丁目 432	共同住宅建築 零細企業	民受 国補	289	157.00		2005.04.01 2005.04.22	長家	16-2-0737	HIE	
0502	福岡城跡	52	鶴屋館跡 23次	中央	城内1	確認調査(史跡) 福岡市教育委員会	国補		2,110.00		2005.04.01 2006.03.31	大庭		FUE	
0503	福岡城跡	53		中央	赤坂1丁目55	共同住宅建築 都市再生機構	公受	654	156.00		2005.04.04 2005.05.20	大塚	16-1-87	FUE	
0504	箱崎遺跡	49	22~25区	東	箱崎1丁目、馬出1 丁目	宮崎区面整理 福岡市土木局	令達		595.00		2005.04.05 2006.02.15	赤坂	07-1-050	HKZ	
0505	野芥遺跡群	13		早良	野芥2丁目514-2 の一部	共同住宅建築 個人	試掘	441	23.76		2005.04.06	本田 吉留	16-2-1143	NKE	
0506	名島城跡	3	天守台	東	名島1丁目2405 外	公園整備 福岡市都市整備局	令達	1,100	790.00		2005.04.11 2005.06.21	児牧	14-1-011	NZE	
0507	飯氏遺跡群	10		西	大字飯氏876-1外	公民館等用地造成 福岡市土地開発公社	公受	1,131	928.00		2005.04.13 2005.06.29	田上	16-1-033	IJI	
0508	有田遺跡群	217		早良	有田1丁目11-4	個人住宅建築 個人	試掘	398	39.37		2005.04.13 2005.04.16	本田 吉留	16-2-1180	ART	
0509	麦野C遺跡群	10		博多	東霞町2丁目1-1	共同住宅建築 個人	民受 国補	1,664	677.00		2005.04.15 2005.05.31	藏富士	16-2-0596	MGC	
0510	吉塚本町遺跡群	5		博多	吉塚本町409	共同住宅建築 個人	国補	423	121.00		2005.04.15 2005.05.02	佐藤	16-2-0879	YSH	
0511	博多遺跡群	152		博多	堀塚町122-4、117-5	共同住宅建築 一般企業	民受	438	256.00		2005.04.18 2005.07.08	中村	16-2-0641	HKT	
0512	谷遺跡	2		西	今宿町地内	伊都区面整理 福岡市都市整備局	令達		422.00		2005.05.28 2005.07.06	杉山	13-1-233	TAN	
0513	比恵遺跡群	99		博多	博多駅南6丁目24-1、 25-2	共同住宅建築 個人	民受 国補	871	462.00		2005.04.25 2005.07.08	星野	16-2-0650	HIE	
0514	福岡城跡	54	肥前堀6次	中央	天神2丁目169、 170	商業ビル建築 一般企業	試掘	1,505	288.00		2005.04.25 2005.05.26	吉武	16-2-0321	FUE	
0515	有田遺跡群	218		早良	有田1丁目12-7	個人住宅建築 個人	国補	235	95.80		2005.04.27 2005.05.21	阿部	16-2-1134	ART	
0516	麦野A遺跡	15		博多	麦野5丁目1~41	個人住宅建築 個人	国補	122	91.40		2005.05.10 2005.05.17	屋山	16-2-1055	MGA	
0517	箱崎遺跡	50		東	馬出5丁目461-1	共同住宅建築 個人	国補	195	69.00		2005.05.12 2005.06.04	小林	16-2-0725	HKZ	
0518	コノリ遺跡群	5		西	拾六町3丁目21-1	寺崎小学校増築 福岡市教育委員会	令達	16,324	110.40		2005.05.16 2005.06.14	大塚	16-1-107	KNR	
0519	有田遺跡群	219		早良	小田部5丁目15-5	個人住宅建築 個人	国補	159	32.40		2005.05.24 2005.05.24	阿部	16-2-1051	ART	
0520	南八幡遺跡群	14		博多	元町1丁目17	店舗建築 零細企業	国補	90	90.38		2005.05.30 2005.06.03	屋山	17-2-0043	MHM	

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因事業者	予算額(万円)	申請面積(m²)	調査面積(m²)	古墳	調査開始調査終了	担当者	審査番号	道路路号
0521	豊原城址跡群	5		南	赤木ST18-2、18-3、18-4、18-5	共同住宅建築個人	民受	3,429	1,237.75	2005.06.01 2005.08.26	柴富士 16-2-1005	KYB		
0522	比恵遺跡群	100		博多	博多駅南4丁目71-1、77	共同住宅建築一般企業	民受	941	480.30	2005.06.01 2005.07.01	久住	17-2-0022	HIE	
0523	元岡・桑原遺跡群	44		西	大字元岡字広瀬	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	公受		1,189.00	2005.06.01 2005.10.20	木下	14-1-018	MOT	
0524	博多遺跡群	153		博多	下瓦町425-1、426-2	共同住宅建築一般企業	民受	298	132.00	2005.07.22 2005.09.22	小林	16-2-1151	HKT	
0525	井相田C遺跡群	6		博多	井相田1丁目7-5	社屋建築零細企業	国補	2,151	134.00	2005.06.13 2005.06.24	吉武	17-2-0053	ISC	
0526	比恵遺跡群	101		博多	博多駅南5丁目106-1、107	共同住宅建築個人	民受 国補	177	119.90	2005.06.14 2005.07.16	大塚	16-2-1206	HIE	
0527	席田青木遺跡群	6		博多	青木1丁目438、438-2	共同住宅建築個人	民受 国補	638	196.70	2005.06.15 2005.07.14	屋山	17-2-0030	MAK	
0528	大原遺跡	8		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達		347.30	2005.06.10 2005.06.30	阿部	13-1-233	OTS	
0529	麦野A遺跡群	16		博多	麦野1丁目29-12	公民館増築 福岡市民局	令達	831	26.00	2005.06.08 2005.06.14	荒牧	16-1-056	MGA	
0530	三筑遺跡	5		博多	三筑2丁目9-2	公民館等建設 福岡市民局	令達	890	385.00	2005.06.22 2005.08.09	荒牧	16-1-057	SCC	
0531	今宿五郎江遺跡	11		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達		4,020.00	2005.07.08 継続	杉山 阿部	13-1-233	IZG	
0532	比恵遺跡群	102		博多	博多駅南4丁目100-1、99-2	共同住宅建築一般企業	民受	954	220.00	2005.07.04 2005.08.25	吉武	17-2-0033	HIE	
0533	周船寺遺跡群	18		西	周船寺2丁目461-9	共同住宅建築個人	国補	509	296.44	2005.07.07 2005.07.22	久住	17-2-0151	SSJ	
0534	吉武遺跡群	19		西	吉武202他	確認調査(史跡) 福岡市教育委員会	国補		970.00	2005.07.09 2005.09.22	長宗		YST	
0535	元岡・桑原遺跡群	45	桑原古墳群A群	西	大字桑原字石ヶ原	大学移転用地造成 福岡市土地開発公社	公受		1,128.60	3 2005.11.22	池田	16-1-109	MOT	
0536	上月隈B遺跡	2		博多	月隈6丁目807-8 外	道延括弧(月隈118号線) 福岡市土木局	令達	700	23.70	2005.08.01 2005.08.08	大塚	17-1-031	KMB	
0537	福重樋木遺跡	4		西	福重3丁目327-3	共同住宅建築個人	国補	1,708	252.00	2005.08.08 2005.08.31	田上	16-2-1094	FSI	
0538	元岡・桑原遺跡群	46		西	大字元岡地内	道路拡幅(福岡志摩線) 福岡市土木局	令達	900	403.10	2005.08.08 2005.10.11	久住	16-1-100	MOT	
0539	東恩賀遺跡	6		博多	東部町1丁目241	共同住宅建築一般企業	民受	1,192	483.00	2005.08.11 2005.09.16	星野	17-2-0005	HGN	
0540	博多遺跡群	154		博多	須崎町156、157	共同住宅建築個人	民受 国補	272	138.90	2005.08.24 2005.09.16	中村	16-2-0689	HKT	
0541	那珂遺跡群	109		博多	東光寺町2丁目90	共同住宅建築個人	民受 国補	1,015	198.00	2005.08.22 2005.11.09	荒牧	17-2-0112	NAK	
0542	有田遺跡群	220		早良	有田1丁目12-6の一部	個人住宅建築個人	国補	157	37.40	2005.09.01 2005.09.05	大塚	17-2-0447	ART	
0543	西新町遺跡	18		早良	西新5丁目572外	共同住宅建築零細企業	民受 国補	556	348.00	2005.09.21 2005.12.09	田上	17-2-0240	NSJ	
0544	博多遺跡群	155		博多	須崎町53	共同住宅建築一般企業	民受	239	58.90	2005.10.03 2005.10.26	赤坂	17-2-0032	HKT	
0545	吉原遺跡群	11		博多	堅粕6丁目427-2、425-5外	共同住宅建築零細企業	民受 国補	497	277.00	2005.10.07 2005.12.05	屋山	17-2-0193	YSZ	
0546	元寇防廬	10	香椎地区	東	香椎駅前1丁目289、290-2	確認調査 福岡市教育委員会	国補		159.30	2005.10.03 2005.10.25	大塚		GKB	
0547	都原遺跡群	6		西	大字吉武	金武地区園場整備 金武吉武土地改良区	令達 国補		8,600.00	2005.09.29 継続	宮井	10-1-142	TZI	
0548	比恵遺跡群	103		博多	博多駅4丁目140-2番	個人住宅建築個人	試掘	261	1.63	2005.10.19	吉武	17-2-0670	HIE	
0549	有田遺跡群	221		早良	有田1丁目31-5	共同住宅建築個人	国補	768	59.17	2006.01.06 2006.01.20	久住	17-2-0241	ART	
0550	那珂遺跡群	110		博多	竹下5丁目515-1～6	共同住宅建築個人	国補	893	257.00	1 2005.11.15 2005.12.20	吉武	17-2-0636-0642	NAK	

調査番号	道跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因事業者	予算種別	申請面積(m ²)	調査面積(m ²)	古墳	調査開始調査終了	担当者	審査番号	道路略号
0551	博多遺跡群	156		博多	板塀町313、314、315、316	個人兼共同住宅建築個人	民受 国補	459	296.00		2005.11.22 2006.02.28	小林	17-2-0279	HKT
0552	飯倉古墳群	2	第1号墳	城南	荒江1丁目561、562、567、577	共同住宅建築個人	国補	934	141.00	1	2005.11.22 2005.12.09	同部	17-2-0528	IKK
0553	今宿地区古墳群	(2)		西	今宿地域	詳細分布調査 福岡市教育委員会	国補				2005.12.07 2006.03.29	加藤久住		
0554	福岡城跡	55	下ノ横大手門	中央	城内1~4	石垣保存修理工事 福岡市教育委員会	(委託)		70.00		2005.11.15 2006.03.03	樋本		FUE
0555	吉塚遺跡群	12		博多	堅粕5丁目440-1	共同住宅建築個人	民受 国補	291	126.10		2005.12.09 2006.01.20	藏富士	17-2-0796	YSZ
0556	蒲田部木原遺跡群	10		東	蒲田3丁目1121-1、1122外	倉庫建築 一般企業	民受	5,050	1,350.00 (1,805.38)		2005.12.20 2006.04.28	中村	17-2-0895 -0899	KHH
0557	有田遺跡群	222		早良	有田1丁目33-15	個人住宅建築個人	国補	153	38.10		2005.12.15 2005.12.26	阿部	17-2-0805	ART
0558	那珂遺跡群	111		南	五十川1丁目815-9	個人住宅建築個人	国補	119	12.20		2005.12.15 2005.12.27	大塚	17-2-0831	NAK
0559	箱崎遺跡	51		東	箱崎1丁目36-37	個人兼共同住宅建築個人	民受 国補	405	225.00 (270.00)		2006.01.16 2006.04.11	星山	17-2-0351	HKZ
0560	博多遺跡群	157		博多	板塀町183、184、185、227	商業ビル建築 一般企業	民受	365	200.00 (230.00)		2006.01.10 2006.04.12	荒牧	17-2-0565	HKT
0561	飯倉A遺跡群	2		早良	飯倉5丁目191-6、-17、192-1	共同住宅建築個人	民受	521	235.60		2006.01.10 2001.02.17	阿部	17-2-0735	ika
0562	元岡・桑原遺跡群	47	元岡古墳群Ⅰ群	西	大字元岡広瀬	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	公受		107.00	1	2006.01.05 2006.03.10	上角	14-1-018	MOT
0563	元岡・桑原遺跡群	48		西	大字桑原字戸原	大学移転用地造成 福岡市土地開発公社	公受		447.30		2006.01.10 2006.02.23	池田		MOT
0564	博多遺跡群	158		博多	店屋町67、68、66-1、66-2	共同住宅建築 一般企業	民受	551	331.60		2006.01.16 2006.03.17	星野	17-2-0525	HKT
0565	有田遺跡群	223		早良	小田部3丁目204-2	個人住宅建築個人	国補	197	107.14		2006.01.26 2006.03.10	久住	17-2-0701	ART
0566	博多遺跡群	159		博多	店屋町102、103-1外	共同住宅建築 一般企業	民受	416	160.00 (190.00)		2006.02.10 2006.04.10	吉武	16-2-0618	HKT
0567	乙石遺跡群	3		西	大字金武地内	金武地区離場整備 金武吉武土地改良組	令達 国補	29,000	1,000.00		2006.02.01 继续	宮井田上	10-1-142	OTA
0568	野芥遺跡群	14		早良	野芥2丁目524-1	共同住宅建築個人	国補	227	145.00		2006.02.06 2006.02.21	田上	17-2-0918	NKE
0569	飯氏遺跡群	11		西	大字飯氏666-13	個人住宅建築個人	国補	432	86.24		2006.02.06 2006.02.20	加藤	17-2-0318	IIJ
0570	比恵遺跡群	104		博多	博多駅南5丁目114-1、114-3	共同住宅建築個人	民受 国補	678	264.00		2006.02.07 2006.03.17	藏富士	17-2-0843	HIE
0571	山王遺跡	4		博多	山王2丁目37、38-2	共同住宅建築 一般企業	民受	1,276	449.30		2006.02.15 2006.03.31	大塚	17-2-0794	SNN
0572	博多遺跡群	161		博多	店屋町22-1～10、23-1～6	共同住宅建築 財団法人	民受	428	50.00		2006.03.14 継続	小林	16-2-1113	HKT

※調査面積：年度をまたいで調査を実施した道路については平成17年度の調査面積。そのうち平成17年度または平成18年度前半期に調査を終了したものについては()内に総調査面積を記した。



平成 17 年度発掘調査地点位置図

(●番号は 21 頁の発掘調査遺跡索引の位置番号と一致する)

IV 平成 17 年度発掘調査概要および報告

調査概要および報告は前年度からの継続分も含め表 7 の調査番号順に掲載している。ただし調査番号 0437 箱崎遺跡 47 次、0475 博多遺跡群 149 次、0481 五十川遺跡群 14 次、0484 有田遺跡群 216 次、0488 藤崎遺跡 35 次の 5 調査は昨年度の年報に掲載済みなので割愛した。下に五十音順の索引をつけたが、このうち太字のものが報告である。各概要・報告中の図「1. 調査地点の位置」の() 内は、左から福岡市都市計画地図図幅番号・図幅名称・遺跡番号・地図の縮尺である。調査地点は地図中央に黒塗りで示した。

発掘遺跡索引

遺跡名	調査番号	位置番号	頁	遺跡名	調査番号	位置番号	頁
あ 有田遺跡群 217 次	0508	1	38	博多遺跡群 155 次	0544	26	89
有田遺跡群 218 次	0515	1	47	博多遺跡群 156 次	0551	26	97
有田遺跡群 219 次	0519	1	54	博多遺跡群 157 次	0560	26	110
有田遺跡群 220 次	0542	1	86	博多遺跡群 158 次	0564	26	114
有田遺跡群 221 次	0549	1	95	博多遺跡群 159 次	0566	26	116
有田遺跡群 222 次	0557	1	106	博多遺跡群 161 次	0572	26	125
有田遺跡群 223 次	0565	1	115	箱崎遺跡 49 次	0504	27	31
い 飯倉 A 遺跡群 2 次	0561	2	111	箱崎遺跡 51 次	0559	27	109
飯倉古墳群 2 次	0552	3	98	ひ 比恵遺跡群 98 次	0501	28	28
飯氏遺跡群 10 次	0507	4	37	比恵遺跡群 99 次	0513	28	44
飯氏遺跡群 11 次	0569	4	120	比恵遺跡群 100 次	0522	28	58
井相田 C 遺跡群 6 次	0525	5	61	比恵遺跡群 101 次	0526	28	65
今宿五郎江遺跡 10 次	0420	6	23	比恵遺跡群 102 次	0532	28	75
今宿五郎江遺跡 11 次	0531	6	74	比恵遺跡群 103 次	0548	28	93
今宿地区古墳群 (2 次)	0553	7	102	比恵遺跡群 104 次	0570	28	123
お 大塚遺跡 8 次	0528	8	67	東耶珂遺跡 6 次	0539	29	83
乙石遺跡群 3 次	0567	9	117	ふ 福岡城跡 52 次 (鴻臚館跡)	0502	30	29
か 蒲田木本原遺跡群 10 次	0556	10	105	福岡城跡 53 次	0503	31	30
上月隈 B 遺跡群 2 次	0536	11	79	福岡城跡 54 次 (肥前堀)	0514	31	45
上広瀬遺跡群 2 次	0485	12	27	福岡城跡 55 次	0554	30	103
け 菅弥郷 B 遺跡群 5 次	0521	13	57	福重桜木道跡 4 次	0537	32	81
元寇防壘 10 次	0546	14	91	み 南八幡遺跡群 14 次	0520	33	55
こ コノリ遺跡群 5 次	0518	15	53	む 席田青木遺跡群 6 次	0527	34	66
さ 三筑遺跡 5 次	0530	16	71	麦野 A 遺跡群 15 次	0516	35	48
山王遺跡 4 次	0571	17	124	麦野 A 遺跡群 16 次	0529	35	68
す 周船寺遺跡群 18 次	0533	18	76	麦野 C 遺跡群 10 次	0509	36	40
た 谷遺跡 2 次	0512	19	43	も 元岡・桑原遺跡群 31 次	0242	37	22
と 都地遺跡群 6 次	0547	20	92	元岡・桑原遺跡群 41 次	0435	37	24
都地泉水遺跡 1 次	0458	21	26	元岡・桑原遺跡群 42 次	0451	37	25
な 那珂遺跡群 109 次	0541	22	85	元岡・桑原遺跡群 44 次	0523	37	59
那珂遺跡群 110 次	0550	22	96	元岡・桑原遺跡群 45 次	0535	37	78
那珂遺跡群 111 次	0558	22	107	元岡・桑原遺跡群 46 次	0538	37	82
名島城跡 3 次	0506	23	36	元岡・桑原遺跡群 47 次	0562	37	112
に 西新町遺跡 18 次	0543	24	88	元岡・桑原遺跡群 48 次	0563	37	113
の 野芥遺跡群 13 次	0505	25	32	よ 吉武遺跡群 19 次	0534	38	77
野芥遺跡群 14 次	0568	25	118	吉塚遺跡群 11 次	0545	39	90
は 博多遺跡群 152 次	0511	26	42	吉塚遺跡群 12 次	0555	39	104
博多遺跡群 153 次	0524	26	60	吉塚本町遺跡群 5 次	0510	40	41
博多遺跡群 154 次	0540	26	84				

0242 元岡・桑原遺跡群第31次調査(MOT-31)

所在地 西区大字元岡字宮草

調査面積 3,500 m² (総調査面積 10,000 m²)

調査原因 大学移転用地造成

担当者 上角智希

調査期間 2002.10.1 ~ 2006.1.13

処置 記録保存

位置と環境 元岡・桑原遺跡群は玄界灘に突出する糸島半島の丘陵地帯に位置する。31次調査区は丘陵南側に開析する谷のひとつである。丘陵の南には水田が広がっているが、古代には丘陵の麓まで古今津湾が入り込んでいた。

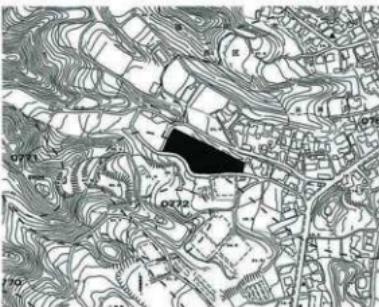
検出遺構 2002年10月から継続して調査しており、今年度は古墳時代遺構面の残りを調査後、既存道路の下(6区)および瓦窯跡周辺の拡張区(7区)を調査した。

昨年度から調査中の谷上流部(1区)では、谷中央の低い部分に盛土をして平坦に整え、鍛冶および造瓦の生産活動を行なっていた。古墳時代の遺物はあまり出土せず、該期の集落は谷の上流までは広がっていなかったものと推定される。6区では5×2間の大型の建物1棟を検出した。時期は瓦窯址と同じ9世紀頃である。柱穴も大きく、この調査区では最も立派な建物である。7区では、炭窯1基を検出したが、瓦窯跡は検出できなかった。

出土遺物 古墳時代から古代にかけての土師器・須恵器等が出土したが、昨年度までに比べると量も少なく特筆すべき遺物もない。

まとめ 本年度で3年半にわたった31次調査が終了した。当地区では、福岡市でも数少ない平安時代の瓦窯跡が発見された。また、同時期の鍛冶遺構や掘立柱建物も発見された。出土遺物においても、「酒」銘の土製印加、柄と考えられているコップ形須恵器や、中空円面鏡、銅製ベルト金具、綠釉陶器など、一般集落では出土しない特殊な遺物が出土した。

報告書は2007年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 2782 1:8000)



2. 調査区上流部全景 (南から)



3. 6区で検出した大型建物 (西から)

0420 今宿五郎江遺跡第10次調査(IZG-10)

所在地 西区今宿町地内

調査面積 170 m² (総調査面積 2,998 m²)

調査原因 区画整理

担当者 杉山富雄

調査期間 2004.4.4 ~ 2005.7.6

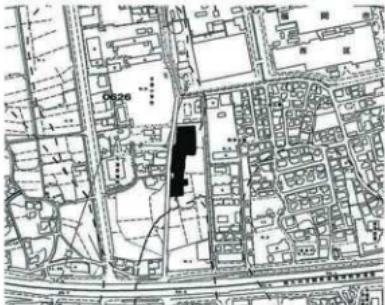
処置 記録保存

位置と環境 第10次調査区のうち、2箇所について、遺構の広がりを確認するため、拡張して調査をおこなった。拡張区は谷底にあたり、平坦で、基盤となる青灰色粘土層上に砂層が堆積する。

検出遺構 2区 北部の拡張区である。遺構検出面は谷と堆積層中に3面ある。上位面では北西方向の杭列を検出した。中位面では流路を検出した。蛇行して北東方向に流れる。出土遺物は少量である。下位面は基盤となる谷堆積層面となる。調査区東縁に沿い、やや東に振れて北流する流路と、それに沿う方向の杭列を複数検出した。杭列はいずれも丸木を用いる。流路の東岸に沿う位置のものは、ごく細い材を用いたものである。いずれも流路の埋没の過程で設置されている。調査区北半部では、矢板列1条を検出した。上位の杭列と方向を同じくし、間隔は疎らである。また、これと直交する方向に幅0.2mほどの間隔を置いて、2条平行する矢板列を2箇所で検出した。後者は水路を想定できるような位置関係にある。遺物は、少量の土器片が主に上位遺構面で出土した。

3区 南部の拡張区である。砂層を間に置いて上下2面で遺構を検出した。上位の遺構面では、杭列、穿掘状の凹地を検出した。杭列はやはり北西から南東に走る。凹地は、台地際の大溝の決壊部からの水流によるものと思われる位置にある。その流出部前面にあたる位置には、弧状の矢板列・杭列が複数条設置されている。下位遺構面では、東西方向の矢板列1条、それと直交する水路状の矢板列1条、南北方向の流路を検出した。遺物は上下面間の砂層から、後期弥生土器が少量出土した。

2007年度報告予定。



1. 調査地点の位置 (112 今宿 0626 1:8000)



2. 2区全景 (北から)



3. 3区全景 (東から)

0435 元岡・桑原遺跡群第41次調査(MOT-41)

所在地 西区大字元岡字峯

調査面積 100 m² (総調査面積 836 m²)

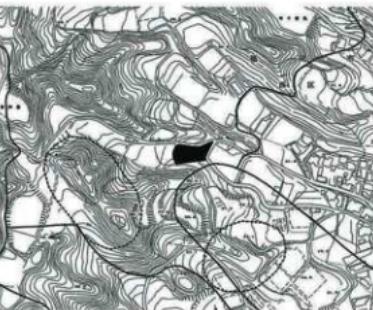
調査原因 大学移転用地造成

担当者 米倉秀紀

調査期間 2004.5.6 ~ 2006.2.17

処置 記録保存

位置と環境 糸島半島の中央から東側に伸びるやせた丘陵間の谷奥部に立地する。東側隣接地は31次調査区である。調査区の西半は谷が狭く斜面もきつく、包含層も極めて薄い。東半は谷が広がり包含層は厚く、調査区東端の北側の斜面は緩い。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 2782 1:8000)



2. 調査区完掘後全景 (西から)



3. 調査区完掘後 (南東から)

0451 元岡・桑原遺跡群第42次調査(MOT-42)

所在地 西区大字元岡字二又
 調査原因 大学移転用地造成
 調査期間 2004.10.1～継続

調査面積 4,000 m²
 担当者 米倉秀紀
 処置 記録保存

位置と環境 糸島半島の中央から南側に伸びるやせた丘陵間の谷の中に調査地全面が立地する。前面100m先は古今津湾である。調査地のすぐ西は前原市で、西側隣接地の台地部で弥生時代中期の掘立柱建物群が発見されている。今年度は昨年度に続き東側半分の調査と、年度後半には西側の調査も実施した。

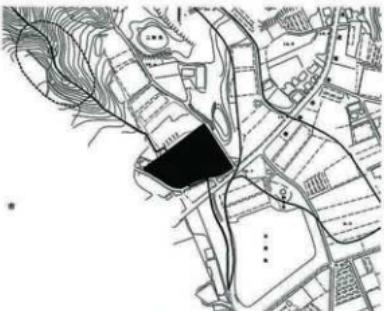
検出遺構 東側で検出したのは自然流路1本とビットである。ビットは未掘のため詳細不明。自然流路は最大幅30m前後、深さ1.5m前後の大きなものである。下層は主に砂礫層で、上層は主に腐植土層である。下層はおおむね弥生時代中期後半から後期前半、上層は弥生時代後期後半から古墳時代前期である。自然流路の岸には上記の時期の累々たる土器群がある。昨年度は、土器群・青銅器群が出土したが、今年度は引き続き、大量の土器と各種の木器が出土した。中でも特徴的なのは格子目タタキを施した弥生終末～古墳初頭の土器群で、各種の器形が複数個体づつ出土している。

西側でも流路1本があり、東流路より一回り大きい。西流路の最上層には初期須恵器が若干出土するが、他の時期は東流路と同様である。やはり大量の土器が出土している。西流路からは長さ1.2m前後の建物の柱6本や、船材と思われる木製品、赤と黒の漆を交互に塗った木製杯など特徴的な木製品が出土している。

出土遺物 出土土器はすでに3000箱を超え、さらに現場に多くの土器が残されている。木製品も200点を超えた。

まとめ 大量の土器群が延々と出土し、総量は6000箱を超しそうである。さらに船材などの特徴的な木器群も出土している。

調査は平成18年度も継続中である。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 2782 1:8000)



2. 東流路調査状況 (南東から)



3. 西流路船材 (隔壁) 出土状況

0458 都地泉水遺跡第1次調査(TZS-1)

所在地 西区大字吉武地内

調査面積 32,000 m² (総調査面積 41,000 m²)

調査原因 地図整備

担当者 宮井 善朗・田上 勇一郎

調査期間 2004.11.25 ~ 2006.7.31

処置 記録保存

位置と環境 都地泉水遺跡は飯盛山の南東麓に位置し、日向川沿いの扇状地に立地する。「早良王墓」として著名な吉武遺跡群は、日向川を下った下流に位置している。調査区内には小さな谷が複雑に入り込み、谷に面した疊層、およびその上部に堆積した粘質土層上で遺構が検出された。



1. 調査地点の位置 (93 都地 0421 1:10000)

検出遺構 検出した遺構、遺物は大きく二期に分けられる。1期（古墳時代後期～奈良時代）の主な遺構としては、竪穴住居跡3基、土器廃棄土壙と思われる遺構2基、製鉄炉2基、鍛冶関連遺構（廃滓坑）などがあげられる。中世の検出面で検出した以外の掘立柱建物も該期のものと思われる。2期（中世）の遺構としては、木棺墓1基、土壙墓2（+1?）基、石積み遺構1基、廃棄土壙などがある。



2. 中世木棺墓 73 (西から)

出土遺物 出土遺物は少ない。1期では須恵器、土師器の他耳環、紡錘車（土製、石製）等も出土した。また遺構に伴うものではないが弥生時代の石斧、縄文時代の石鎌なども出土している。2期の中世墓からは青磁碗、土師皿、鉄釘、小刀などの副葬品が出土した。このほか方形の土壙より湖州鏡が出土している。



3. 湖州鏡出土状況 (東から)

まとめ 都地泉水遺跡の特徴としては、遺跡の広さと生活痕跡の希薄さがあげられる。対象地全域にかけて古代を中心とした遺構が散漫に分布し、製鉄遺構や比較的の遺物の多い土壙も見られるが、製鉄がこの遺跡の中でどのくらいの比重を占めるものはいままだ不明である。すなわち製鉄を生業とする集落とまでいえるものであろうか。この点は周辺遺跡の動向も踏まえながら検討する必要があろう。

報告書は2006年度刊行予定。

0485 上広瀬遺跡群第2次調査(KHI-2)

所在地 早良区大字西字広瀬

調査面積 14,400 m² (総調査面積 15,750 m²)

調査原因 園場整備

担当者 加藤 良彦

調査期間 2005.1.13 ~ 2005.12.20

位置と環境

遺跡は福岡市の西部、早良平野を貫流する室見川の上流部南岸の河岸段丘上に立地する。南北を河川に開析され、北東に延びる舌状台地上の第1次調査区の南、山麓側に隣接する。標高115~153m。遺構は耕作土下の赤橙色粘土上面で検出され、部分的に縄文時代包含層が残る。



1. 調査地点の位置 (早良 18 西 0801 1 : 8000)

検出遺構

遺構は、縄文時代の土壙1基・落とし穴5基・柱穴・倒木痕35基、古代~中世溝7条・焼土壙69基・土壙2基・掘立柱建物2棟・柱穴多数、近世溝1条・水田開墾時の廃石土壙13基・柱穴多数で、西側を中心に中世以降の土石流が覆っている。

出土遺物

遺物は、中近世遺構の混入資料として旧石器・縄文時代早期晩期土器・石器を、中世溝を中心とし土器師壺・皿・貿易陶器などコンテナ2箱分を検出している。

まとめ

旧石器・縄文時代早期は落とし穴や狩猟石器から狩り場として活用され、倒木痕の大半は縄文時代晩期に属し、この時期に開墾された可能性がある。

古代は簡易な炭焼遺構と思われる焼土壙が殆どで、第13区では溝に囲まれた2間×2間の掘立柱建物2棟と2.8×1.8mの半地下式の炭焼窯を検出した。中世以前に操業されたもので、古代の炭窯・炭焼小屋・炭倉等がまとめて検出されたものである。

中世の遺構は1次調査区に近い12区で柱穴がまとめて検出される程度で、居住城としての内容は希薄であり、中世の開墾以降、畑地を中心とした耕作地であったと思われる。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



2. 調査遠景 (東から)



3. 13区全景 (北から)

0501 比恵遺跡群第98次調査(HIE-98)

所在地 博多区博多駅南3丁目432

調査面積 157 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 長家伸

調査期間 2005.4.1 ~ 2005.4.22

処置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群は福岡平野の中央部分を北流する、那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地する遺跡群である。今回の調査地点は比恵遺跡群の北端部分に位置しており、周辺では南側隣接地において、第28次調査が行われており、弥生時代前期～中期の遺構・遺物が確認されている。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)

検出遺構

遺構検出面は現地表面から80～100cmの盛土を除去した、鳥栖ローム層上面で、標高4.2m前後を測り、現況ではほぼ平坦な遺構面となっている。検出遺構は弥生時代前期～中期の竪穴住居跡1棟・貯蔵穴1基・その他土坑・ピット等である。遺構の残存状態は不良であり、後世の大きな削平が考えられる。



2. 北側全景 (西から)

出土遺物

出土遺物は弥生時代前期～中期の日常土器の破片で、コンテナ6箱分出土している。

まとめ

今回の調査地点では弥生時代前期～中期の生活遺構群を確認することができた。比恵遺跡北端部分においては、ほぼ同時期の遺構群が確認されており、丘陵北端部分の様相が次第に明らかになっている。今後更なる調査の進展が期待される地域である。

調査報告書は2006年度刊行予定である。



3. 南側全景 (北から)

0502 福岡城跡第52次調査(FUE-52)

所在地 福岡市中央区内1

調査面積 2,110 m²

調査原因 確認調査(史跡)

担当者 横山邦継・大庭康時

調査期間 2005.4.1～2006.3.31

処置 埋め戻し保存

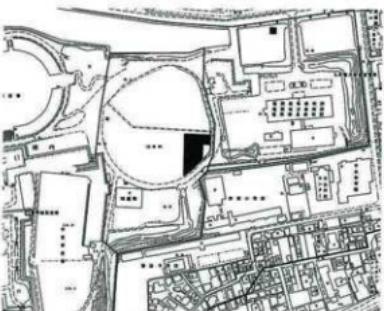
位置と環境 鴻臚館跡は、博多湾に面した丘陵突端に位置する。この丘陵は、近世には福岡城が築かれ、現在は舞鶴公園となっている。鴻臚館跡の確認調査は平和台球場跡地南側において、年次計画に基づき実施している。平成17年度は前年度から継続して、その東側部分を対象に調査をおこなった(鴻臚館跡としては23次調査)。

検出遺構 平成16年度調査の下層を精査する目的で、グリッドを設定し、掘り下げをおこなった。その結果、鴻臚館北館の東側は、自然地形の谷に下降していくが、近世初頭の掘削で大きく掘り取られていることが明らかになった。そのため、東側谷から北館東門に登るアプローチ部分は、遺存していないと考えられる。確認・精査した範囲では、北館東門の前面には堀に沿って、幅20m前後の広場が南北に伸び、広場から一段下がった整地面には梁間二間、桁行推定五間の南北棟が作られていたことが明らかになった。

鴻臚北館と南館を隔てる谷部分では、平成16年度調査で橋脚の柱穴が出土し、橋が架けられたことが明らかとなったが、橋の規模を探る目的で継続調査を実施した。その結果、橋脚の梁間は二間で、谷の中央に3列立てられていた。また、橋脚に若干連れて、谷底に木樋が埋設されていた。谷の排水を図ったものと思われる。さらに谷壁面の土層観察から、橋に先行して土橋が作られていたことが推定された。時期はおそらく8世紀前半と思われる。また、谷の北壁の一部において、石垣が検出された。平成14年度調査で出土した8世紀前半石垣の延長部分と推測される。これによって、8世紀前半石垣の延長は、80m以上となる。

出土遺物 鴻臚館関係瓦、初期貿易陶器、土師器、須恵器などがコンテナ80箱出土している。

まとめ 平成17年度の発掘調査によって、鴻臚館東側の景観がかなり明らかとなってきた。また、南館と北館を隔てる谷の利用についても、あらたな検討材料を得ることができた。なお、球場跡地南側を対象とした調査は今年度で終了、18年度からは北側の調査に着手する。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 1:8000)



2. 平成17年度調査区全景 (南西より)



3. 谷地形に通された木樋遺構 (西より)

0503 福岡城跡第53次調査(FUE-53)

所在地 中央区赤坂1丁目55

調査面積 156 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 大塚紀宣

調査期間 2005.4.4～2005.5.20

処置 記録保存

位置と環境 福岡城の東側内堀外壁石垣の部分にあたる。

城の東側を南北に延びる堀の外側で、赤坂門(26次調査地点)より150m南側に位置する。

検出遺構 調査の結果、既存の道路際に沿って南北方向に延びる石垣を検出した。石垣の遺存状態は、北側で腰石から1～2段程遺存し、南側では基底面から1.8mの高さで遺存し、本来の形状を残しているものと考えられる。堀基底部は礫混じり灰色粗砂層(川砂)。堀底部、壁面からは常時水が湧いている。堀覆土下部は黒色粘質土で近代の遺物が混じる。堀覆土上部は青灰色粘土と砂層の互層で流れのある状態で自然堆積する。石垣は南北方向に一直線に並び、石垣面の傾斜は直立に近い。基段の石は幅1m以上で、上部の石よりも一回り大きな石を使用し、2段目以上の石は幅60cm程度の石を積み上げている。転痕などの整形を行った痕跡をもつ石はみられず、荒削りした石材をそのまま積み上げている。石垣基底部には胴木等は検出されない。墓石など他の石製品を転用して使用したものはない。石材材質は、玄武岩、礫岩、花崗岩など多種にわたる。裏込め石は20～30cmの角礫・円礫を詰めている。裏込め石は石垣面から1m以上奥まで存在し、さらに道路側に拡がるとみられる。

出土遺物 出土遺物は染付やガラス瓶、陶器が主体で、大半が近代～現代の遺物である。堀基底面直上で、古墳時代の土師器小型壺の破片が出土する。また天保通宝、1銭銅貨(明治16年銘)も出土している。

まとめ 石垣の遺存状態は比較的良好で、古い様相を残している部分もある。城本丸の石垣と比較すると、石の積み方は粗い。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0164 1:8000)



2. 調査区全景 (西から)



3. 石積み前面 (南西から)

0504 箱崎遺跡第49次調査(HKZ-49)

所在地 東区馬出1-30

調査面積 595 m²

調査原因 区画整理

担当者 赤坂亨

調査期間 2005.4.5～2006.2.15

処置 記録保存

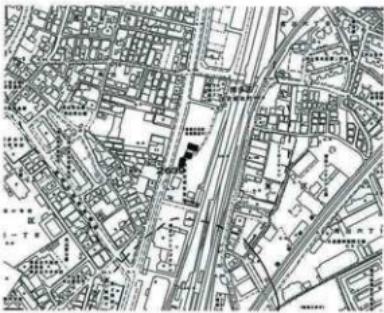
位置と環境 今年度は箱崎遺跡の南端部を調査した。妙見通り沿いに3地区、箱崎遺跡最南端部1地区の合計4地区を調査した。妙見通り沿いは北から24区、22区、25区、最南端部は23区である。

検出遺構 22区からは人骨1・井戸2・方形竪穴状遺構1・ピット10数基を、23区からは方形竪穴状遺構3・溝1・土壙3・ピット20数基を、24区からは溝5・墓1・方形竪穴状遺構1・ピット30基を、25区からは溝1・ピット多数(2棟以上の掘立柱建物)を、それぞれ検出した。遺構の時期は23区の土坑が古墳時代中期でその他の遺構は11～13世紀と考えられる。22区溝S-6、24区溝S-7は古墳時代の遺構の可能性がある。

出土遺物 22区からは土師器・陶磁器(青磁・白磁)・短刀が出土した。短刀は人骨の左大腿骨上に副葬されていた。切先を頭方向、刃を体の外側に向いていた。短刀の残存状態は良好である。23区からは土師器(古墳時代・古代～中世)、陶磁器(青磁・白磁)が出土した。土壙S-9出土の高坏は古墳時代中期である。24区・25区からは土師器・陶磁器が出土した。遺物総量は22区がコンテナ8箱分、23区が12箱分、24区が7箱分、25区が2箱分である。

まとめ 箱崎遺跡最南端の23区でも他の調査区とはほぼ同内容の遺構を検出した。溝S-10が南へ延びることは確実で、箱崎遺跡はさらに南側に拡大することが予想される。また、24区は22区・19区とほぼ同じ遺構の密度であるのに対し、25区は周辺に比べて遺構密度が薄いことが分かった。また、24区溝S-7は21区第2面の溝、および22区S-6と類似している。溝同士の関係は不明だが報告書の整理の中で、これらの遺構の性格を検討していきたい。

報告書は2006年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1:8000)



2. 23区東半全景 (北から)



3. 22区人骨および短刀出土状況 (西から)

0505 野芥遺跡群第13次調査(NKE-13)

所在地 城南区野芥2丁目514-2の一部

調査面積 23.76 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 吉留秀敏・本田浩二郎

調査期間 2005.04.08

処置 記録保存

1. 位置と環境

野芥遺跡群は福岡市西部に広がる早良平野の中央部東側に位置し、南北約1600m×東西約300mの南北方向に狹長な範囲が埋蔵文化財包蔵地として指定されている。遺跡群内で行われたこれまでの調査では、旧石器時代の石器群を初現として、弥生時代から中世にかけての集落遺構等が検出されている。第13次調査地点は遺跡範囲内の北西部に位置し、現地表面の標高は16.5m前後を測る。

事前に実施した試掘調査の成果から、予定される共同住宅建築工事については、埋蔵文化財への影響はないものと判断されたが、これに付随する浄化槽の設置工事については、掘削深度が深く埋蔵文化財への影響が避けられないため記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

2. 検出遺構

試掘調査で得られた成果より、現地表面から40cm前後までは重機による掘削を行い、締まりのある褐色シルト砂層の基盤層面で溝・柱穴などの遺構を検出した。検出した溝遺構は、検出面で幅2m程度を測り、断面形は逆台形を呈する。溝の底面はほぼ平坦となり、幅は60cm前後を測る。溝は基盤層である褐色シルト砂層と、粗砂層と褐色シルト砂層の交互堆積層（自然堆積）内に掘削されているが、土層断面の観察から上部についてはある程度削平を受けているものと考えられる。なお、遺構検出面から溝の底面までの深さは60cm前後を測る。

この溝遺構は調査区内では北西方向から南東方向へ延びる状況で5m程度のみの調査であったが、検出された状況から北東方向に中心点を置き緩く弧を描くような平面形が復元される。溝の埋土は、古墳時代前期に属する土器を多く含んでおり、大きく分けて上層と下層に分層される。最下層付近には土師器等の土器を多く含む褐色粗砂と黒色砂質土が堆積している。中層には褐色シルト砂層が堆積するが、遺物ほとんど含まれておらず埋没時の一括流入土と考えられる。上層には暗褐色砂質土や黒色砂質土が堆積しており、埋土中からま



1. 調査地点の位置 (B3 野芥 0319 1:8000)



2. 調査区全景 (東から)



3. SD-01 完掘状況 (西から)

とまつた状態で土器がする。掘削から埋没まではあまり時間差がないものと考えられる。

3. 出土遺物

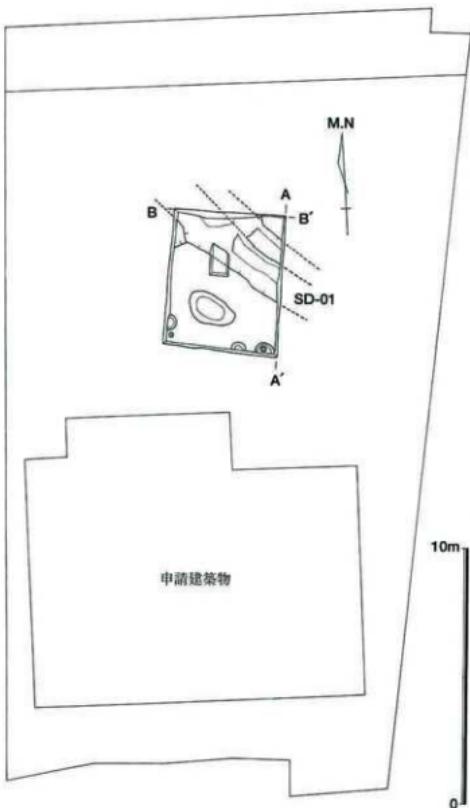
今回の調査では、溝遺構以外の遺構からは遺物の出土はなかったが、コンテナ3箱分の遺物が出土している。出土した土器はやや時期幅を持つが、古墳時代前期に属するものが多い。遺物は上層と底面近くの最下層との2群に分けて出土した。

出土遺物を図8・9に示した。

1~6、25は遺構検出時に出土した遺物であり、19は試掘調査時に出土したものである。試掘トレーニチは溝遺構内に位置しており、試掘時に出土した遺物についても溝に伴うものと考えられる。

7~18は溝埋土上層部より出土したものであり、20~24、26~28は下層より出土した遺物である。

1は塊である。内外器面ともに密なハラ磨きが施される。胴部中位に沈線が巡る。2は台付鉢の脚台部片である。3~6は高壺の脚部片である。いずれも刷毛目調整が観察できる。19は小型丸底壺で、口縁部は開く器形である。内器面上位には指頭圧痕が残る。25は小壺である。底部の一部が欠損する。胴部には



4. 遺構配置図 (1:200)



5. 調査区北側土層断面（南から）

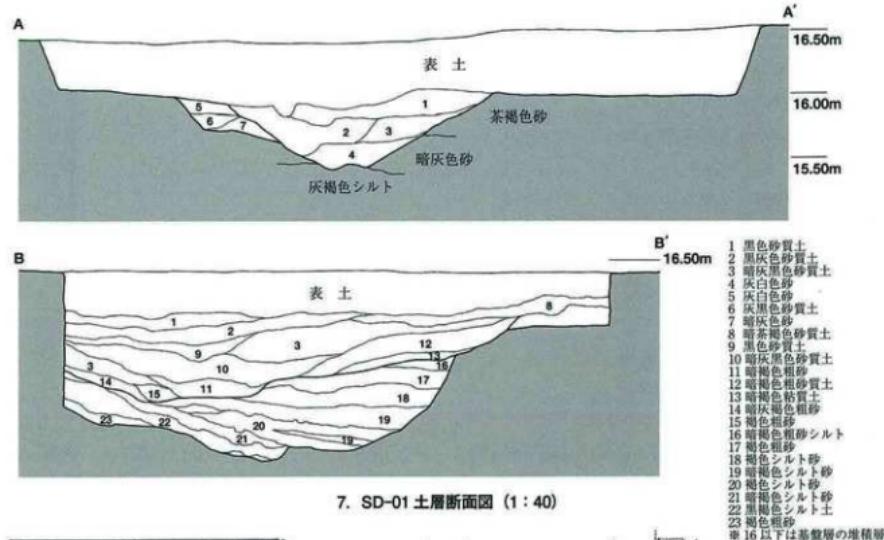


6. 遺物出土状況（東から）

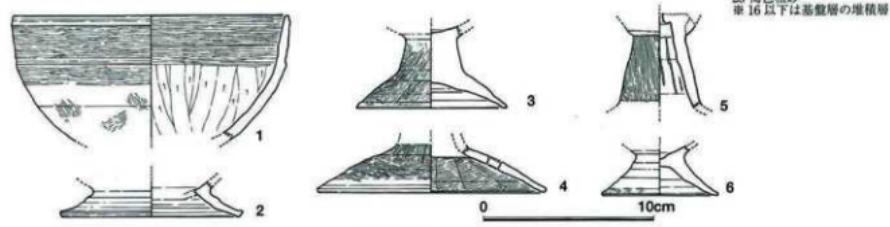
刷毛目調整が残り、口縁部付近はナデ調整が施される。7～11は壺口縁部片である。外器面はいずれも摩滅しており、器面調整がわずかに残る。12は高环坏部片で、13・14は高环脚部片である。15は鉢の底部片である。16～18は境である。16・17は大きく外反する口縁を持ち、18は口縁端部でわずかに外反する。20～23は壺の口縁部片である。24は壺胴部片で、外器面には刷毛目調整を施した後、横位のヘラ磨きを施す。焼成は良好で、色調は橙色を呈する。26は壺である。底部付近は摩滅のため器面調整が失われている。27は壺胴部片である。内器面は縦位の刷毛目調整を施した後、ヘラ削りを行う。28は二重口縁壺の口縁部片である。須恵器は破片も出土していないことから、遺構の時期は4世紀代と考えられる。

4.まとめ

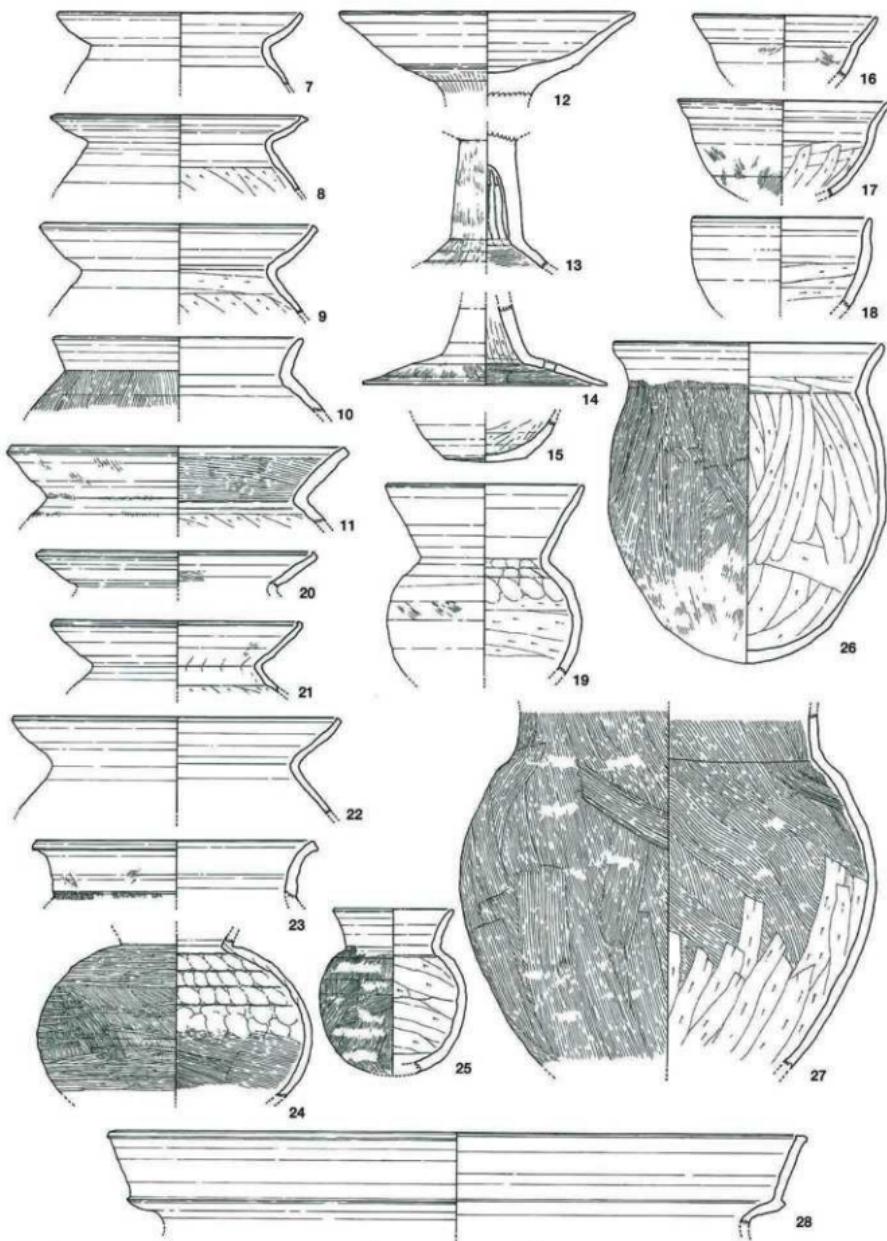
周辺の発掘調査や試掘調査では、調査地点よりも深い地点で包含層や遺構面が検出されており、調査区付近にはこれまで把握されていなかった微高地状の地形が存在していることが判明した。調査地点内の遺構面の状況や試掘調査で得られた土層堆積状況より、調査地点一帯の地形は埋没した微高地の南側緩斜面上に位置していることが推定される。検出された溝構造の用途は調査面積がわずかであるため判然としないが、3箱分の遺物がややまとまった量で出土したことや小型丸底壺・二重口縁壺などの遺物が出土していることから、祭祀に関連する遺構の可能性が考えられた。



7. SD-01 土層断面図 (1:40)



8. 遺物実測図 1 (1:3)



9. 遺物実測図 2 (1:3)

0 10cm

0506 名島城跡第3次調査(NZE-3)

所在地 東区名島1丁目2405外
 調査原因 公園整備
 調査期間 2005.4.11～2005.6.21

調査面積 790 m²
 担当者 荒牧 宏行
 処置 埋め戻し保存

位置と環境 公園整備に伴って昨年度の2次調査に引き続き本丸曲輪の調査を行った。現状の曲輪平坦面は約4200 m²、標高24.8mをはかる。

今年度は建築物の検出を目的に櫓ないし天守が構築されている可能性が高い曲輪の四隅と2次調査の延長である中央南側に調査区を設定した。

検出遺構 その結果、北西隅で厚さ60cmの現代客土と戦前までの旧表土に覆われた遺構面を検出した。遺構は方形に区画した石列とその内側に小石を敷き詰めた建物基礎状の構造物からなる。区画は1辺5m以上になると考えられる。さらに南西隅においても同様に客土下層に崩れた石列が検出され、檜台が残っている可能性がある。北東隅、南東隅でも現代に大きく改変されて客土で厚く覆われている。さらに東辺では大手側壁の石垣が検出された。延長2.7m、高さ1.6mの2段分が確認された。野面積みされた石垣勾配は緩やかで60°を切る。石材は意識的に花崗岩が多く用されている。延長は枠形に折れる可能性が高いが既存道路下へ続くため、現況では確認できない。

出土遺物 出土遺物は瓦が大半を占め、特に大手では瓦当も含め多く出土した。総量コンテナ24箱分。

まとめ 北西隅で検出された基礎状の遺構は曲輪内で検出された初めての建築物の遺構である。周辺も同様に現代において北側の切り下げた盛土で遺構面が覆われていることが判り、櫓等の建築物の基礎や礎石が残っている可能性がでてきた。

大手石垣の延長は現況道路と重なっている可能性もあり、その場合は北側へ大きく迂回する動線となる。今後の調査に期待されるところが大きい。

報告書は2006年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (32 名島 0115 1:8000)



2. 北西隅櫓の基礎 (南から)



3. 本丸大手石垣 (南西から)

0507 飯氏遺跡群第10次調査 (IIJ-10)

所在地 西区大字飯氏 876-1

調査面積 928 m²

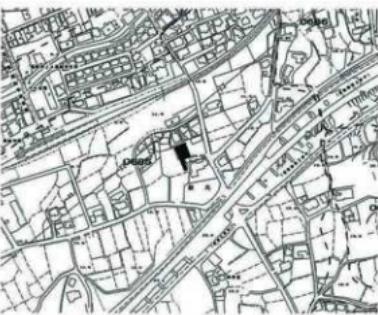
調査原因 公民館等用地造成

担当者 田上 勇一郎

調査期間 2005.4.13 ~ 2005.6.29

処置 記録保存

位置と環境 飯氏遺跡群は糸島平野と今宿平野を画す山塊の高祖山からのびる丘陵裾および扇状地に位置し、北・西は瑞梅寺川の支流である周船寺川で、東は周船寺川支流の谷齋川が形成した谷で画され、南は高祖山の山裾までの東西600m、南北800mの範囲に広がる。遺跡群の南側には前方後円墳である飯氏二塚古墳や飯氏古墳群A群が含まれる。調査地点は遺跡の北部にあたり、緩やかに北へ傾斜している。現標高は客土され、13.8m前後であり、西側隣地の畠は標高12.8mである。



1. 調査地点の位置 (120 周船寺 0685 1:8000)

検出遺構 調査区は建物予定範囲を対象に排土処理の関係から南北2分割で調査した。さらに西側・南側に設置する擁壁が遺構面に達することがわかったり、追加調査を行った。

弥生時代中期～古墳時代初頭の掘立柱建物6棟、溝1条、土坑22基、遺物集中部1ヶ所、柱穴多数、弥生時代前期末～中期初頭壺棺5基、土壙墓（木棺墓の可能性のあるもの含む）5基、壺棺抜き取り？坑1基を検出した。

北側に建物や柱穴が集中し、南側に壺棺墓・土壙墓が集中している。



2. 調査区南側全景 (北東から)

出土遺物 遺物は壺棺のほか弥生土器片、土師器、砥石、黒曜石片などがあり、総数コンテナケース45箱分である。

まとめ 今回の調査区の南150mで行われた1次調査と3次調査Ⅱ区で検出した弥生時代前期末～中期初頭の墓地の北限を確認した。その後、当地は弥生時代中期～後期には集落域に取り込まれたことが判明した。

報告書は2006年度刊行予定である。



3. 壺棺出土状況 (南から)

0508 有田遺跡群第 217 次調査(ART-217)

所在 地 早良区有田 1 丁目 11-4

調査面積 39.37 m²

調査原因 個人住宅建築

担当者 吉留秀敏・本田浩二郎

調査期間 2005.04.13 ~ 2005.04.16

処置 記録保存

1. 位置と環境

有田遺跡群は、福岡市の西南部に広がる早良平野の北側中央部に位置する。遺跡は標高 15m 前後を測る洪積世独立台地上に占地しており、有田地区・小田部地区・南庄地区の三地区に大きく分けられる。また、遺跡群の占地する台地は、南北 1.7 km × 東西 0.8 km の範囲であり、河川の浸食などにより北側に広がる八手状の地形をなしている。調査地点は遺跡範囲内の南東端部付近に位置する。



1. 調査地点の位置 (82 原 0309 1:8000)

2. 検出遺構

事前に実施した試掘調査の成果より、申請された住宅工事については基礎構造の変更から影響はないものと判断されたが、門及び駐車場部分については切り下げを伴うため記録保存のための発掘調査を実施した。東側を 1 区・西側を 2 区とし、影響ある範囲については遺構の完掘を行い、図化・写真撮影を完了させて埋め戻し、調査完了とした。

調査では二時期の遺構群を確認した。黒色土を埋土とする弥生前末期～中期の遺構群と、暗褐色土の中世の遺構群である。弥生時代に属する遺構としては、貯蔵穴 2 基・円形住居 1 棟・土坑などが検出され、中世の遺構として溝構築 1 条 (SD-01)・柱穴群などを調査した。貯蔵穴は検出面から底面までが 50 cm 程度残り、断面はフラスコ状のものと方形の二形態がある (SK-02・SK-03)。埋土から弥生土器の細片と黒曜石の剥片が出土した。中世の溝は断面形が逆台形を呈し、遺構検出面から底面までは 40 cm 程度を測る。溝の主軸は現在の地割りと同方向に近く、区画溝と考えられる。面積が狭いため検出された柱穴から建物を復元することは出来なかった。



2. 1 区完堀状況 (北から)

3. 出土遺物

遺物は、弥生土器の細片や黒曜石剥片、瓦器梶・白磁碗・土師器皿などがコンテナ 1 箱分出土した。

出土遺物を図 6 に示した。1 は底部をヘラ切りした土師器皿である。2 は須恵器碗である。高台の断面形は方形を呈する。3・4 は白磁玉縁碗である。5・6 は土師器皿である。焼

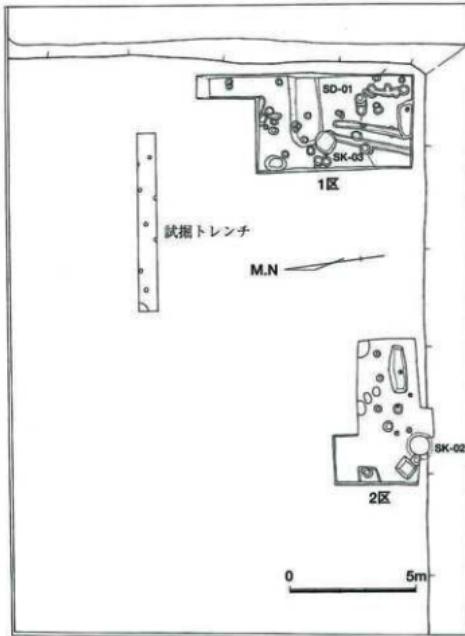


3. 2 区完堀状況 (東から)

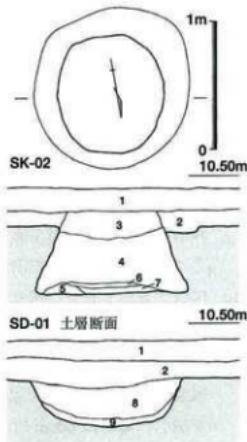
成は良好で、色調は褐色を呈する。7は須恵質土器捏鉢である。

4.まとめ

遺構面となる鳥栖ローム層は、遺構の残存状況から八女粘土層に近い下層の部位と考えられ、過去の区画整理により大きく削平を受けていることが判明した。なお、調査地点は周囲道路より1m以上高い宅地であるが、このような箇所においても前述のような遺構の残存状況である。SD-01とした溝は、出土遺物がやや時期幅が想定されるところから、比較的長期間存続したものと考えられる。

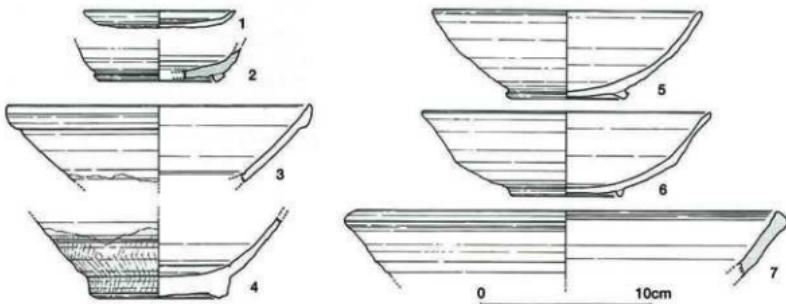


4. 遺構配置図 (1 : 200)



5. 遺構実測図 (1 : 40)

- 1 表土・耕作土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土・縮没土
- 4 黒色土
- 5 暗黄褐色粘質土・崩壊土
- 6 黒色粘質土
- 7 暗黄褐色土
- 8 黑褐色土
- 9 八女粘土と黒褐色土の混合層



6. 遺物実測図 (1 : 3)

0509 麦野C遺跡群第10次調査(MGC-10)

所在地 博多区東雲町2丁目1-1

調査面積 677 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 藏富士寛

調査期間 2005.4.15 ~ 2005.5.31

処置 記録保存

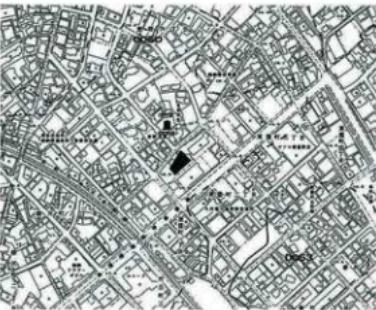
位置と環境 麦野C遺跡群は福岡市域の南端部にあり、春日丘陵の東側に位置する台地上に存在する。東側には御笠川が流れる。調査地点の東側では1・5次調査が行われている。

検出遺構 堪穴住居1、溝1、土坑1を検出した。溝は15~16世紀に相当する。溝は幅3m、深さ1mを測る大きなものである。調査区の南側、そして西側にそれぞれ検出されているが、形態をみると限り、一連の溝である可能性が高く、従ってこの溝はまず東西方向に走り、その後、調査区外において北側に折れ曲がるものと考えておきたい。溝には2段の掘り込みがあり、後(近世段階)に再掘削が行われている。土坑は調査区北側で検出した。一辺1.5mほどの隅丸方形を呈し、深さは60cmほど。出土遺物はごくわずかである。堪穴住居は調査区東端で検出し、半ばを大溝に切られている。出土遺物より8世紀後半に比定できる。

出土遺物 土師器、須恵器、陶磁器等がコンテナ7箱出土している。遺物の大半が近世以降の国産陶磁器である。

まとめ 今次調査で検出した溝と同様の溝は、第5次調査においても検出されているが、報告によればこれら溝は12世紀後半~13世紀に比定されており、今次調査の溝とは時期的な隔たりが大きい。両者の関連も含め、これら溝の性格究明は今後の課題といえるだろう。

報告書は2006年10月に刊行している(『麦野C遺跡-第10次調査報告-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第897集)。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0050 1:8000)



2. 調査区北東側 (南北から)



3. 堪穴住居 (南北から)

0510 吉塚本町遺跡群第5次調査(YSH-5)

所在地 博多区吉塚本町 409

調査面積 121 m²

調査原因 共同住宅建設

担当者 佐藤一郎

調査期間 2005.4.15 ~ 2005.5.2

処置 記録保存

位置と環境 吉塚本町遺跡は福岡市内東北部を流れる多々良川の支流である須恵川と宇美川が形成した沖積地の西側に博多湾に沿って南北に延びる標高3~4m前後の小砂丘に位置する。北側には箱崎遺跡がある。調査地は吉塚本町の南東、砂丘の後背地に位置する。

検出遺構 現地表下80cmで奈良時代の遺物包含層(明黄褐色砂)を確認、その下面の浅黄色砂上面で古墳時代から奈良時代の土坑5基を検出した。

出土遺物 主に包含層から土師器片がコンテナケース1箱分出土した。

まとめ 調査地は吉塚本町遺跡群の辺縁に位置し、遺構の分布状況もまばらであった。北側50mに位置する第2次調査では古墳時代から奈良時代を主とした掘立柱建物・竪穴状造構・土坑・土壙墓・溝など多数の遺構が検出され、多量の土師器・須恵器・土錘が出土している。今回の調査地より標高が高い位置にあり、集落の中心に近い所に位置すると考えられる。

報告書の刊行は未定である。



1. 調査地点の位置 (35 吉塚 2378 1:8000)



2. 全景 (南から)



3. 土坑 (南東から)

0511 博多遺跡群第152次調査(HKT-152)

所在地 博多区網場町122-4、117-5

調査面積 256 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 中村 啓太郎

調査期間 2005.4.18～2005.7.8

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群は博多湾に面した砂丘上に立地している。東西を石堂川と博多川に挟まれた東西0.8km、南北1.5kmの広大な範囲におよぶ。

第152次調査地点は遺跡群の北側、所謂「息浜」の南斜面に位置する。現況で標高5.5mを測る。調査は重機により現地表より約1.5m程を働き取った後、この面を第1面として開始した。

検出遺構 第1面は暗褐色土をベースとしこれに炭化物粒が混じる。検出遺構は井戸、石組土坑、土坑、石基礎遺構、柱穴等である。近世後期以降を中心とする。

第2面は第1面より30～50cm下げたところで設定した。暗褐色砂質土をベースとするが北側では面が安定せず分かり難い。検出遺構は石組土坑、土坑、柱穴等である。第3面は地山である黄褐色砂となる。標高3m前後を測る。検出遺構は石組土坑、土坑、柱穴等であるが、上層で検出できなかったものも多く含まれる。調査区南側に柱穴が多くみられ、根石を有するものも多い。またその根石には板碑の頭部を再利用したものがあった。北側に井戸が集中するが多くが調査区外にかかり井筒を確認できたものは少ない。中世後半～近世にかけてを中心とする。

出土遺物 遺物はコンテナ95箱程出土した。国産陶磁器、貿易陶磁器、土師器、瓦、銅製品、板碑等が出土した。また各面を通して貝、獸骨類の出土が目立つ。

まとめ 今回の調査では中世後半～近世を中心とした遺構が多く、中世前半期については遺物は多くみられるものの遺構は極めて少ない。

報告書は2006年刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (48 千代博多 0121 1:8000)



2. 調査区1面全景 (南から)



3. 石組遺構 (東から)

0512 谷遺跡第2次調査(TAN-2)

所在地 西区今宿町地内

調査面積 422 m²

調査原因 区画整理

担当者 杉山 富雄

調査期間 2005.5.28 ~ 2005.7.6

処置 記録保存

位置と環境

遺跡は高祖山から派生する山麓裾部緩斜面の末端に立地し、調査地点はその中で、今津渕奥の砂丘後背湿地に向かって開く、幅の広い谷底にかかる位置にある。

調査区では、表土下に包含層が生成し、その下に2面の遺構確認面がある。

検出遺構

包含層は調査区西半部に分布し、遺物量は少ない。後期弥生土器を主とする。

上位の確認面では流路、杭列を検出した。流路は南から北へ向かい、やや曲流する。砂層が堆積し、古墳時代後期の土師器、須恵器が出土する。木器が一箇所にまとまって出土した。別に東西方向の小規模な流路を検出した。杭列は散漫に分布し、明確な列を掘むことができない。遺存状態から、かなり新しい時期のものが含まれていることがわかる。

下位の確認面では、矢板列、流路を確認した。流路は幅1.5mで緩く蛇行し、北流する。ごく少量の弥生土器が出土した。矢板列は調査区北東隅で、北西から南東方向に伸びる1条を検出した。古墳時代後期遺物を含む流れにより上部を削られて基部のみが遺存する。

出土遺物

遺物は、包含層・流路を主としてコンテナ9箱ほどの分量が出土した。後期弥生土器、古墳時代後期の土師器・須恵器のほかに、流路下位層から晩期縄文土器が出土した。木器は流路から集中して出土した。甌返し、梯子などの建築材のほか、鍛なども出土している。

まとめ

下位面の矢板列は、同じ谷部の今宿五郎江第10次地点2・3区の矢板列と同様の方向にあり、水田の区画などを想定することができる。しかし、上部を古墳時代後期以降、水流により削られており、水田の痕跡はとどめていない。

2007年度報告予定。



1. 調査地点の位置 (112 今宿 0626 1:8000)



2. 調査区全景 (南西から)



3. 流路遺物出土状況 (東から)

0513 比恵遺跡群第99次調査(HIE-99)

所在地 博多区博多駅南6丁目24-1,25-2 調査面積 462 m²
 調査原因 共同住宅建築 担当者 星野恵美・長家伸
 調査期間 2005.4.25 ~ 2005.7.8 処置 記録保存

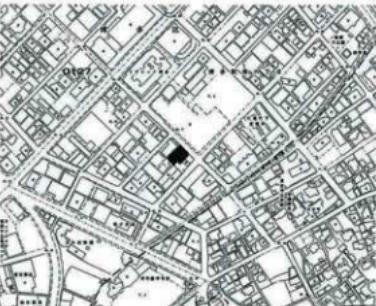
位置と環境 比恵遺跡群は福岡平野の中央部分を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地する。今回の調査地点は丘陵の西側斜面に位置する。

検出遺構 造構検出面の標高は7.2mを測る。基盤の鳥栖ロームが造構面で、弥生時代中期から古墳時代・古代・中世にかけての造構と遺物が出土した。弥生時代中期の造構は円形の竪穴住居跡2軒、土坑、柱穴である。弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての造構は南北方向に走る溝、竪穴住居跡4軒、井戸1基、竪穴状土坑、土坑、柱穴である。調査区のほぼ中央を並行して走る2本の溝は道路に付随する側溝と指摘されている。2本の溝の幅は、内側の端の間で6.0mを測る。規模は延長16.5m、幅30~70cm、深さは最も深いところで40cmを測る。溝の南側と北側の深い部分には大量の古墳時代初頭の土器が投棄されていた。古墳時代中期になると、造構は減少し、南北方向に走る溝1条と竪穴を敷設した竪穴住居跡1軒、井戸1基、柱穴を検出した。井戸には須恵器、土師器が廃棄されていた。また、溝からは弥生時代と考えられる銅戈の鋳型が出土する。古墳時代後期では東西方向に走る溝を1条検出した。

出土遺物 弥生土器、須恵器、土師器、石器、鉄製品、滑石臼玉がコンテナ55箱分出土する。他に、特筆すべき遺物としては銅戈の鋳型がある

まとめ 比恵遺跡群では弥生時代中期から古墳時代初頭にかけて、集落が丘陵全域に拡大していく。また、弥生時代終末には丘陵上を南北に走る延長1.5kmを超える道路の出現も指摘されている。今回の調査では弥生時代中期から古墳時代の造構を検出しており、道路状造構と考えられている遺構も確認した。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区全景 (南から)



3. 溝遺物出土状況 (西から)

0514 福岡城跡第54次調査(FUE-54)

所在地 中央区天神2丁目169、170

調査面積 288 m²

調査原因 商業ビル建築

担当者 吉武 学

調査期間 2005.4.25～2005.4.26

処置 記録保存

1. 位置と環境

調査対象地は西鉄福岡駅西隣の肥前堀推定線上に位置する。地表面の標高は海拔3.2～3.6mで、申請地中ほどから南は一段落ちて旧地形の痕跡を留めており、試掘調査により東西に走る肥前堀の立ち上りを確認した。よって、堀の正確な位置を確認する目的で、まず重機により表土を除去し、堀の落ち際を面的に確認した後、東西端にトレンチを入れて断面観察を行った。肥前堀としては第6次調査である。

遺構面までの深さは0.6～0.8m（標高2.5m前後）、地山は白～灰色砂で、下部には粘質土を含む砂層や生痕の残る砂層があり、河口に堆積した砂とみられる。堀内部は福岡城周辺の丘陵から削り取った風化頁岩で厚く埋められている。

2. 検出遺構

東西に走る肥前堀の立ち上がりを長さ20mの範囲で確認した。立ち上がりは西側では段状にだらだらと傾斜しており、自然崩壊や後世に破壊を受けている。東側ではなだらかな傾斜を示し、上端は基礎解体時に破壊されていたが、土層断面から堀のラインを推定することができる。底面は地表から2.7m（標高0.5～0.7m）だが、試掘所見によれば、調査区の南外側では地表から3.3mでも堀底に至らず、更に段状に深く落ちると考えられる。また、地山土の標高1.5m前後に中世遺物包含層（固く締まった褐色砂）があり、天神周辺では他の調査でも砂層中から中世遺物が少量出土することから、福岡城築城頃には半陸地化していたものと想定される。

3. 出土遺物

上記の中世遺物包含層等から出土した中・近世の陶磁器、土師器など、コンテナ1箱がある。

4.まとめ

福岡城内堀から東の薬院新川まで伸びる「中堀」及び「肥前堀」は明治～大正年間に埋立てられ、その後の市街化によって痕跡を留めず、絵図等によって今はその位置を推定している。今回の調査により、一部ではあるが肥前堀の正確な位置が確認できた意義は大きい。



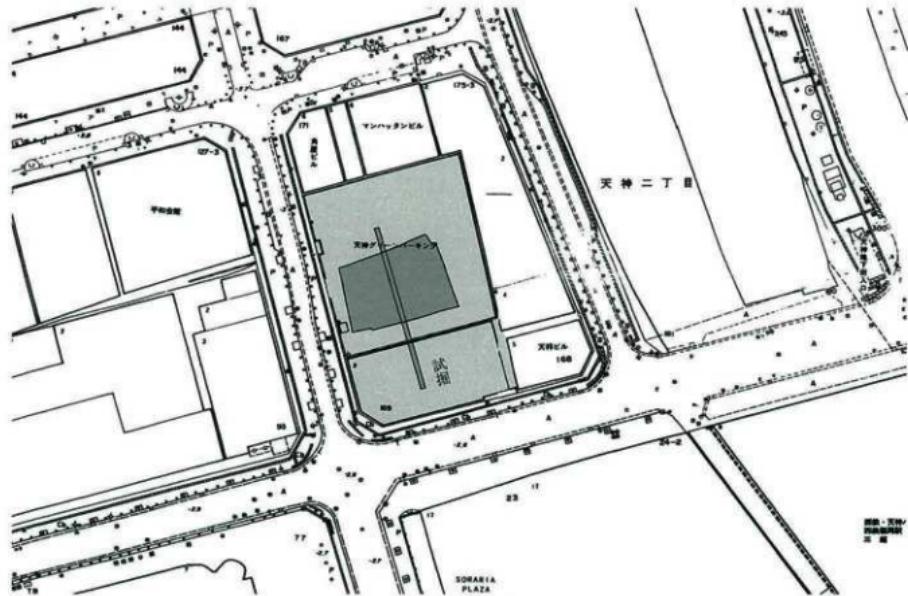
1. 調査地点の位置 (49 天神 0164 1:8000)



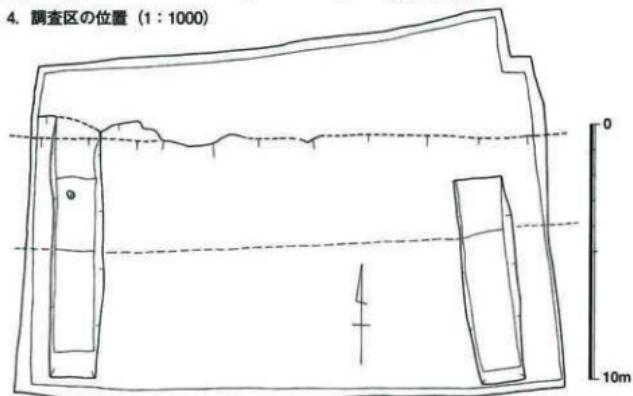
2. 調査区全景 (南西から)



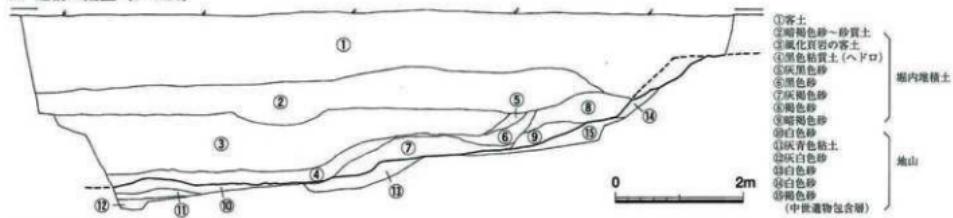
3. 調査区西壁土層断面 (南東から)



4. 調査区の位置 (1 : 1000)



5. 造構の配置 (1 : 200)



6. 調査区西壁土層断面 (1 : 80)

0515 有田遺跡群第 218 次調査(ART-218)

所在 地 早良区有田 1 丁目 12-7

調査面積 95.8 m²

調査原因 個人住宅建築

担当者 阿部 泰之

調査期間 2005.4.27 ~ 2005.5.21

処置 記録保存

位置と環境 有田遺跡群は、早良平野のほぼ中央部、最高所で標高 15m 前後を測る低丘陵上に位置し、旧石器時代から中世にわたる時期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査地点は、ヤツデ状に広がる丘陵の一つの尾根付近に位置する。

検出遺構 今回の調査では、竪穴住居 1 軒・溝 2 条・土壙 2 基・柱穴を検出した。調査地周辺は削平を受けていると思われ、残りは悪い。竪穴住居は貼床の一部および主柱穴のみ検出された。方形プラン・2 本柱で、南側にベッド状遺構の痕跡が検出された。

出土遺物 削平のためか遺物の量は少ない。須恵器・土師器・弥生土器が出土した。ピットのひとつから須恵器蓋が 1/2 個体出土している。

まとめ 今回の調査では、竪穴住居 1 軒・溝 2 条・土壙 2 基・柱穴を検出した。竪穴住居は周壁を削られていたが、方形プラン・2 本柱の住居と推定される。時期は弥生後期頃か。溝は、2 条が互いに直交する位置にあり、2 基の土壙とも同様の関係にある。本調査区の東 50m に位置する第 69 次調査において 3 × 4 m の掘立柱建物が検出されているが、今回の調査で検出した溝と土壙はこれと類似した方位を持つ。これらの溝と土壙は掘立柱建物に伴う布堀りの下部である可能性が考えられるが、全体に遺物が非常に少なく残りも悪いため現場では確認できなかつた。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (82 原 0309 1:8000)



2. 調査区北半全景 (西から)



3. SP 05 遺物出土状況 (西から)

0516 麦野 A 遺跡群第 15 次調査(MGA-15)

所在 地 博多区麦野 5 丁目 1-41

調査面積 91.4 m²

調査原因 個人住宅建築

担当者 屋山 洋

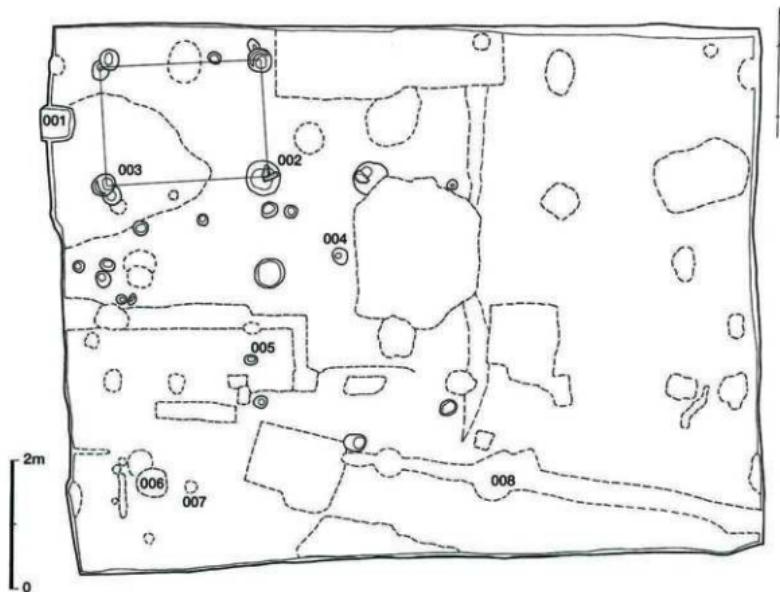
調査期間 2005.5.9 ~ 2005.5.17

処置 記録保存

1. 調査に至る経過

平成 17 年（2005）2 月 10 日に谷口健一氏から福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課に博多区麦野 5 丁目 1-41 に新設する専用住宅に関する埋蔵文化財事前審査申請書（16-2-1055）が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である麦野 A 遺跡群内に位置することから 3 月 10 日に試掘調査を行ったところ、表土直下で遺構を確認した。工事によって遺構が破壊されてしまうため発掘調査が必要と判断して 5 月 9 日から 5 月 17 日まで発掘調査を行った。15 次調査は個人住宅の建設に伴う発掘調査のため住宅基礎部分に基礎掘削時に掘り下げられる周辺部分を足した 91.4 m² を調査対象とした。調査区は標高 15.1m を測る。土壤の状態から 50cm 前後の削平をうけていると思われる。





3. 調査区全体図 (1:80)

る表土剥ぎを行った。表土剥ぎは昼過ぎに終了したのでそれから遺構検出と掘り下げ。11日は一日遺構掘り下げ。ほぼ終了したため12日は朝から調査区の清掃を行い午後全体写真の撮影を行った。13日は職員1人で遺構実測。17日に埋め戻し、片付け、引っ越しを行い調査を終了した。

4. 遺構と遺物

遺構は調査区の西側で柱穴群を確認した。東側は西より更に20cm以上削平をうけ、遺構は確認できなかつた。掘り方は径50cm程と20cm程のものに別れ、径20cm前後の穴は浅く、ほとんど遺物も出土していない。北西隅で掘立柱建物1棟を確認した。

SB01 調査区の北西端で確認した。現状では1×1間の掘立柱建物であるが北と西の2方面は調査区外に延びる可能性がある。柱間はおおよそ東西が2.5m、南北が1.9mで主軸をN-88°Wにとる。柱穴は円形もしくは楕円形を呈し径31~52cm、深さ27~40cmを測る。柱痕跡は確認できなかつた。

002から時期、器種不明の土器小片1点と03から土師皿片が出土した。時期は14~16世紀か。

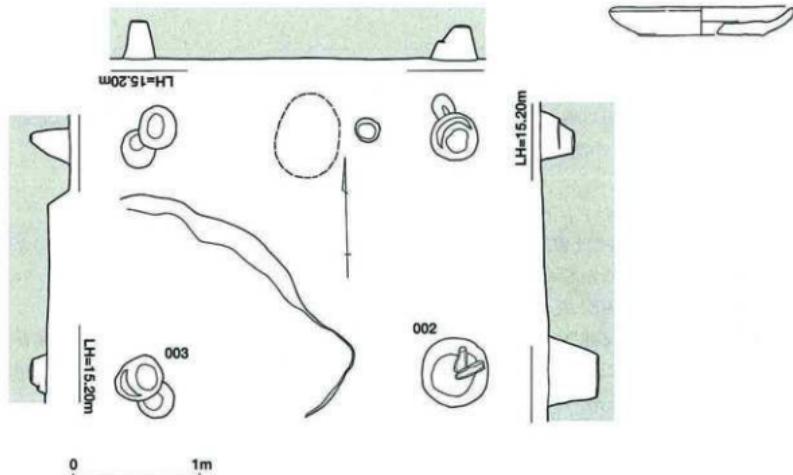
出土遺物(第4図) 1は003から出土した土師皿である。復元口径7.2cm、器高1.1cmを測る。胎土は焼成が弱くやや軟質で、灰褐色を呈し白色砂を少量と微小な雲母片を多量に含む。底部中央に外底部からの穿孔あり。底部切り離しは糸切りである。

5. 小結

中世後半の掘立柱建物を1軒と時期不明の柱穴2基を確認した。残りは近現代の掘り込みである。遺構の残りが悪いのは削平を受けたためと思われる。本調査区は7次調査で出土した古代の官衙遺構である溝と柱穴列の延長上にあたるため、関連する遺構の出土が期待されたが、調査の結果古代と考えられる遺構は確認できなかつた。しかし、2006年に調査が行われた北側隣接地では古代の遺構が確認されており、本調査区周辺まで官衙関連の遺構が広がっていた可能性が出てきた。今後の周辺調査が期待される。

麦野A遺跡第15次調査遺構一覧表

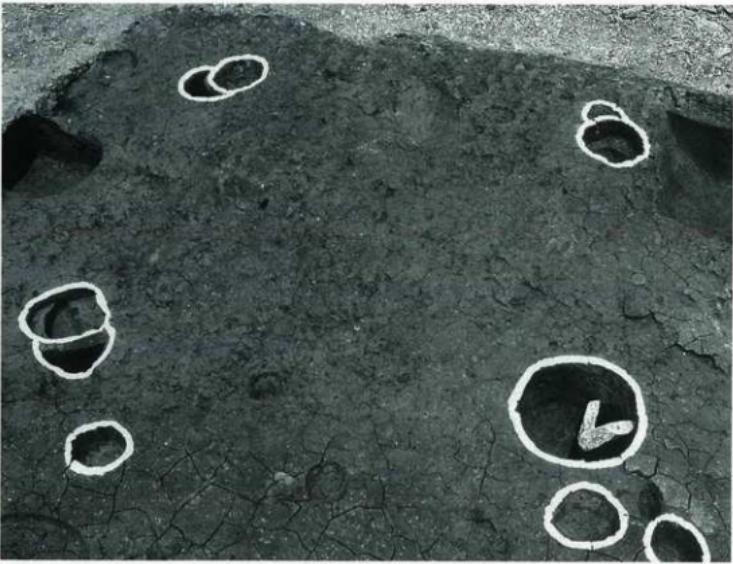
遺構番号	性格	時期	覆土	遺物
001	柱穴状遺構	近現代	下層は橙色土と黒色土の互層	褐釉壺片(?)、陶器皿片(近現代)、その他土器片(不明)
002	柱穴状遺構	不明	暗褐色土、ロームブロック多く含む	土師皿片(不明)
003	柱穴状遺構	中世後半	茶褐色土	土師皿片
004	柱穴状遺構	不明	茶褐色土、ロームブロック多く含む	土器片
005	柱穴状遺構	不明	黒褐色土	土器片(不明)
006	搅乱	現代	灰色	炭化物片(近現代)
007	搅乱	現代	黒褐色土	陶器片(近現代)
008	搅乱	現代	灰色	瓦片(近現代)



4. 掘立柱建物遺構・遺物実測図(1:40, 1:2)



5. 調査区全景（南から）



6. 据立柱建物（南から）

0517 箱崎遺跡群第50次調査(HKZ-50)

所在地 東区馬出5丁目461-1
 調査原因 共同住宅建築
 調査期間 2005.5.12 ~ 2005.6.4

調査面積 69 m²
 担当者 小林義彦
 処置 記録保存

位置と環境

第50次調査区は、宇美川下流の左岸に抜かる古砂丘上に立地する箱崎遺跡の南西部に位置し、南へ100mほどの距離には宮崎宮がある。

調査地周辺では、馬出東浜線の新設やJR鹿児島線の立体交差事業に伴った発掘調査で11世紀～17世紀の建物跡や埋葬遺構等が検出され、門前町「箱崎」の姿が明らかになりつつある。

検出遺構

調査では、中世と近世の2面の遺構を検出した。中世の遺構は、掘立柱建物跡1棟、土壙5基、溝状遺構2条、井戸跡5基がある。このうち建物跡は、柱穴内に人頭大の円礫を敷いて礎石としている。井戸跡は、いずれも桶を井側として埋置している。最深のレヴェルは標高40cmで、壙底の5～10cmほど上面から湧水が観察された。また、土壙のうち29号土壙は土師皿や土師器皿の廃棄土壙である。時期的には概ね室町時代であるが12～13世紀に遡る遺物も含まれている。

近世の遺構は、井側に平瓦を巻いた井戸跡と土壙1基を検出したが、遺物は少ない。

出土遺物

これらの遺構や上面の薄い包含層からは、土師器皿や壺、鉢のほかに弥生式土器片や12～13世紀の青磁や白磁、銅錢などがコンテナケース11箱出土した。また、井戸跡からは、水鳥を象った高麗青磁の香炉蓋が出土した。

まとめ

本調査区で検出した遺構や遺物は、これまでに実施されて周辺調査の成果を補完するものであり、宮崎宮を中心に形成された中世後半期の門前町「箱崎」の在り方を窺い知ることができる資料である。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1:8000)



2. 調査区西側全景 (東から)



3. 土師皿廃棄土壙SK29 (西から)

0518 コノリ遺跡群第5次調査(KNR-5)

所在地 西区拾六町3丁目21-1

調査原因 小学校増築

調査期間 2005.5.16 ~ 2005.6.14

調査面積 110.4 m²

担当者 大塚 紀宣

処置 記録保存

位置と環境 調査地点は毫岐小学校敷地内である。調査地点周囲の旧地形は、拾六町団地が位置する丘陵が東へ傾斜していって十郎川に面する段丘の先端部であったとみられる。敷地内は学校校地造成の際にかなり削られていると推定される。

検出遺構 調査範囲は教室1教室分と廊下部分の、かなり狭い範囲に限られる。北側の隣接地は学校敷地から2~3m高く、調査前から学校敷地内が相当地下げされている懸念があった。表土を除去したところ、やはりかなりの削平を受けており、表土直下でバイラン土および未風化花崗岩が露出したが、その面で柱穴を主体とする遺構群を検出できた。ただし遺構面の遺存状況は悪く、明治~大正時代に建築されたとみられる旧校舎の基礎が縦横に走っている。その他の柱穴や土坑は、硬質の黒褐色粘土を主体とする覆土である。

柱穴のうちいくつかは東西または南北に列をなすものがあり、建物の一部と考えられる。柱穴直径からみて、小型の建物と推定される。

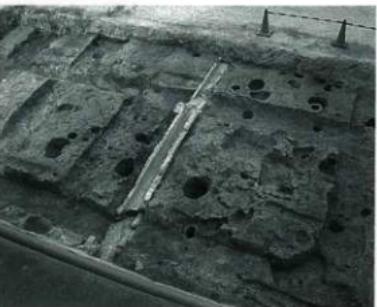
出土遺物 柱穴や土坑からは弥生前期~中期前半の甕底部破片が出土している。また明治~大正の校舎にともなう時代に使用された墨壺とみられる遺物も出土している。

まとめ 弥生時代の遺構群が検出され、集落跡が存在したと考えられる。調査範囲が狭く、また削平も著しいために具体的な建物は確定できないが、掘立柱建物が存在した可能性が高い。

報告書は2006年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (91 橋本 2476 1:8000)



2. A区全景 (南西から)



3. B区全景 (東から)

0519 有田遺跡群第 219 次調査(ART-219)

所在地 早良区小田部5丁目15-5
 調査原因 個人住宅建築
 調査期間 2005.5.24～2005.6.3

調査面積 32.4 m²
 担当者 阿部 泰之
 処置 記録保存

位置と環境 有田遺跡群は、早良平野のほぼ中央、最高所で標高約15mを測る低丘陵上に立地する。今回の調査地点は、ヤツデ状に広がる一丘陵の北端付近に位置する。

検出遺構 弥生時代から中世にかけての遺物が含まれる遺物包含層を検出した。包含層は現地表面から-70cmで検出され、暗褐色シルト質土である。その他、現代の水路跡と推測される溝が1条検出されたが、それ以外の遺構は検出されなかつた。

出土遺物 遺物は、陶器・須恵器・土師器・弥生土器・黒曜石片が出土した。

まとめ 今回の調査では、弥生時代から中世にかけての遺物が含まれる遺物包含層を検出した。本調査区の南50mに位置する第90次調査において台地の間に走る谷の谷頭が検出されているが、今回の調査で検出された遺物包含層は、この谷の堆積層と思われる。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (81 室見 0309 1:8000)



2. I区全景 (西から)



3. II区全景 (南西から)

0520 南八幡遺跡群第14次調査(MHM-14)

所在地 博多区元町1丁目17

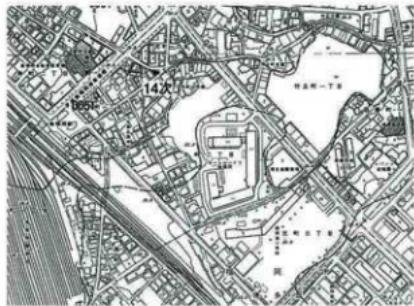
調査面積 90.38 m²

調査原因 店舗建築

担当者 屋山 洋

調査期間 2005.5.30～2005.6.3

処置 記録保存



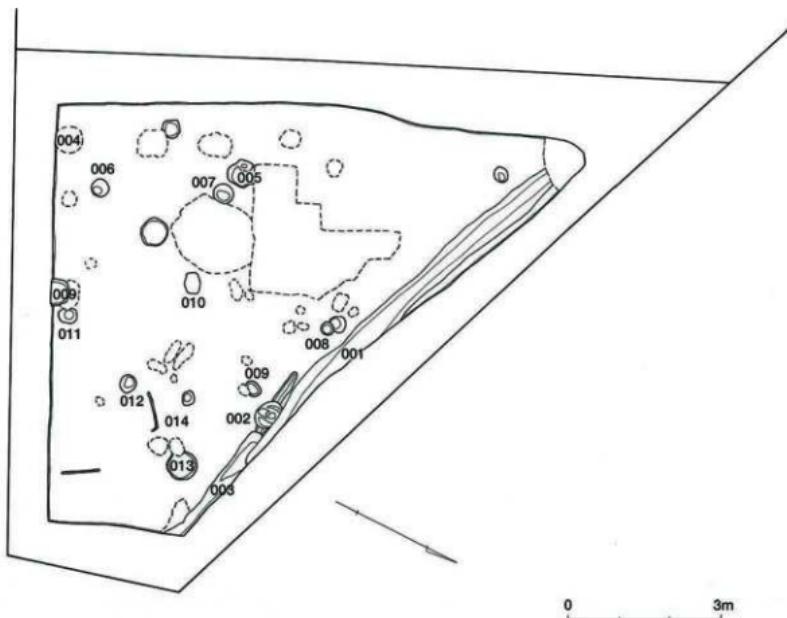
1. 調査地点の位置 (13 雜鈔限 0051 1:8000)

1. 調査に至る経過

平成17年4月15日付で森岡恵子氏より博多区元町1丁目17番の埋蔵文化財事前審査の依頼が提出された。申請地は南八幡遺跡群の範囲内であったため、5月2日に試掘調査を行ったところ表土直下で遺構を確認した。工事によって遺構が破壊されるため5月30日から調査を行った。

2. 位置と周辺環境

南八幡遺跡群は福岡市のほぼ中央を御笠川の左岸に沿いながら博多湾に向かってのびる低丘陵上に位置する。



2. 調査区全体図 (1:100)

この丘陵には初期の環濠集落や水田が発見された板付遺跡などがあり、古代には博多と大宰府を結ぶ官道が作られるなど市内近辺でも最も遺跡が集中する地域のひとつである。南東側に位置する雑餉隈遺跡群や北西側に位置する麦野遺跡群とは浅い谷で区切られているが一連の遺跡であって、近年発掘調査件数の多い地域である。

南八幡遺跡群のこれまでの調査では旧石器時代や縄文時代の遺物・遺構も見つかっているがまとまりはなく、遺構が多くみられるのは弥生時代後期後半や古墳時代後期の集落である。8世紀の古代になると遺跡全体に集落が広がり、どの調査区地点でもこの時期の遺構が確認されている。

3. 発掘調査の経過

敷地全体が調査対象地であり廃土置き場の確保ができないため、調査区東側の2/3を最初に調査し、調査終了後打って返しを行い、残り西側1/3の調査を行うこととした。5月30日に表土剥ぎを開始し、同時に調査区の外柵など条件整備を行った。午後からは遺構の精査と掘り下げを始めた。31日は遺構掘り下げの続き。攪乱が多いうえ、機械で押し固めたコンクリートなどのガラが地山に食い込んでおり、除去には時間を要した。6月2日午前中は遺構の掘り下げを行い、午後は調査区の清掃を行い、17時前に全体写真を撮影した。6月3日に打って返しを行い精査したが、001の続きと柱穴、攪乱が1基ずつしかなく、そのまま掘り下げと実測、写真撮影を行って調査を終了し、午後には埋め戻して撤収した。

4. 検出した遺構と遺物

14次調査では柱穴状遺構数基と溝を確認した。削平のため遺存状態は悪い。

001は溝で深さ20cmを測る。中～下層で近代の陶磁器が1点出土した。現道路に沿っており、側溝と思われる。003も溝で時期は001とほぼ同時期と思われる。014の細い溝状遺構は竪穴式住居の壁溝の可能性がある。出土遺物無し。002柱穴状遺構で覆土が茶褐色を呈する。時期は近代だが古代の須恵器小片が出土。004は攪乱。005は白磁小片が出土。006は時期不明。009は径18cmの柱痕跡を確認したが出土遺物無し。柱穴状遺構では遺物がほとんどないため時期を決めがたい遺構が多い。

5.まとめ

東側隣地の11次調査では8世紀代の竪穴式住居や溝、掘立柱建物などが検出されており、南八幡遺跡の他の調査区同様に古代の集落が広がっていることが確認されているが、本調査区では弥生、古墳時代、古代のいずれにしても明確な遺構を確認することができなかった。



3. 調査区全景（北東から）



4. 溝（東から）

0521 警弥郷B遺跡群第5次調査(KYB-5)

所在地 南区弥永5丁目18-2~5

調査面積 1237.25 m²

調査原因 共同住宅建築

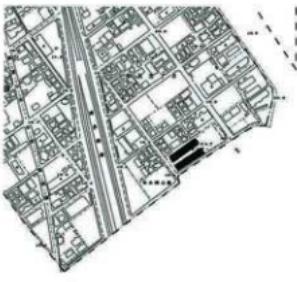
担当者 藏富士寛

調査期間 2005.6.1~2005.8.26

処置 記録保存

位置と環境

警弥郷B遺跡は那珂川中流域の東岸、標高18~20m程の沖積地に位置する。遺跡は福岡市域に止まらず、春日市域、那珂川町域へと広がりをもつ。今次調査地点の西側では、1、2次調査が行われており、2次調査では弥生時代前期末葉の水田が検出されている。



検出遺構

調査地点は大きく削平を受けており、遺構密度は薄いものであったが、古墳時代前期の竪穴住居3・溝1、弥生時代前期の溝2、弥生時代中期の甕棺墓5を検出した。

古墳時代の遺構：竪穴住居はいずれも方形を呈する。掘り込みは数cmしか残っておらず、遺構の遺存状況は悪い。溝は深さ0.8m、幅3mを測る。埋土の半ばに砂層をみることができ、この溝は水路であった可能性が高い。

縄文・弥生時代の遺構：溝は2条あり、1つは幅0.6m、深さ1mを測るもので、壁の立ち上がりは垂直に近い。もう1つは幅1.7m、深さ0.6mを測るもので、溝は段状に掘り込まれており、溝底面の幅は0.4m程で、そこから0.2mは垂直に立ち上がる。この溝も半ばに砂層を含んでおり、砂層より上は古墳時代前期の土師器、下は赤帶文土器がそれぞれ出土する。つまり、この溝は2時期にわたる使用が認められる。甕棺墓は汲田～須玖式に相当するもので、いずれも小児棺である。

出土遺物

甕棺、土師器等、コンテナ20箱程。

まとめ

今回の調査では縄文・弥生時代、古墳時代それぞれの遺構を検出することができた。いざれも該期の集落、および周辺の景観復元に重要な成果であるといえる。今後の調査の進展により、警弥郷B遺跡における往時の様相がより明らかになるだろう。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置 (41 警弥郷 0158 1:8000)



2. 調査区北東側（北東から）



3. 溝（北から）

0522 比恵遺跡群第 100 次調査 (HIE-100)

所在地 博多区博多駅南 4 丁目 71-1,77

調査面積 480.3 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 久住 猛雄

調査期間 2005.6.1 ~ 2005.7.1

処置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群は福岡平野の北半、御笠川と那珂川に挟まれた中位段丘上に立地する。調査地点は遺跡群の北東部に位置し、御笠川左岸に接する山王遺跡とは浅い谷を隔てた位置にある。昭和の区画整理以前の調査地点は、西側がやや高い段丘、東側は一段低い水田だったと推定される。現況は平坦であり、付近の標高は 6.5m 前後である。

検出遺構

遺構検出面は現地表から -100 ~ 140cm の八女粘土上面である。昭和の区画整理により全体的に削平された上に、旧建物の基礎と解体により顯著な削平と擾乱を受け、遺構の遺存は悪い。溝状遺構 3、井戸 2、不明遺構（竪穴住居の貼床痕跡か）1、掘立柱建物 1、柱穴若干を検出した。溝のうち SD001 は近世後期以降から近代の水路で、井堰状の杭列痕跡がある。SD002 は SD001 に一部切られるがほぼ平行する古代の溝である。箱形断面で掘り直しが推定され、掘り直し土層の底面から 8 世紀前半の須恵器が出土した。SD006 は 002 に平行する細い小溝である。井戸 SE005 からは古墳時代前期中頃の、SE011 からは弥生時代終末の土器群が各々の下層から一括して出土した。いずれも素掘りである。SB001 は推定 1 × 2 間の掘立柱建物で、古墳時代初頭と推定される。柱穴の残りは非常に悪い。他に弥生～古墳時代と考えられる柱穴もあるが、削平や擾乱で建物構成は不明である。

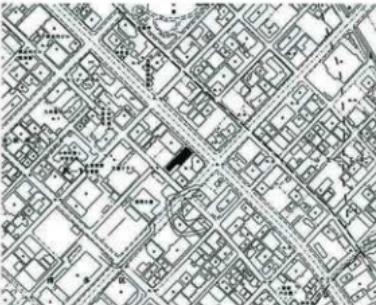
出土遺物

パンケース 6 箱分出土した。弥生土器、古式土師器、古代の土師器・須恵器、中世～近世の土器・陶磁器のほか、弥生終末の井戸より木製品や植物遺存体（種子）が出土した。

まとめ

遺構の展開から、調査区東側も近世の水田開発前はやや高く、段丘の東斜面であったと推定され、本来は弥生時代から古代の集落遺構が多く存在したと考えられる。また、古代の溝 SD002 は東西正方位に走行し、段丘を広域に区画する施設の一部の可能性がある。

報告書は 2006 年度刊行予定。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. I 区 (東半調査区) 全景 (北から)



3. II 区 (西半調査区) 全景 (北から)

0523 元岡・桑原遺跡群第44次調査(MOT-44)

所在地 西区大字元岡字広瀬

調査面積 1,189 m²

調査原因 大学移転用地造成

担当者 木下博文

調査期間 2005.6.1 ~ 2005.10.20

処置 記録保存

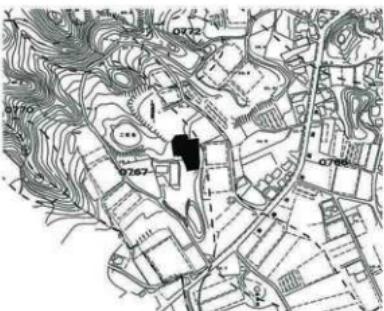
位置と環境 元岡・桑原遺跡群は福岡市の西端、糸島半島の東側基部の丘陵地帯に所在する。今回の調査地点は、遺跡群の西南部、標高16~20mの丘陵の東斜面に位置する。北の隣接地では2002年度に第32次調査が実施されている。同調査区南部で検出された古墳時代の遺構の精査を含め、同調査区で確認できなかった製鉄・鍛冶関連遺構の有無確認などを目的とし、調査を実施した。

検出遺構 包含層は3層あり、各層上面で遺構検出を行った。特に第2面では南北方向の2×1間掘立柱建物・溝とそれに並行するピット群を検出した。これらは磁北に沿っており、企画性の高い施設群である。他に焼土坑、土坑、建物としてまとまらないピット群を検出した。第32次調査区南部では古墳時代の竪穴住居跡1棟を検出した。

出土遺物 古墳時代後期~終末期および奈良~平安時代前期の須恵器・土師器を中心に、最古では弥生時代中期の甕、最新では中世の龍泉窯系青磁碗・土師器皿・須恵器鉢、その他石器(砥石・大型蛤刃石斧など)・鉄滓等、コンテナ60箱分が出土した。

まとめ 古墳時代後期~終末期の掘立柱建物・溝を検出した。斜面地を削って大規模な造成を繰り返し、一定の軸線に沿った施設群を造っている。遺物からみれば、造成は弥生中期から開始されている可能性がある。焼土坑や鉄滓の存在から、周辺に製鉄・鍛冶関連遺構の存在もうかがえる。また居住地としての利用は中世にまで及び、中国産磁器の存在から、居住者の階層もうかがえる。なお調査区の中央、最終遺構面の一部が本来の地山(花崗岩バイラン土)ではないことから、調査終了時に重機掘削を行った。褐色粘土が厚く堆積し、深さ3.5m以上で礫層に達した。旧地形は調査区中央に、東側から深い谷が入り込んでいたようである。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 0176 1:8000)



2. 調査区第2面全景 (北から)



3. 1区第2面掘立柱建物 (南から)

0524 博多遺跡群第153次調査(HKT-153)

所在地 博多区下呂服町 425-2、426-2

調査面積 132 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 小林義彦

調査期間 2005.7.22～2005.9.22

処置 記録保存

位置と環境

調査地は、博多湾に面して拡がる博多遺跡群の北東部に位置し、遺跡群を形成する海側の古砂丘「息の濱」の北東縁に立地している。



1. 調査地点の位置 (48 千代博多 0121 1:8000)

検出遺構

調査では、基礎石列をもつ大型の建物跡1棟、石積土壙2基、土壙15基、石組炉1基、埋甕2基、井戸跡3基のほかに柱穴を検出した。このうち大型の建物跡は、東西10m、南北4.5mの規模で、基礎石は溝状の掘方に人頭大～拳大の円礫や角礫を50cmの厚さに隙間なく敷き詰めている。また、この建物の南辺に近接した円形土壙の壠底には、直径が35cmの銅製の盤・水盥と銅瓶、鉄鏡の4点が壁面に掛け並べるようにして埋置されていた。



2. 調査区全景 (西から)

出土遺物

これらの遺構や包含層からは、肥前系陶磁器や土師器、瓦器などのほか銅製品や鉄製品、土錘、石鍋、銅錢などがコンテナケース22箱ほど出土した。



3. 銅器埋納土壙 (北西から)

まとめ

本調査区で検出した遺構や遺物は、太閤町割り後の「近世博多」の在り方が窺い知れる好資料である。殊に、基礎石列をもつ大型の建物跡は、調査区の西方に近接する嶋井宗室や神屋宗堪の屋敷跡や万四郎神社などの存在を勘案すると貴重な資料である。また、鎮壇具としての埋納が想起される土壙の検出は、基礎石列をもつ大型建物の建設に伴う祭祀を考える上で貴重な資料となるものである。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。

0525 井相田C遺跡群第6次調査(ISC-6)

所在地 博多区井相田1丁目7-5

調査原因 社屋建築

調査期間 2005.6.13 ~ 2005.6.24

調査面積 134 m²

担当者 吉武 学

処置 記録保存

1. 位置と環境

井相田C遺跡群は御笠川と那珂古川に挟まれた沖積微高地に立地する。この微高地は、南東-北西方向に流れる複数の小流域により、幅狭な高まりに更に分断されることがこれまでの調査によって明らかとなっている。本調査地点はこのような高まりの北端に位置するものと推定され、試掘調査では申請地の南半にピットを主とする遺構を検出し、北半は地形が下がって湿地状になることを確認している。現況は休耕田で、地表面の標高は10.5m、西側の旧3号線道路面との比高差1.5mを測る。

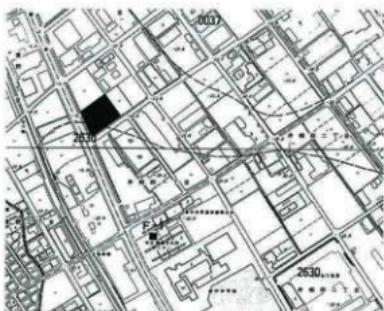
基本的に小流域内は慎重工事とし、社屋建設により遺構が破壊を受ける敷地中央部(I区)と、擁壁工事により破壊を受ける西端部(II区)を調査対象とした。地表から遺構面までの深さは30cm前後で、地山は固く締まった砂質土で、その下層は固く締まった粗砂となる。

2. 検出遺構

検出遺構は、北側に落ちる自然流路1(SD-001・011)、土坑5(SK-002・005・013・019・020)、ピット少數で、その他は擾乱坑である。

SD-001はI区の、SD-011はII区のそれぞれ北端に検出した自然流路の落ち際で、一連のものと考えられる。土層図に示すようにSD-001は北へ急に落ち込むが、SD-011は傾斜がほとんどなく湿地状を呈しており、SD-011の本来の落ち際はもっと北側に存在すると考えられよう。

SK-002はI区中央に検出した梢円形プランの土坑で、径は2.5×1.3m、深さ0.8m。土器小片が出土した。SK-013はII区北端に検出した梢円形プランの土坑で、径は2.05×1.0m、深さ0.55m。土器小片の他、図示した押型文土器と黒曜石核が出土したが、古代の土坑と思われる。SK-020はII区の中央に検出し、調査区西壁にかかる。南北長2.05m、深さ0.7m。図示した丸底坑が出土しており、古代。



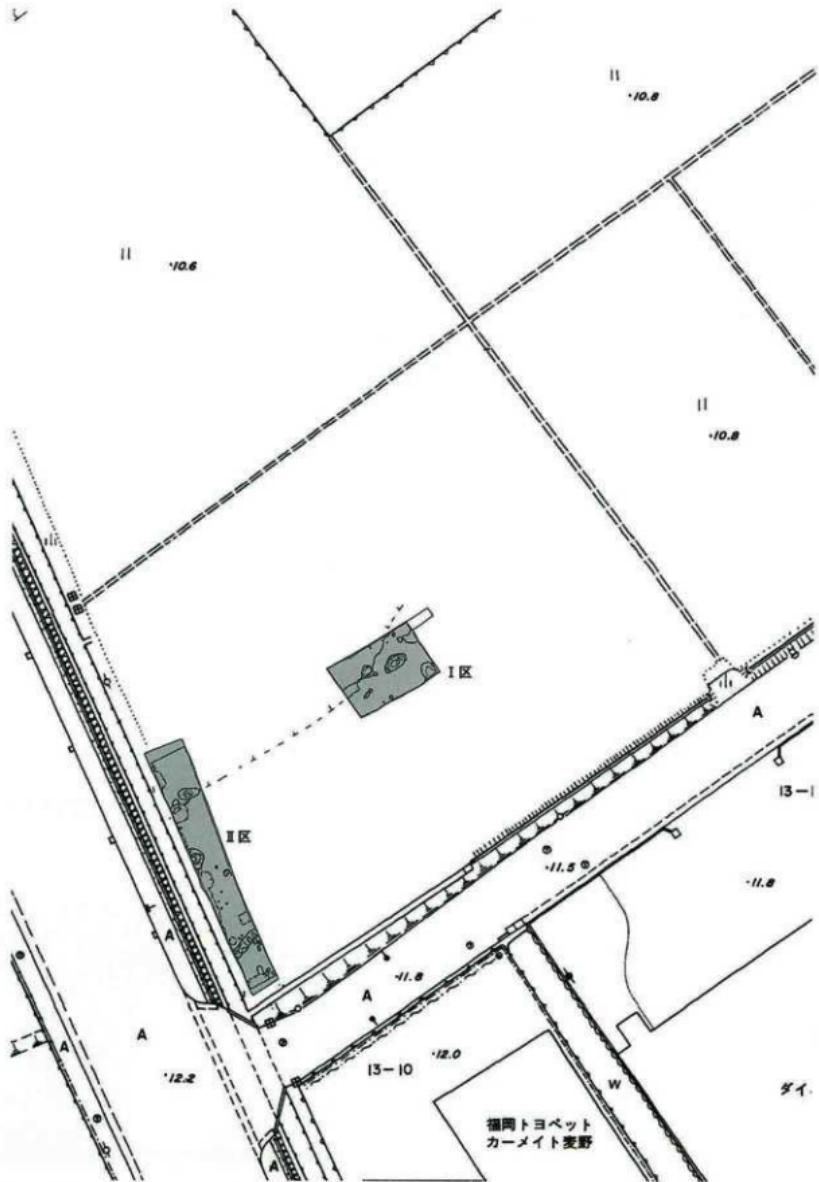
1. 調査地点の位置 (11 金隈 2630 1:8000)



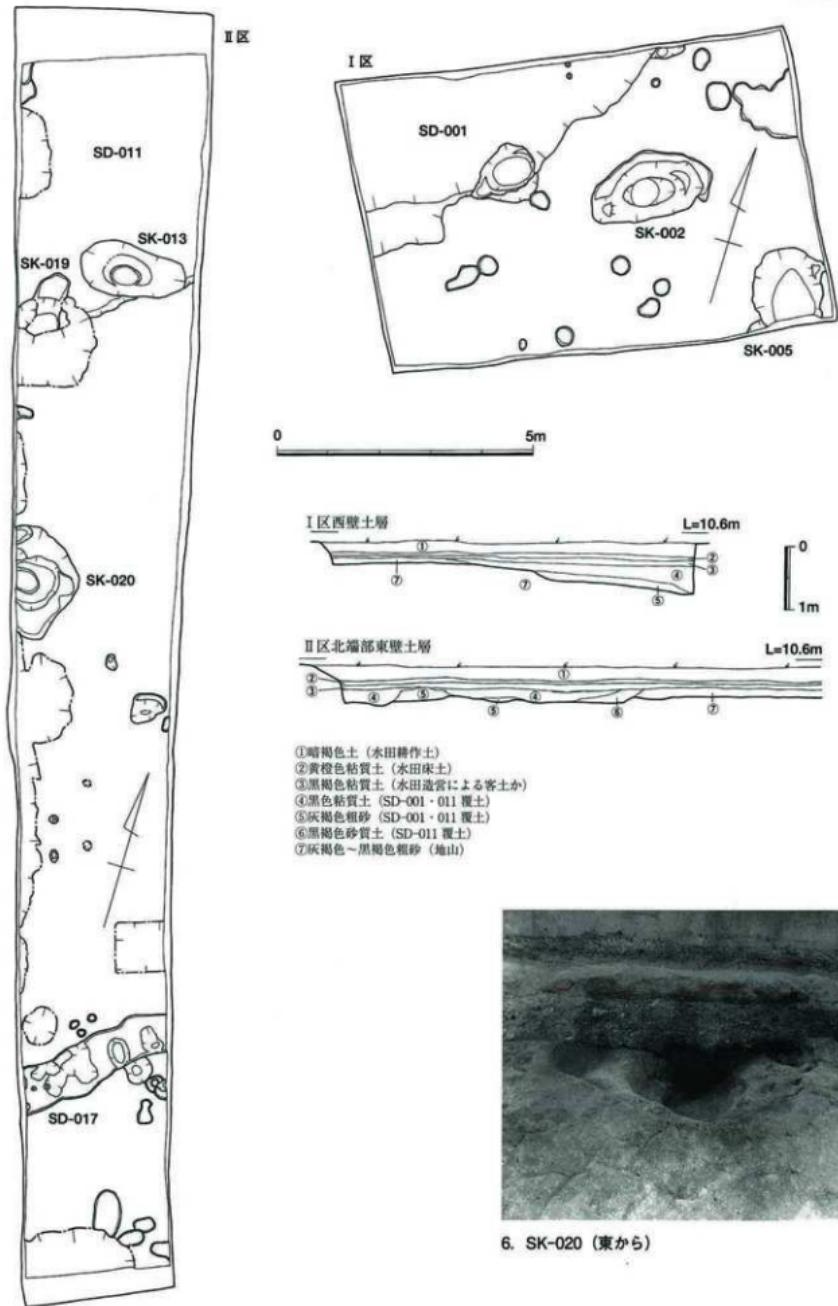
2. I区全景 (南東から)

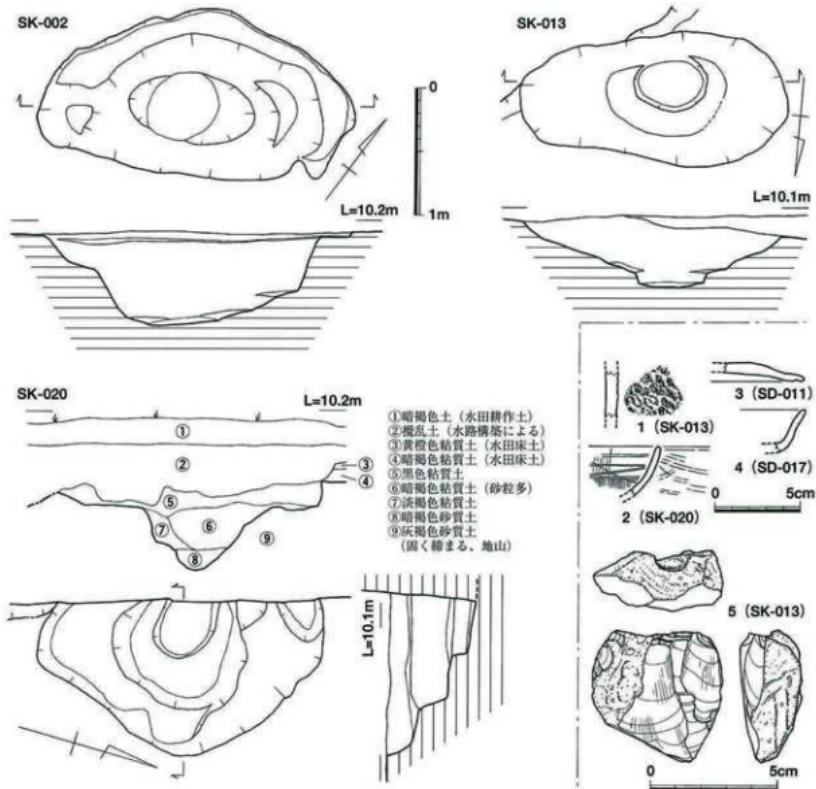


3. II区全景 (北から)



4. 調査区の位置 (1 : 500)





7. 土坑 SK-002・013・020 (1:40)、出土遺物 (1:3, 1:2)

3. 出土遺物

土師器・須恵器・黒曜石片などがコンテナ1箱分出土した。1は繩文土器で、摩滅しているが小粒の指円押型文が認められる。小片のため天地・傾きは不明。2は土師器丸底壺で、内面に丁寧な、外面に雑なヘラミガキを施す。3は須恵器壺蓋、4は同じく壺身である。5は漆黒色黒曜石の石核で、自然面打面から3回の剥片剥離作業を行っている。側面調整はない。各々の出土遺構は番号の右に()で示した通りである (SD-017は近世)。

4.まとめ

各遺構から出土した土器は細片が多く、詳細な時期は明らかにしがたいが、流路は古代以降、他の遺構は古墳時代・古代墳とみられ、一部近世以降に下るもののが含まれる。試掘調査では、特に敷地の南端で遺構を濃く検出しておらず、これより以南に古代を中心とする遺構が展開するとみられる。今回の調査区は流路の落ち際にあたっており、遺構・遺物が少ないのであろう。

0526 比恵遺跡群第 101 次調査(HIE-101)

所在地 博多区博多駅南 5 丁目 106-1, 107 調査面積 119.9 m²
 調査原因 共同住宅建築 担当者 大塚 紀宜
 調査期間 2005.6.14 ~ 2005.7.16 処置 記録保存

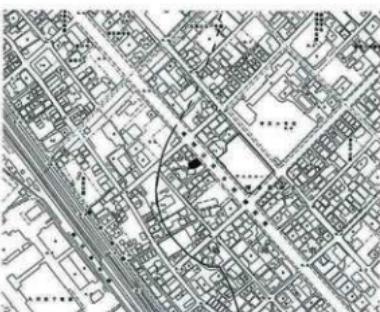
位置と環境 比恵遺跡群の西側端部に位置する。那津官家の推定地の西側に隣接する地点である。現況は宅地で、周囲よりも 1m 程高くなっている。地元の古老によると、旧況は小高い丘状の地形で、現在より 2m 以上高かったらしい。現在の標高は 6m 前後である。

検出遺構 宅地造成の際に激しく削平されており、現在の地表面上で明赤褐色ローム層が露出して、この面で遺構を検出す。検出された遺構は弥生時代前期後半の貯蔵穴、弥生時代後期の井戸、弥生・古墳時代の柱穴群である。貯蔵穴は合計 6 基検出されている。貯蔵穴のうち 3 基はフ拉斯コ形で、床面の平面形は整った長方形を呈する。床面の四隅は明瞭で床面も凹凸が少なく、全体にシャープな形態をとる。井戸は 1 基検出され、直径 1m、検出面からの深さは 1.2m で、本来の地表面からかなり削平されていると考えられる。

出土遺物 遺物は床面直上や覆土上層の流入土中から板付 II b 式の壺形土器が略完形で出土するものがあるが、全般に遺物量は少ない。井戸底面から高三溝式の壺形土器が完形で出土する。

まとめ 周辺の旧地形と、貯蔵穴の立地状態からみて、弥生時代前期には一帯に集落が存在していた可能性が高く、その後削平により、竪穴住居が失われ、貯蔵穴のみ遺存している状況であると推定される。隣接する那津官家に関する遺構・遺物はほとんどみられないが、これも削平の結果と考えるべきであろう。

報告書は 2006 年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区西半全景 (東から)



3. 調査区東半全景 (西から)

0527 席田青木遺跡群第6次調査(MZK-6)

所在地 博多区青木1丁目438、438-2

調査面積 196.7 m²

調査原因 共同住宅建築

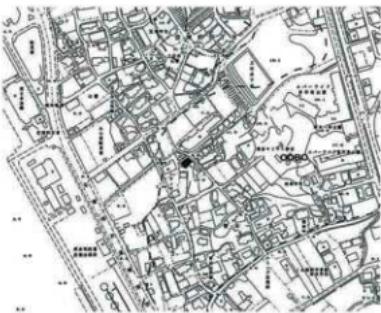
担当者 屋山 洋

調査期間 2005.6.15～2005.7.14

処置 記録保存

位置と環境

席田青木遺跡は福岡平野東端を東南から北西に向かって延びる月隈丘陵の北端部に位置する。月隈丘陵の西側斜面は開析を多く受けた地形を呈しており、多くの丘陵と谷部が入り組んでいる。席田青木遺跡群は北東から南西に向かって延びる舌状の丘陵上と丘陵南北両側の谷部を含んでおり、これまでの発掘調査で壺棺墓地、弥生時代集落や、古代集落、近世～近代墓が検出されている。今回の5次調査地点は舌状丘陵の落ち際に位置しており、調査区北端からは北に向かって傾斜し、また調査区西端では西側に傾斜する深さ1m以上の段落ちを確認した。



1. 調査地点の位置 (22 上臼井 0080 1:8000)

検出遺構

調査区内では弥生時代の貯蔵穴、柱穴状遺構と中世の土壙墓、溝、柱穴状遺構を確認した。

出土遺物

貯蔵穴は調査区外に延びるが径2.5mを測る。遺物は床面上直上から袋状口縁壺などが出土した他に、弥生時代後期中頃の土器片が多く出土している。溝と土壙は古代末～中世と思われる。溝は4条確認した。ややずれるものの東西南北を意識した可能性があり、水が流れた痕跡もみられないため区画の溝と考えられる。土壙墓は長径2.3m、短径1.2mを測る。溝と土壙墓からは白磁の小片が出土している。柱穴状遺構では柱痕跡は確認できなかった。柱を抜いた後に完形の弥生後期の小型壺を埋めた穴もあり、建物廃絶時の祭祀である可能性が考えられる。



2. 調査区全貌 (南から)

まとめ

隣接する3次調査では弥生時代終末の竪穴式住居や井戸が確認されているが、本調査地点ではそれらの遺構は確認できなかった。理由としては3次調査が丘陵の落ち際に谷部に位置するに対し、本調査地点は完全に丘陵上に位置するなど立地条件が異なることや、丘陵上が削平を受けやすいため消滅した可能性が考えられる。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



3. 柱穴出土小型壺 (北から)

0528 大塚遺跡第8次調査(OTS-8)

所在地 西区今宿町地内

調査面積 347.3 m²

調査原因 区画整理

担当者 阿部泰之

調査期間 2005.6.10 ~ 2005.6.30

処置 記録保存

位置と環境

本調査区は、高祖山から北に派生する低丘陵の北端部に位置する。調査区の南約100mに今宿大塚古墳が、谷を挟んで東には今宿五郎江遺跡が位置する。現地表面から-約70cmで遺構面の黄褐色粘質土となり、東側2/3は今宿五郎江遺跡との境界となる谷となり、河川堆積の粗砂層・泥炭質土層が堆積している。

検出遺構

今回の調査で検出された遺構は、ピット1基である。埋土は黒褐色土で柱痕跡が観察でき、柱穴と思われる。これ以外に遺構は検出されなかった。

出土遺物

遺物は、ピットから平瓦が1点出土した。そのほか遺構検出面から弥生土器・石斧が出土しているが、いずれも細片であり、量も少ない。

まとめ

今回の調査では、柱穴と思われるピット1基を検出した。遺構面の土質は粘土であり、台地は今回の調査区までは伸びないと想われる。遺構面にも部分的に粗砂がかんでいる状況がみられ、頻繁に水をかぶる地点であったと思われる。いずれにせよ遺構・遺物ともに僅少で、大塚遺跡の北端部を検出したものであろう。

調査報告書は2007年度以降に刊行予定。



1. 調査地点の位置 (112 今宿 0625 1:8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 調査区北壁土層 (南西から)

0529 麦野A遺跡群第16次調査(MGA-16)

所在地 博多区麦野2丁目29-12

調査面積 26 m²

調査原因 公民館増築

担当者 荒牧 宏行

調査期間 2004.4.20 ~ 2004.5.31

位置 記録保存

1. 位置と環境

同敷地は公民館改築工事に伴い1982年、1983年にわたって調査を行っている。(『麦野下古賀遺跡』市埋蔵文化財調査報告書第107集 1984) 今回は再度、建て替え工事に伴い27m²の未調査範囲の調査を実施した。

調査地点は洪積世台地の中央付近に位置する。現況GLは標高15.2mを測り、客土と畑耕作土を除去した標高14.0m前後の鳥栖ローム上面が遺構検出面である。地山は東へ緩やかに傾斜している。

2. 検出遺構と出土遺物

SK01 調査区東際で検出された。長径約2mの楕円形プランを呈し、深さ約1.0mを測る。南側にSK01に付随すると思われる階段状の掘削がみられSK02とした。SK02の埋土はSK01に向かって流れ込んだ堆積をしていた。SK01の埋土は層厚約70cmのロームを多く含む土層が一気に堆積し、最下に厚さ5cmの暗灰色粘質土がみられた。

出土遺物 1は須恵器、2は底径4.2cmの小形土師皿である。外底は糸切り、内底は中央が隆起している。3は土師質の鍋。外面は火熱を受け煤が付着し、内面にはカキメが残る。4は土師質の壺頸部である。外面に斜位のハケメと横位のカキメを施す。5は土師質の捏鉢。以上の遺物から中世末(16世紀以降か)と考えられる。

SK04 150~160cmの方形プランを呈す。深さ20cmと浅い。

出土遺物 13の白磁碗の遺存する外面は露胎である。

SE05 調査区西際で検出された。約1m四方の井戸枠の痕跡が検出され、内側を検出面より深さ約270cm掘り下げたが底面には達せず、安全上、発掘を中止した。井筒の痕跡は検出できなかった。

出土遺物 6は越州窯青磁皿で大宰府分類の皿II類に近い。外反した口縁端部に輪花が刻まれている。体部は内湾し、輪花の凹部下に綫線が彫られている。遺存する内外面はオリーブ色に発色した釉が施され細かい氷裂がみられる。7



1. 調査地点の位置 (25 井尻 0048 1:8000)



2. 調査区全景 (東から)



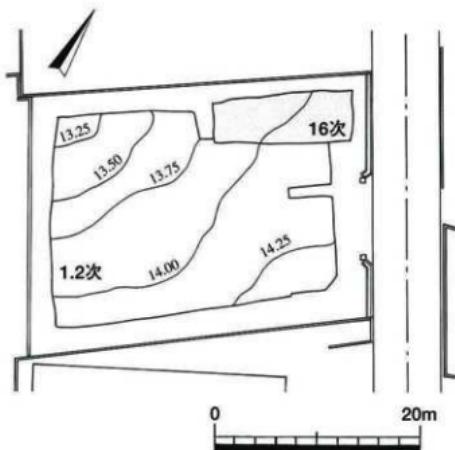
3. SK01 完掘状況 (南から)

は外底に板目を残す。8の外底は回転ヘラ切りである。9、10は内黒土器である。11は土師器壺。11の外面には粗いハケメもしくはタタキの痕跡がわずかにみられる。12の瓦は凸面に縄目、凹面に布目を残す。黒～灰色を呈し硬質。胎土に石英粒を多く含む。以上、出土遺物は11世紀代までにおさまると思われる。

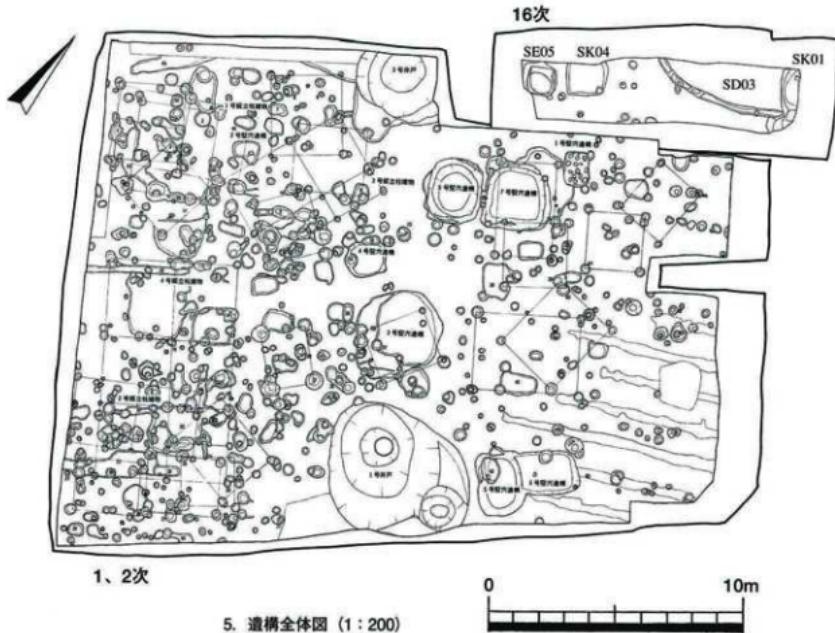
SD03 幅25cmで湾曲しながら伸びる。深さ10～20cmを測り、底面に凸凹がみられる。出土遺物は無く時期は不明であるが、SK01に切られる。

3.まとめ

先の調査成果とあわせ、中世特に16世紀以降の中世末の遺構が目立つ。その中でも11世紀代とみられるSE05は古

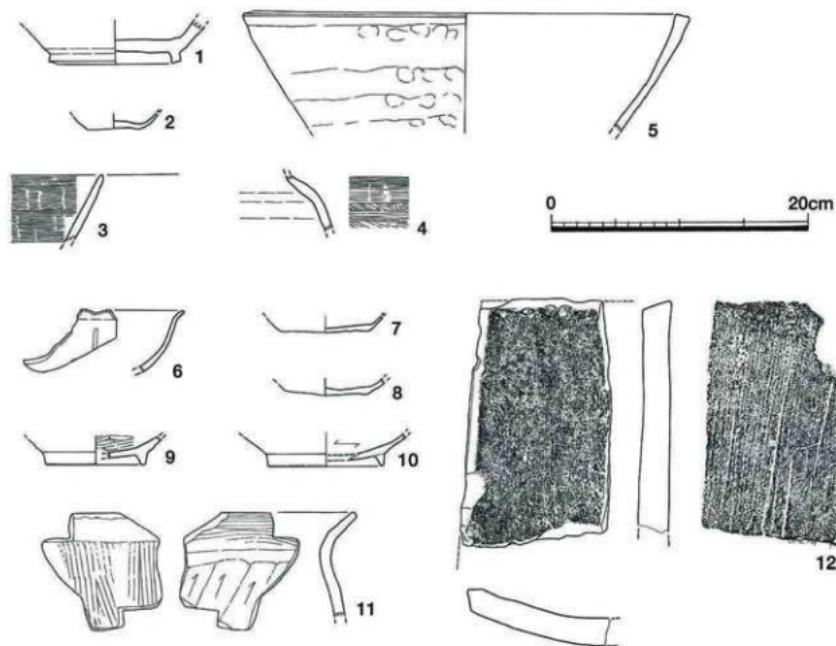


4. 調査区と地形 (1:500)

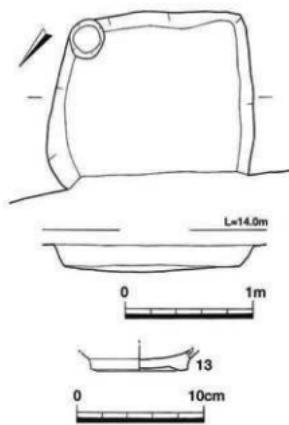


1、2次

5. 遺構全体図 (1:200)



6. 出土遺物実測図 (1 : 4)



7. SK04 と出土遺物 (1 : 40, 1 : 4)



8. SE05 実掘状況 (南から)

期に属す。出土遺物には古代まで遡るものがある。遺構配置からみると敷地中央に井戸や土壙が集中し、その地帯を境に遺構密度の濃淡がみられる。

0530 三筑遺跡第5次調査(SCC-5)

所在地 博多区三筑2丁目9-2
 調査原因 公民館等建設
 調査期間 2005.6.22～2005.8.9

調査面積 385 m²
 担当者 荒牧 宏行
 処置 記録保存

1. 位置と環境

調査地点は三筑遺跡群の南端に位置し、古墳時代の井堰が検出された三筑中学校の南約200mに位置する。(『三筑遺跡・次郎丸高石遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第69集 1981)

調査区の東側には南八幡から麦野にかけて北西方向へ延びていく洪積台地が間近にせまる。この台地の西側には諸岡川の上流(支流)が流下し、周辺一帯は現代まで水田地帯が広がっている。

2. 層序

調査区は約1m厚さの客土下に旧表土とみられるアズキ色に近い黒褐色土が5cm前後堆積していた。(5.調査区東壁土層図)その下層に明黄褐色粘質土が堆積し、この層の上面を造構検出面とした。この検出面の標高は12.75～12.90mを測り北西方向へ緩やかに傾斜している。また、東側では上に砂シルト層が数センチ堆積し、人や動物の足跡と確認できるものは無いが径10cm前後の小さな略円形プランの砂の凹みが部分的に集中しているのを検出した。流水により搅拌されたものと思われる。

調査後掘り下げを行い下層の堆積状況を確認した。検出面とした明黄褐色粘質土は約40cm堆積し、下部はグライ化している。さらに下層は無遺物の灰色砂が堆積し北西方向へ向かう流路を検出した。

3. 検出遺構

明確な造構は溝1条(SD06)のみである。東側に柱穴や土壤の可能性がある落ち込みが数個みられるが、西半側でみられる不整形の落ち込みは搅拌された2次堆積によるもので、人為的な造構ではない。

SD06 調査区南東際で検出された。幅40cmで鈍角に開いたコーナーを有し、延長する。深さは5cm程度で底面は流水により搅拌された凸凹が多くみられる。形状から畦溝等の水田施設の可能性がある。



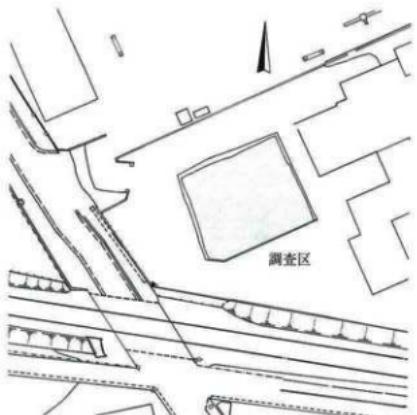
1. 調査地点の位置 (25 井尻 0104 1:8000)



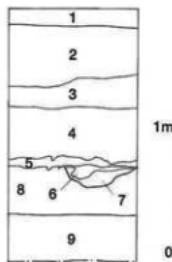
2. 調査区東半全景 (南東から)



3. 調査区北西部全景 (南東から)

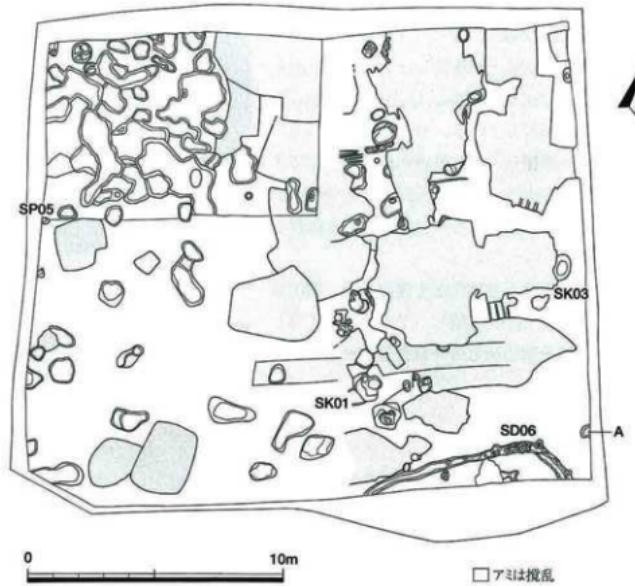


4. 調査区位置図 (1 : 1000)

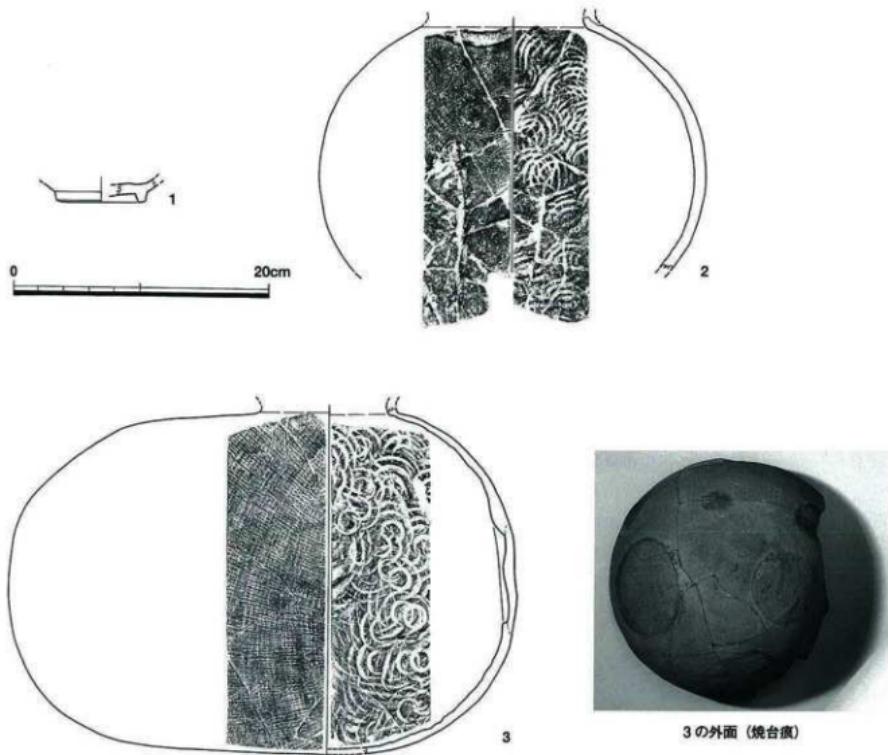


5. 調査区南東部A地点土層 (1 : 40)

- 1 コンクリート
- 2 クラッシャー
- 3 寄土
- 4 マサ土
- 5 暗黒褐色土 (旧表土)
- 6 灰色砂混じり暗灰色土
- 7 断続性粘土
- 8 灰色土混じり明黄褐色土
- 9 灰色砂



6. 造構配置図 (1 : 200)



7. 出土遺物実測図 (1 : 4)

4. 出土遺物

遺物は極めて少なく図示したほかに弥生土器と土師器の破片が3点出土したにすぎない。1は調査区東側の柱穴状のSK03から出土した青磁碗の破片である。外面は露胎、内底部は輪状に釉が掻き取られている。2は東側の土壌状のSK01から出土。須恵器壺の破片で灰白色を呈し軟質。3は調査区西辺際のSP05から出土した須恵器横瓶の破片である。外面に焼台に用いたと考えられる径7.5、10.5cmの円輪状に炭化した部分と径3～4cmの略円形に炭化した部分がみられる。

5.まとめ

出土遺物は東側の台地部からの流れ込みの可能性が高く、生活遺構は立地上ほとんど展開していないものと思われる。上述のように不整形の土壌の多くは搅拌された堆積によるものであろう。遺構の中ではSD06が唯一明確であったが、その時期は他の出土遺物から古墳後期以降もしくは中世後半以降と考えられ現段階では判然としない。

0531 今宿五郎江遺跡第11次調査(IZG-11)

所在地 西区今宿町地内

調査面積 4,020 m²

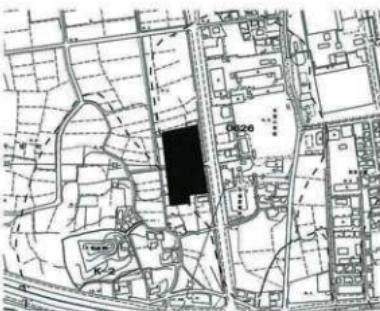
調査原因 区画整理

担当者 杉山富雄・阿部泰之・今井隆博

調査期間 2005.7.8～継続

処置 記録保存

位置と環境 遺跡は、砂丘後背湿地中に突出した段丘と東西両側の谷にかかる地形に立地している。調査地点は、遺跡の西部に位置し、遺跡中央より一段低い段丘面と、西縁部を北流する浅い谷の部分にあたる。全体として北へ緩く傾斜して、標高は5.5～3.5mの位置にある。



1. 調査地点の位置 (112 今宿 0626 1:8000)

検出遺構 調査区北半部は一段低く、不整な土壠状の落ち込みが分布する。それより南の段丘面に柱穴、溝を主とした遺構が分布する。特に南側に偏って密に分布している。溝は細く弧状を成し、交差、平行など多様なあり方を示す。その時期は殆どが弥生時代後期から終末期にかけてのものである。

西縁部を流れる谷は、第2次調査地点に谷頭をもつ谷と調査区北方で合流し、後背湿地に流入する。西の谷では、調査区中央付近から上流に向かい、谷底に幅3m程の溝を掘削している。掘削土は肩部に盛り上げたものが堤防状に遺存する。また、陸橋状に掘り残す部分がある。溝埋没の過程で、北端部に杭が多数打ち込まれている。



2. 調査全区景 (南西から)

出土遺物 段丘上の遺構からの出土遺物は少量である。谷部では、東岸部を中心に、埋没の過程で土器を中心とする大量の遺物が投棄されている。弥生時代中期に始まり、終末期までは大量の土器が投棄されている。出土状況から人為的な埋立てに伴うとみられる部分もある。ガラス小玉のほか、碧玉・水晶の碎片なども出土した。溝覆土からは多量の削材、削片、多数の木器が出土した。鍬・鋤を中心とする農具、容器のほか、短甲、漆器なども混じる。谷の埋没の最終段階では小形彷製鏡も土器に混じり出土した。



3. 遺物出土状況 (谷部下層 東から)

段丘部の南半部の遺構、谷部の下部および、溝の調査は平成18年度に継続する。

0532 比恵遺跡群第 102 次調査(HIE-102)

所在地 博多区博多駅南 4 丁目 99-2, 100-1 調査面積 220 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 吉武 学

調査期間 2005.7.4 ~ 2005.8.25

処置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群の北西縁辺部に位置する。西に第 70 次調査地点が隣接する。第 70 次では調査終了後に共同住宅建設工事は行われず、本申請地と合わせた範囲での新たな共同住宅建設が予定され、第 70 次の未調査部分についても一部が本調査範囲に含まれる。

調査前の現状は宅地跡で、標高は 7.3m。地表から遺構面までの深さは 40cm 前後で、基盤の鳥栖ロームは削平が少なく、遺構検出面は西側第 70 次より約 40cm 高いレベルにある。

検出遺構

弥生時代中期の円形竪穴住居 2 軒・井戸 2 基、同後期～古墳時代前期の方形竪穴住居 11 軒以上・井戸 1 基を確認したほか、弥生時代中期～古墳時代前期の土坑・ピット多数があり、密集した状態で遺構が認められた。

土坑や井戸には甕棺の破片が多数投棄されていたものの、埋葬遺構は認められなかった。また、戦前の工場基礎や前宅地による擾乱坑が多数ある。

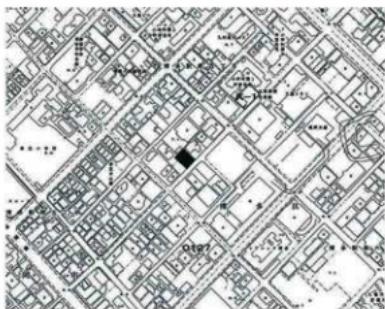
出土遺物

弥生土器・古式土師器を中心コンテナ約 80 箱分が出土した。特筆すべき遺物として、弥生時代中期竪穴住居の床面から出土した磨製石剣の再利用品、小型竪穴住居の上層から出土した小鉄斧がある。

まとめ

遺構は調査区の北～西部分で特に密に切り合っており、弥生時代中期と思われる小型竪穴住居の上層に、複数の方形竪穴住居が切り込んでいるものと思われるが、覆土が近似するためプランを明確にできなかったものが多い。古墳時代後期以降の遺物はほとんど目にすることがなく、弥生時代中期～古墳時代前期に集中して集落が営まれたものと考えられる。

報告書は 2006 年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. 全景 (南西から)



3. 弥生時代後期の井戸 (東から)

0533 周船寺遺跡群第18次調査(SSJ-18)

所在地 西区周船寺2丁目461-9

調査面積 296.44 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 久住猛雄

調査期間 2005.7.7 ~ 2005.7.22

処置 記録保存

位置と環境 周船寺遺跡群は糸島平野の東側、周船寺川により形成された冲積微高地に展開する。調査地点は遺跡群の北東部にあたり、これまで遺構の検出が少ない地区であったが、試掘調査により縄文時代の包含層が認められたため調査に至った。周囲は現標高6.7m前後であるが、もと水田地区であり現地表まで1m前後の盛土がなされている。

検出遺構 調査は排土処理の都合上、南北に調査区を反転している。現地表から-105~140cmの近現代水田よりも下層で、黒灰~青黒色粘土層が畦畔状に検出され、畦畔の間の砂を掘り下げ精査し、足跡や耕起痕凹凸が確認されたので水田と判断した。水田は1m前後の極小区画である。覆土の砂から近世陶磁器が出土し、近世後期に埋没した水田と判明した。次に、縄文時代の遺物はこの水田層中にも混入するが、さらに下層(水田層は厚さ10~20cm)の暗灰~青灰色粘土層中から多く出土した。土器片の大部分は小片であるが、破片が炭粒や石器剥片とともにやまとまって出土する範囲が認められ、何らかの生活痕跡の可能性が高い。暗灰色粘土層の浅い落ち込みは遺構の可能性もあるが、不整形であり、竪穴住居や土坑のような明確な掘り込みの遺構は検出できなかった。

出土遺物 上面の水田層を覆う砂層中から中世~近世の陶磁器、水田層と下層の遺物包含層から縄文時代の土器・石器が出土した。縄文土器は小片が大部分で、粗製土器のみであり時期認定が難しいが後期であろう。石器石材には黒曜石、安山岩、玄武岩があり、石斧、搔器、剥片がある。総量はパンケース2箱である。

まとめ 本調査は遺跡群北半での遺構検出の少ない例の一つとなった。明確なプランの遺構は不明だが、縄文時代の生活痕跡を検出した。一時的なキャンプサイトなのか検討をする。

報告書は2007年度以降刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (120 周船寺 0689 1:8000)



2. I区（南半調査区）包含層調査状況（南から）



3. II区（北半調査区）包含層調査状況（北西から）

0534 吉武遺跡群第19次調査(YST-19)

所在地 西区大字吉武193外

調査面積 970 m²

調査原因 確認調査(史跡)

担当者 長家伸

調査期間 2005.7.19 ~ 2005.9.22

処置 埋め戻し保存

位置と環境

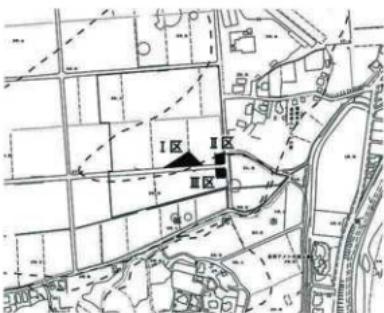
吉武遺跡群は早良平野を博多湾に向かって北流する室見川の左岸扇状地上に立地する遺跡群である。これまで圃場整備・道路建設・史跡整備等により18次の調査が行われており、今回が第19次調査となる。今回の調査は史跡整備を行うために旧高木地区の埋葬遺構群について墓群の範囲及び墳丘の有無を確認することを目的とし、大型建物周辺においては関連遺構の有無を確認することを目的とした。

検出遺構

調査区は埋葬遺構部分をI区、大型建物周辺をII・III区として設定した。I区では調査区内に土層確認用のベルトを残して調査区を広げ、前期末～中期前半を中心とした壺棺及び中期後半以降の生活遺構を確認した。この結果これまでの調査とあわせ、高木地区の埋葬遺構群では計77基が確認されることとなった。この中で特定集団墓の範囲については埋葬方位をそろえる大型墓の分布や周辺の生活遺構の広がり等からおよそ20m四方の範囲で設定し、そのうちの2基について掘り下げを行った。K140は金海式の单棺で副葬品は認められず、K153は壺と壺下半部の組合せで、副葬小壺が伴っていたが、その他の副葬品は認められなかった。また分布域周辺の生活遺構の広がり等から墳丘の存在は想定できるものの、現状では盛り土等の具体的な確認はできなかった。またII・III区では弥生時代中期後半～古墳時代の生活遺構は認められるものの、大型建物と関連するような遺構は確認できなかった。

出土遺物 コンテナ15箱分が出土している。

まとめ 今回の調査で、特定集団墓の範囲をほぼ20m四方に設定することができた。また大型建物周辺では関連遺構は認められなかつたが、建物の構造を含め、さらに検討していく必要がある。



1. 調査地点の位置 (93 都地 0405 1:8000)



2. I区全景 (西から)



3. I区壺棺墓 (K153) (北東から)

0535 元岡・桑原遺跡群第45次調査(MOT-45)

所在地 西区大字桑原字石ヶ原
 調査原因 大学移転用地造成
 調査期間 2005.7.20～2005.11.22

調査面積 1128.6 m² (古墳3基)
 担当者 池田祐司
 処置 記録保存

位置と環境 標高72mの丘陵頂部から北へ派生する尾根上で3基の古墳を検出し桑原古墳群A群9、10、11号墳とした。いずれも削平を受け、墳丘は残っていない。重機による試掘により、その存在を確認した。

検出遺構 9号墳 尾根筋上の標高62mに位置し、西側に開口する。玄室には腰石が残存し、羨道部、

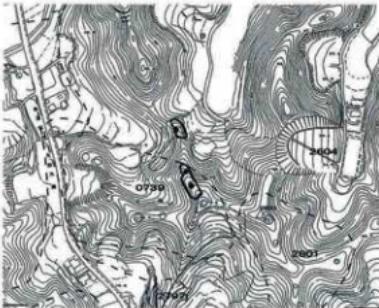
出土遺物 羨道には擾乱が入る。玄室は210×94cmを測り、横70～100cmほどの石で腰石を構成する。羨道とともに敷石ではなく樋石が配される。遺物は羨道より若干の須恵器が出土した。

10号墳 尾根上の標高58mに位置し、西に開口する。玄室は90×190cmの長方形を呈し、敷石は4面が遺存する。羨道部は長さ80cm、幅70cmを測る。前庭部はハの字状に開き、大きめの石で敷石を構成する。閉塞施設は確認できなかった。周溝は南側で確認した。遺物は4面目に長さ90cmの鉄刀、鉄族、琥珀玉、ガラス玉、耳環が出土した。また周溝から6世紀末から7世紀の須恵器が多く出土した。

11号墳 標高45mの鞍部付近に位置する。石室は丘陵西側の造成により、ほとんどが失われている。墳丘は北側に若干残る程度で残りは悪い。墳裾で径約14～15mと考えられる。周溝は幅3mを測り、東側斜面は立ち上がることなく斜面に落ちる。石室は壠方の一部の可能性があるテラスをわずかに検出したのみである。北西側に開口すると考えられる。周溝から須恵器、土師器の甕片が少量出土し、石室壠方の底近くと考えられる部分からは蘇手の太刀の一部が出土している。

まとめ 北西に延びる尾根上に新たに古墳3基を確認した。6世紀終わりから7世紀初めに築造されたものと考えられる。

報告書は2009年度刊行予定である



1. 調査地点の位置 (129 桑原西部 2782 1:8000)



2. 9号墳 (東から)



3. 10号墳 (南から)

0536 上月隈 B 遺跡第2次調査(KGB-2)

所在 地 博多区月隈6丁目807-8 外

調査面積 23.7 m²

調査原因 道路拡幅

担当者 大塚 紀宣

調査期間 2005.7.30 ~ 2005.8.6

処置 記録保存

1. 位置と環境

上月隈 B 遺跡群は月隈丘陵の西側丘陵裾部に帯状に連なる遺跡群のなかの1つである。本次調査地点の南側では上月隈 B 遺跡群第1次調査地点が位置しており、弥生時代中期から中世にかけての遺構・遺物が検出されている。

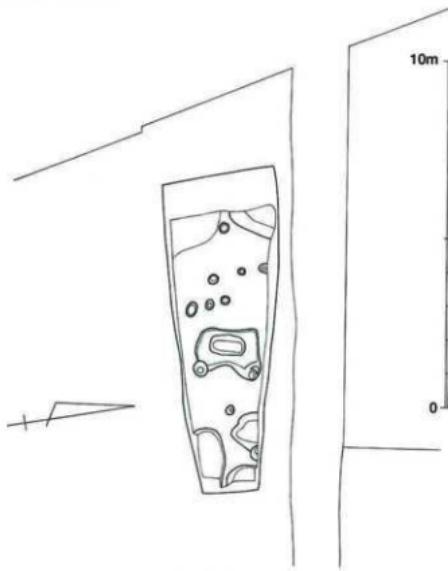
本次調査地点は、丘陵の谷部付近に位置しており、今回調査対象となった道路は本来谷に沿った山道だったと考えられる。また調査区周辺は近年まで山裾の谷の出口付近に集落が広がっているという里山的な農村の景観を呈していたのだが、最近大型の道路が山裾に沿って開通し、それに伴う工事で調査区付近は地形・景観共に大きく変化している。本次調査地点周辺も現況では隣接する大型道路面の高さまで谷を埋めて整地して平坦面になっているが、本来は谷に沿った傾斜面だったと推定される。調査時の時点では調査区内の標高は約12mである。



1. 調査地点の位置 (10 下月隈 2814 1:8000)



2. 調査区全景 (東から)



4. 調査区配置図 (1:150)



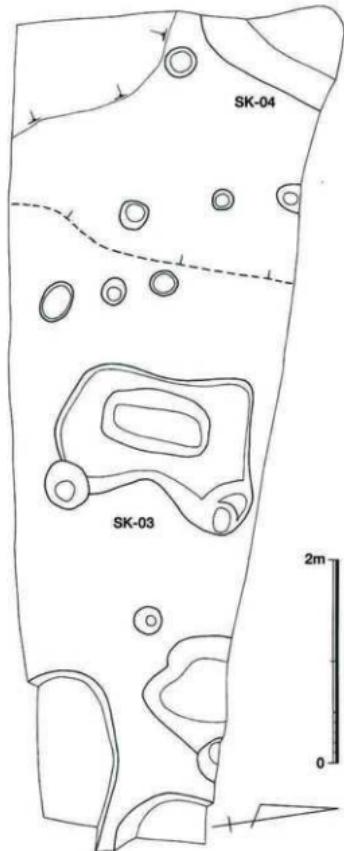
3. 調査区全景 (西から)

平成 17 年 7 月 6 日に博多区役所地域整備課から道路拡張工事の申請があり、それに基づいて同年 7 月 20 日に試掘調査を行い、遺構・遺物を確認したため、本調査を実施することとなった。

2. 検出遺構

調査区は道路拡張工事に伴うという事情で、東西に細長く狭小な範囲に限られる。遺構検出面は現在の地表面から 1.2 ~ 1.5m 下の、未風化花崗岩バイラン土層上面である。地表面から遺構検出面までの層は近年の工事に伴う客土が中心で、ビニールやコンクリート片などを含み、柔らかく締まりがない。遺構面上に 20 ~ 30cm の厚さで灰褐色土が堆積しており、この層が周囲の工事を行う以前の旧表土とみられる。遺構面は東側 3/4 の部分はほぼ平坦で、西側 1/4 の部分は西に緩く傾斜している。調査区南西隅に搅乱坑があり、この部分は完掘していない。

検出した遺構の種類は土坑・柱穴である。柱穴は掘方がしっかりとしているが、建物に伴うものかどうかは調査区の範囲では確定できない。土坑は、平坦面上に位置するものは浅く不整形なものが多いが、これは削平による可能性を考慮する必要がある。調査区中央の土坑 SK-03 は浅い盤形で、土坑中央に二段掘り状に椭円形の土坑を掘削する。調査区北西隅に位置する、傾斜面に位置する土坑 SK-04 は深さ 30cm 程の深い盤状を呈する。



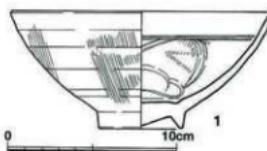
5. 調査区全体図 (1:50)

3. 出土遺物

6 に図示した遺物は試掘調査時に検出された青磁碗。釉は緑色で、外面下部は露胎。外面には櫛描文、内面には片彫りと櫛描きで草花文を施す。試掘トレンチの位置からみて、SK-03 内に包含されていた可能性が高い。調査区内からは他に弥生時代（須玖 II 式）から中世までの土器片がコンテナ 1 箱分出土する。

4. まとめ

調査区が狭小なため、集落の詳細な状況を説明するには不足であるが、本調査地点まで弥生時代や中世の集落の範囲が広がることが確認できた。月隈丘陵西側斜面は本次調査地点のように、山裾のかなり高位な地点まで集落範囲が広がっている可能性が高いことが推定される。



6. 出土遺物 (1:3)

0537 福重稻木遺跡第4次調査(FSI-4)

所在地 西区福重3丁目327-3

調査面積 252 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 田上 勇一郎

調査期間 2005.8.8 ~ 2005.8.31

処置 記録保存

位置と環境 福重稻木遺跡は早良平野西部、室見川左岸の沖積平野に位置する。調査地点は遺跡の北西部で、これまで遺跡の外側と考えられていた。現標高は客土され、4.6mである。

検出遺構 調査区は確認調査で造構が確認された敷地南東側に設定した。1m程の盛土を除去すると旧水田面になる。30cm程の水田耕作土と床土を除去すると5~10cmの暗灰色シルトの包含層がある。その下の青白色~灰色シルト面、標高3.2~3.3mで造構検出を行った。

調査を進めていくと北側にも造構が広がったため拡張を行った。

弥生時代早期の竪穴住居1軒、溝7条、土坑5基、ピットを検出した。

竪穴住居は壁の一部を検出したのみで非常に残りが悪い。5.3m×5.5m以上の方形である。

溝は浅く、区画を意図したものではない。SD12ではやまとまつた遺物が出土した。

造構は東側のみで、南西部は落ち込んでいる。

出土遺物 遺物は突帯文土器壺・壺、打製石斧、打製石鏃、黒曜石剥片などがあり、総数コンテナケース6箱分である。

まとめ 今回の調査では集落域の西端を確認することができた。福重稻木遺跡のほかに室見川左岸の微高地上には橋本一丁田遺跡、拾六町平田遺跡、石丸古川遺跡など突帯文期の遺跡が点々と存在している。今後は現在の地形では確認できない微高地の存在や広がりを試掘調査などで確認する必要があろう。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (90 石丸 0382 1:8000)



2. 調査区全景 (西から)



3. SD12 遺物出土状況 (南から)

0538 元岡・桑原遺跡群第46次調査(MOT-46)

所在地 西区大字元岡地内

調査面積 403.1 m²

調査原因 道路拡幅

担当者 久住 猛雄

調査期間 2005.8.8 ~ 2005.10.11

処置 記録保存

位置と環境

元岡・桑原遺跡群は福岡市の西端にあり、糸島半島基部東側の丘陵地帯に位置する。調査地点は遺跡群の南西縁辺部にあたる。東側調査区(A区)はもと元岡B遺跡、西側調査区はもと元岡C遺跡としていた部分で、いずれも丘陵を樹枝状に浸食する旧谷部である。現標高は、A区が14.0m前後、B区が10.4m前後を測る。

検出遺構

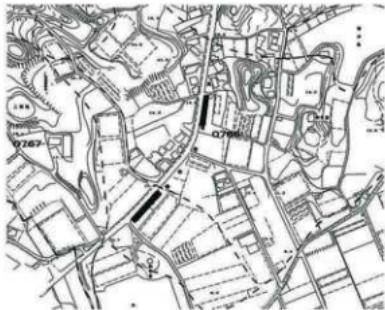
道路拡幅工事範囲が調査範囲であり、調査区は東西2地点に分かれる。東側のA区は210.27 m²、西側のB区が192.84 m²を調査した。調査原因の性質上、調査区は細長く、かつ遺構検出面が現地表から深かったことにより、調査区下端の幅は1m前後となり、安全性の問題から遺構を十分に調査できた範囲は限られたものになった。またA区は4小区に、B区は3小区に分けて反転調査した。A区ではGL-230cm以下で遺物包含層(中世)、井戸、土坑多数、柱穴多数を検出した。A区の西側では2面の遺構面となり、遺構・遺物も西側に向かって多くなる。中世の遺構が主体であるが、一部は古代、わずかに弥生時代がある。B区ではGL-170cm以下で遺物包含層(弥生時代~中世)、旧谷部落ち込み(北側隣接地42次調査の弥生土器大量廃棄谷部の延長)、土坑・柱穴群(主に弥生時代)、溝(時期不明)を検出した。

出土遺物

包含層や各遺構から、弥生土器、古墳時代~古代の土師器・須恵器、中世の土師器・須恵器、輸入陶磁器、石器(弥生時代)、石製品が出土した。総量パンケース4箱である。

まとめ

調査区が狭小であるなど調査に制約があったが、遺跡群南西縁辺部の旧谷部における遺構群を確認することができた。特にA区の中世前半の遺構は濃密であり、集落遺構の広がりが考えられる。またB区では丘陵裾部低地における弥生時代土坑群が確認され、周囲の遺構群との関係性が注目される。報告書は2006年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 2782 1:8000)



2. A-1区調査状況 (東から)



3. A-4区調査状況 (東から)

0539 東那珂遺跡第6次調査(HGN-6)

所在地 博多区東那珂1丁目241

調査面積 483 m²

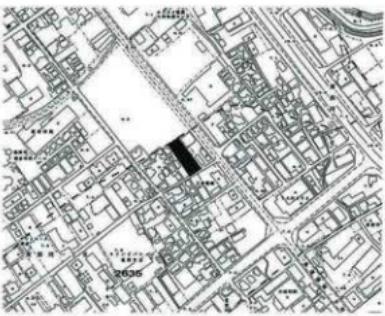
調査原因 共同住宅建築

担当者 星野恵美

調査期間 2005.8.11～2005.9.16

処置 記録保存

位置と環境 東那珂遺跡は福岡平野の中央部、御笠川東岸の沖積地上に位置する。遺跡周辺の地形は、那珂川や御笠川等の河川の浸食によって形成された中低位の段丘と、沖積低地によって構成される。東那珂遺跡群は沖積低地上に立地し、現在は水田を埋め立てた宅地と化しているが、古地図からは条里制の痕跡をよく留めた水田地帯であったことが窺える。今回の調査地点は、東那珂遺跡の北端に位置し、標高は現地表面で6.5mを測る。



1. 調査地点の位置 (23 鶴居 2635 1:8000)

検出遺構 第6次調査では古墳時代前後と考えられる2面の水田跡を検出した。上層の水田面は現地表面から1.8～1.9m下(標高4.6～4.7m)で検出し、南側から北側へとわずかに傾斜している。上面には洪水による堆積物である粗砂、シルト層が水田面を覆い、無数の足跡等が残る。調査区の中央には東西方向に2条の畦畔を検出した。畦畔からは須恵器の小片が出土するが、明確な時期は不明である。また、この面から約30cm下(標高4.35～4.6m)で、下層の水田面を検出した。この水田面は調査区全面に広がり、標高は上面の水田と同様、南側から北側に向かって傾斜している。畦畔は確認できなかったが、不定方向に走る浅い溝状の遺構を検出した。下層の水田面からは遺物が出土せず、時期は不明である。



2. 北側上層水田面全景 (南から)

出土遺物 土師器・須恵器・龍泉窯系青磁碗が、コンテナ1箱分出土した。



3. 南側下層水田面全景 (北から)

まとめ 東那珂遺跡は縄文時代から中世の遺構、遺物が確認されているが、遺構の存続期間は短く、かつ密度は薄く、長期にわたり集落が営まれていた様子ではない。墨書き器や輸入陶磁器などが出土し、官衙的色な様相もうかがえる。東側では、古墳時代前期の水田を検出している。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。

0540 博多遺跡群第 154 次調査(HKT-154)

所在地 博多区須崎町 156, 157

調査面積 138.9 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 中村 啓太郎

調査期間 2005.8.24 ~ 2005.9.16

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群は博多湾に面した砂丘上に立地している。東西を石堂川と博多川に挟まれた東西 0.8km、南北 1.5km の広大な範囲におよぶ。第 154 次調査は遺跡群の北西部端、所謂「息浜」の西斜面に位置する。

検出遺構 現地表より約 2m 程下げた標高 2.0m 前後で遺構を検出した。遺構面は 1 面で南東部が地山面である黄褐色粗粒砂で北西へ向かい傾斜する。北西部はこの地山に黄褐色細砂が堆積した面である。

検出遺構は井戸、石組土坑、土坑、石組土坑、柱穴等である。根石を有する柱穴群が建物の一部であろう。ほとんどが近世に属し、ごく一部が中世であると考えられる。遺構の密度はさほど高くない。

出土遺物 遺物は貿易陶磁器、国産陶磁器、陶器、土師器、瓦、鉄製品等が総量でコンテナ 8 箱程出土した。

まとめ 現時点では本地点より西側では遺構は確認されておらず、本調査地点は遺跡のはば北西端と考えられる。調査区は北西に向かい傾斜しており、地山面は調査区界で標高 1.1m となる。湧水点が標高 0.4m 前後であることからこれより先の遺構密度はきわめて低いと考えられる。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)



2. 調査区東側全景 (南から)



3. 調査区西側全景 (南から)

0541 那珂遺跡群第109次調査(NAK-109)

所在地 博多区東光寺町2丁目90

調査面積 198 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 荒牧宏行

調査期間 2005.8.22～2005.11.9

処置 記録保存

位置と環境 本調査区は那珂遺跡群の東側縁辺に位置している。東側には御笠川が北流し、那珂遺跡群をのせた洪積台地は開析を受け崖状に落ちていることが推測される。また、周辺にはこの御笠川の營力による砂で覆われた弥生時代からの水田が検出された那珂君体遺跡や那珂久平遺跡が分布している。

本調査は、バックホウで、約160cmの客土を除去することから始めた。遺構面の鳥栖ロームはこの客土下に堆積する旧表土、褐色土（包含層）の更に下層となり、東の河川側に傾斜している。遺構面はこの標高6.7～6.3m前後の鳥栖ローム層上面になる。

検出遺構 検出した主な遺構は古代の竪穴住居跡1軒、土壙1基、古墳初頭の竪穴住居跡2軒、弥生終末の方形周溝1条、弥生中期後半の井戸1基、時期が未確定の木棺墓1基である。

出土遺物 方形周溝に嵌った（重複した）位置から弥生中期の井戸が検出され、その下底近くから戈と盾が描かれた甕棺片が出土した。また、井戸上部の周溝底面近くのレベルには弥生終末の壺と鉢が埋置されていた。遺物総量はコンテナ20箱分である。

まとめ 調査区の東側では奈良時代の竪穴住居跡をはじめとする古代の遺構がみられ、西側では弥生終末～古墳初頭の竪穴住居跡が密度濃く分布する。ローム層は傾斜しながらも御笠川近くに位置した本調査地点まで延びていくことが確認され、遺構も密度濃く検出されることが判明した。おそらく、本流は現在の流域内にあると推定される。また、台地縁辺に弥生終末期～古墳初頭の遺構が密度濃く分布する事例は増えつつあるが、その集落変遷の好資料となる。弥生中期末の絵画土器が出土したことも重要である。

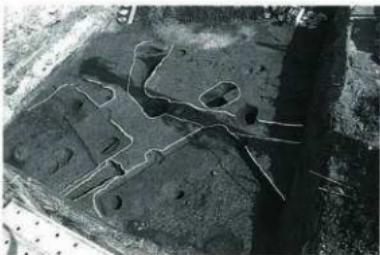
報告書は2006年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (23 鶴居 0085 1:8000)



2. 調査区東半全景 (西から)



3. 調査区西半全景 (南西から)

0542 有田遺跡群第 220 次調査(ART-220)

所在 地 早良区有田 1 丁目 12-6

調査面積 37.4 m²

調査原因 個人住宅建築

担当者 大塚 紀宣

調査期間 2005.9.1 ~ 2005.9.5

処置 記録保存

1. 位置と環境

有田遺跡群の中央東側に位置する。現地標高は9m前後で、西から東に緩く傾斜する。周囲は造成による削平が著しく、現況から旧地形を推測するのは困難である。

2. 検出遺構

遺構面は現在の地表面から30cm下で検出している。土質は明褐色粘質ローム層で、遺構面に本来堆積しているはずの黒色土は検出されず、現地が既に相当の削平を受けていることが推定される。また、調査区西側部分に既存の家屋による搅乱があり、また南北方向に排水溝による搅乱がそれぞれ存在し、遺構面の遺存状態は良くない。検出した遺構の種類は土坑、ピットで土坑は1基、ピットは大型、小型含めて19基検出している。

土坑(SK-01)は一部搅乱に切られているがほぼ全容を留めており、長軸を略東西方向にとり、長さ1.3m、幅60cmの長方形を呈していたと考えられる。覆土は黒色土と暗褐色土を主体とする。遺構内からは土師器の小片が磨滅した状態で出土する。

調査区南側で大型のピットが4基検出され(SP-02~05)、1基が搅乱で半裁されたほかはほぼ完全な形を留める。形状はいずれも円形で直径60cm程度、柱痕跡の直径が30~40cmで、4基の柱穴がほぼ一直線に並ぶ。柱穴の間隔は1.5m前後で、最も東側の柱穴との間隔だけが約2mとやや広くなっている。検出面からの深さは30~60cmで、本来はさらに深かったものと見られる。この4基の大型のピット以外は直径20~30cmの小型のもので、これらの小型のピットが構成する建物跡は確認できない。

3. 出土遺物

土坑、柱穴から出土する遺物は土師質の破片を主とするが、いずれも磨滅が進み、遺構に本来伴う遺物かどうか怪しいものが多い。遺物総量もパンケース1箱に満たず、少量である。



1. 調査地点の位置 (82 庁 0309 1:8000)



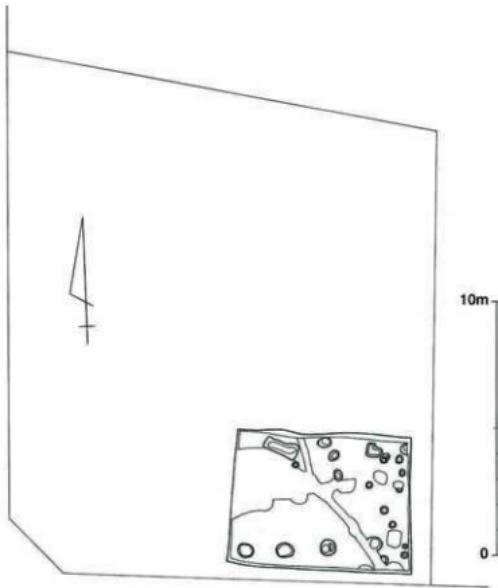
2. 調査区全景 (北から)



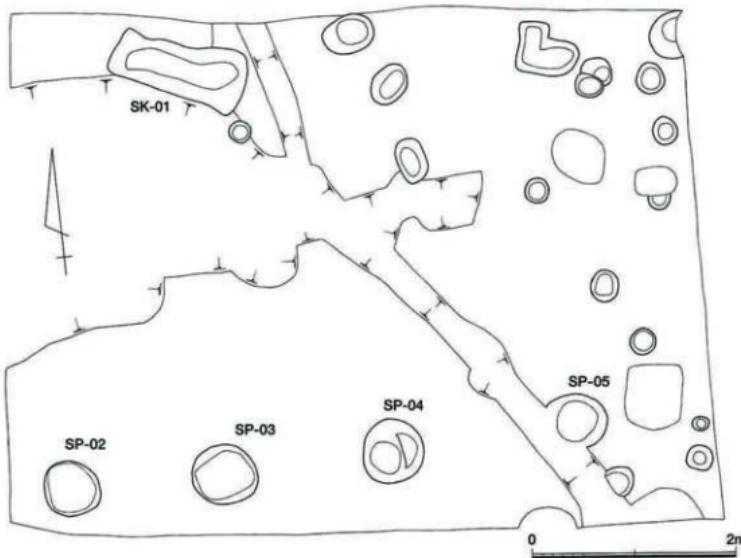
3. 大型柱穴列 (東から)

4.まとめ

調査区が狭小で、遺跡の具体的な内容を語るには資料的に乏しい。特記すべき事項としては、調査区南側の4基の大型のピットであるが、これらは周辺の調査でも検出された一連の大型建物群に関係するものと考えられる。ただし、建物の規模や配置、時期や性格などを含めた全体像は不明である。



4. 調査区配置図 (1:200)



5. 調査区全体図 (1:50)

0543 西新町遺跡第18次調査(NSJ-18)

所在地 早良区西新5丁目572外

調査面積 348 m²

調査原因 共同住宅建築

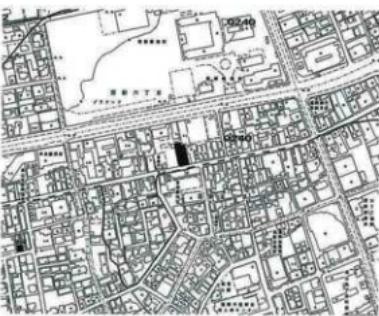
担当者 田上 勇一郎

調査期間 2005.9.21～2005.12.9

処置 記録保存

位置と環境

西新町遺跡は早良平野の北部の博多湾岸に形成された砂丘上に位置する。後背部には高取山、龜原山等の第三紀丘陵が存在している。本調査地点は遺跡の南部、砂丘と丘陵の境目に位置する。北側に甕棺墓群を検出した1・7・10次調査地点がある。現標高は5m前後で西から東に緩やかに傾斜している。



1. 調査地点の位置 (72 荒江 0240 1:8000)

検出遺構

と

出土遺物

調査区は矢板で囲まれた建物範囲を対象に排土処理の関係から3分割で調査した。遺構面は標高3.7～4.0mの汚れた黄褐色砂で、黒色砂や茶褐色砂などを覆土とする遺構を確認した。また、遺構確認面で確認できない遺構があったため、さらに20cmほど下げ、第2面として調査をおこなった。さらに調査区南部でこれより下50cmに赤褐色砂の縄文時代前期の包含層を確認し、第3面の調査をおこなった。

古代の溝1条、古墳時代後期の土坑1基、古墳時代初頭の竪穴住居3軒、弥生時代中期の甕棺（小児棺）1基、土坑、溝、柱穴などを検出した。また、調査区南側で縄文時代前期の包含層が検出され、轟B式土器、敲石、黒曜石片が出土した。そのほか、重機で掘削中や搅乱除去時に近世高取焼や肥前陶磁などが出土している。遺物総量はコンテナケース18箱分である。

まとめ

西新町遺跡の弥生時代終末から古墳時代初頭の集落域の広がりが確認され、1・7・10次調査で検出されていた甕棺墓群の南限を確認することができた。

また、西新町遺跡で縄文時代の包含層が発見されたのは初めてである。今回の調査区が遺物分布の北東隅にあたり、南西に中心があるものと思われる。今後、丘陵裾部では、砂丘砂以下の確認が必要になろう。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



2. 調査区北側全景（南から）



3. 調査区西側全景（北から）

0544 博多遺跡群第 155 次調査(HKT-155)

所在地 博多区須崎町 53

調査面積 58.9 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 赤坂 亨

調査期間 2005.10.3 ~ 2005.10.26

処置 記録保存

位置と環境

博多遺跡群は三列の砂丘によって形成され、調査地点は、その最も海寄りの「息浜」と呼ばれる砂丘の西南端に位置する。現在の博多川の川岸までは西方 70m の距離である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)

検出遺構

検出した遺構は土坑 1 基、溝 1 基、柱穴 数基である。柱穴は大半が近世以降のものである。土坑 SK-1 からは大量の礫とともに陶磁器・土師器が出土した。溝と思われる遺構からも同様に大量の礫中に陶磁器・土師器の出土が見られた。時期は土坑・溝とともに出土遺物から 13 世紀代と見られる。

また調査区の南側に、地山と思われた砂層下に黒褐色の砂質土が薄く面的に広がることを確認した。この黒褐色土のレベルは標高 1.2 ~ 1.5m であり、西南に向かって下がるように堆積していた。黒褐色土中に遺構は確認できなかつたが、陶磁器・土師器が出土した。出土遺物からは土坑・溝とは時期差がみられない。中世前半段階では、本調査地点は博多川へ向かって下り始める砂丘の縁であり、その上に黒褐色土が堆積したのであろう。その後砂層が水平に堆積し、その上に整地が行われたと考える。

出土遺物

遺物は砂層上部包含層を掘削中に出土したものが大半で、中世の陶磁器・土師器・須恵器が出土した。総量はパンケース 20 箱分である。

まとめ

本調査地点は中世以前は砂丘の縁であり利用されていなかったようである。しかし 13 世紀になると数回の整地がなされ、この後は継続して土地の利用が行われた。本調査では 13 世紀代におけるの息浜の砂丘の西南端の状況とその後の息浜の西南方への土地利用の拡大の一様相を捉えることができた。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



2. 調査区西北半全景 (南西から)



3. 土坑 SK-1 (北西から)

0545 吉塚遺跡群第11次調査(YSZ-11)

所在地 博多区堅粕5丁目425-5,427-2外 調査面積 277 m²
 調査原因 共同住宅建築 担当者 屋山洋
 調査期間 2005.10.7 ~ 2005.12.9 処置 記録保存

位置と環境 吉塚遺跡群は博多湾岸に沿って形成された東西方向にのびる砂丘上に位置する。近隣には博多遺跡、吉塚祝町遺跡、堅粕遺跡、箱崎遺跡など同様に砂丘上に位置する遺跡が存在する。吉塚遺跡の今までの調査では弥生時代以降の遺構が密に分布しており、隣接する1次調査では貨泉が、6次調査では銅鏡が出土するなど重要な遺物が出土している。

検出遺構 今回の調査では当初事前審査の試掘調査を元に砂丘面のみの1面調査を予定したため最初に調査した北側では現地表から砂丘面までの130cm

を重機で掘り下がたが、調査区壁面を精査したところ地表から40~50cmの深さで古代末から中世の面が確認され、そこから掘り込んでいる遺構のほとんどが砂丘面に達していないことが判明した。そのため南側の調査では地表から深さ約60cmと砂丘面の2面の調査を行った。

調査では弥生時代中期後半の土坑や古墳時代前期の竪穴式住居、6世紀代の土坑、古代末から中世にかけての溝や土坑、井戸、近世から近代の溝と土坑それに各時期の柱穴多数を確認した。古墳時代前期の竪穴式住居は一辺の長さが約4×6mを測る。主柱穴は現状では不明で、遺物の出土は少ない。同時期の土坑も数基確認した。遺物は須恵器の壺が多く出土する他滑石製の小玉が数点出土した。古代の溝は幅約1.2m、深さ0.6mのU字状を呈し、溝の南側の遺構密度が濃いことから何らかの区画溝である可能性が考えられる。

まとめ 弥生時代中期以降各時代の遺構を確認した。弥生時代から古墳時代前半の遺構は少ないと後世の遺構から遺物が多く出土しており、遺構の多くが破壊されたものと思われる。

報告書は2006年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (36 博多駅 0123 1:8000)



2. 調査区北側全景 (南から)



3. SK 685 土器出土状況 (南西から)

0546 元寇防塁第10次調査(GKB-10)

所在地 東区香椎駅前1丁目289外

調査面積 159.3 m²

調査原因 確認調査

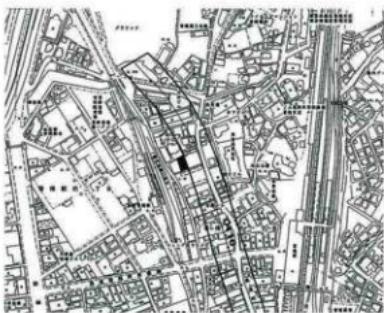
担当者 大塚 紀宣

調査期間 2005.10.3 ~ 2005.10.25

処置 埋め戻し

位置と環境

香椎地区の推定砂丘上に位置する。明治末年頃までは海岸線付近に位置している。調査区内に旧砂丘脊部が南北方向に走っている。



1. 調査地点の位置 (17 浜男 0116 1 : 8000)

検出遺構

調査区内で、護岸の石垣とみられる南北方向の石積みを検出した。石積みは幅3m、残存高60~80cmで、調査区外の南北方向に延びる。石材は陸地部から持ち込まれた石で、粗割り状態で積まれ、隙間は明赤褐色粘土で間詰めされる。石積みの前面に散乱している石の中に比較的大型の石材があり、これらが本来の石垣前面の石材であったと考えられ、遺存していない大型の石材は他に転用されたとみられる。

石積み下から丸太木材が出土している。木材は石積み基底面レベルの深さに、南北方向に沿って設置され、石垣の基礎を固めて沈下を防ぐ「胴木」的な役割と、石垣前面の大型石材を支える2つの機能を有していたとみられる。この丸太材の脇から寛永通寶が1枚出土している。

石積み前面には褐色粗砂が水平堆積しており、このことから石積み前面が水に浸かる状態だったことが伺える。

石垣の上面には明治~大正時代の遺構があり、大型の甕や石組みが遺存している。

出土遺物

石積み内からパンケース1箱相当の近世陶磁器が出土している。また、石積み下の灰色砂質土から瓦破片が出土している。その他、石積み上面の搅乱から近代の遺物が出土しており、計パンケース4箱相当の遺物が出土している。

まとめ

石積みが築造された時代は、石積みの構造や出土遺物から近世とみられる。とくに、丸太木材脇の寛永通寶は築造時の地鎮祭的な行為を想定できる。当時の立地環境から、石積みの用途は砂浜の浸食を防ぐ護岸的なものと推定される。

報告書は2006年度刊行予定である。



2. 調査区全景 (東から)



3. 石積み全景 (北から)

0547 都地遺跡群第6次調査(TZI-6)

所在地 西区大字吉武地内

調査面積 8,600 m²

調査原因 園場整備

担当者 宮井 善朗・田上 勇一郎

調査期間 2005.9.29～継続

処置 記録保存

位置と環境 都地遺跡は飯盛山の南東麓に位置し、日向川沿いの扇状地に立地する。谷をはさんで北西側に都地泉水遺跡、南側に乙石遺跡と接する。



1. 調査地点の位置 (93 都地 0420 1:8000)

検出遺構 検出した遺構はピットが最も多く、不定形の土壙などがこれに次ぐ。これ以外の遺構としては、焼土壙、土器廃棄土壙などがわずかに見られる。特徴的な遺構としては掘立柱建物がある。現在6棟確認しており、柱穴の掘り方径が1mに達するものもある。建物は総柱のものが2棟、側柱のものが4棟で、総柱建物は2間×2間である。そのほかの建物は2間×2間が1棟、2間×3間が2棟、3間×4間以上が1棟ある。



2. 掘立柱建物群 (上が南)

出土遺物 出土遺物は少ない。2基検出した土器廃棄土壙から比較的まとまって須恵器、土師器が出土した。このほか土製紡錘車が2点出土している。



3. 土壙 13 遺物出土状況 (西から)

まとめ 今回調査の成果の第一は大形掘立柱建物の検出にあるといえよう。出土遺物が少なく時期を決めがたいが、ほぼ古代と考えられる。主軸方向から2時期以上に分かれるが、その機能や性格は遺跡全体の動向を踏まえつつ検討する必要がある。特に2006年度調査区では官衙的配置の建物群が検出されており、関連が注目される。また建物群は南側調査区外へ広がる可能性が高く、今後注意が必要である。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。

0548 比恵遺跡群第 103 次調査 (HIE-103)

所在地 博多区博多駅南 4 丁目 140-2 外 調査面積 1.63 m²
 調査原因 個人住宅増築 担当者 吉武 学・本田 浩二郎
 調査期間 2005.10.19 処置 記録保存

1. 位置と環境

比恵遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた丘陵上に展開しており、本調査地点はこの丘陵の北西部に位置する。南西に第 54・56 次調査地点が隣接し、南に第 59 次調査地点が近接する。第 54 次調査では線刻のある赤彩木製品が井戸から出土しており、集落の入り口に掲げられた標識とする説がある。

既存住宅にホームエレベーターを増築する工事により破壊を受ける 1.6 × 1.6m の範囲のみを調査対象としたが、すぐ脇に雨水管が埋設されており、これを避けたために調査区がやや狭まった。地表から遺構面までの深さは 35cm 前後で、表層から約 5cm まで①擾乱層、以下は区画整理時の客土とみられる遺物を含む②黒褐色粘質土、基盤土は③鳥栖ロームで削平を受けており、若干北へ向かって落ちていく。

2. 検出遺構

検出遺構はピット 10 基で、柱穴と考えられる深めのものが 4 基あり、他は擾乱等である。

SP-010 は調査区中央に検出した柱穴で、規模が他より一回り以上大きい。隅丸方形プランを呈し、径 70 × 55cm、深さ 65cm である。図示した弥生時代中期末の土器のほか、黒曜石チップ 1 点が出土した。SP-010 を切る小ピット SP-007 からは加えて古墳時代前期の古式土師器甕の肩部小片（内面ヘラ削り）が出土した。この二つの遺構の覆土は黒色粘質土である。これ以外のピットは土器小片のみの出土に留まり、詳細時期は不明であるが、覆土が暗褐色を呈することから中世以降に下る可能性が強い。

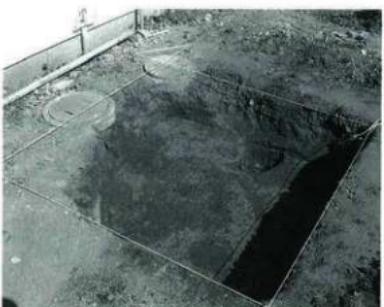
3. 出土遺物

出土遺物は、弥生土器・土師器・黒曜石などコンテナ 1 箱である。

図示した遺物は全て弥生土器である。1・2 は甕で口縁が「逆 L」字形をなす。小片のため口径は不明。3 は口縁が「く」字形に屈曲して開く甕で、屈曲部内面に稜はない。4 は内面丹塗りで、外面はタタキのようにもみえるが器面が著しく荒



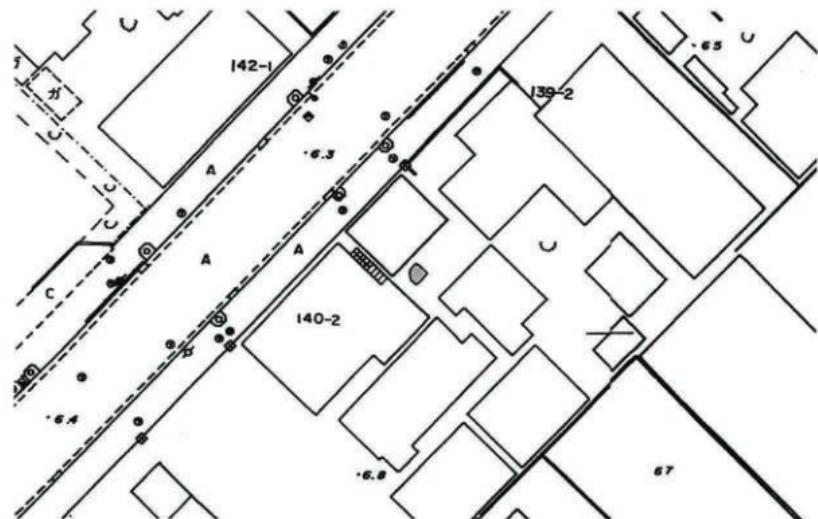
1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



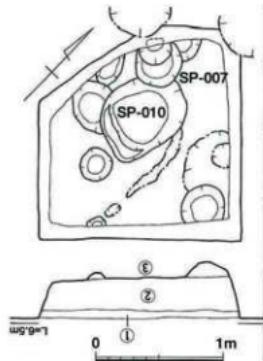
2. 遺構検出状況 (南から)



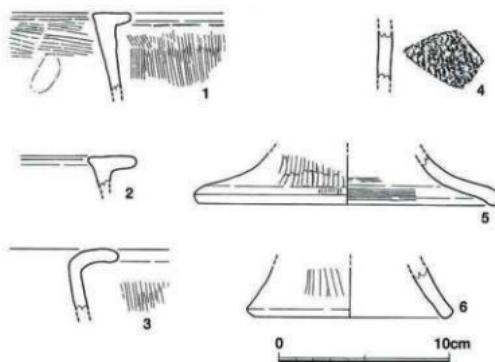
3. 完掘後 (北東から)



4. 調査区の位置 (1 : 500)



5. 遺構の配置と土層 (1 : 40)



6. 出土遺物 (1 : 3)

れており定かでない。5は高杯の脚部片、6は器台の小片である。以上の土器は全てSP-010から出土した。

4.まとめ

これまでに実施した周辺調査では、弥生時代中期～古墳時代前期の遺構が主体を占めるケースが多く、13世紀後半の遺構が少數あるものの、その他の時期の遺構は全くみられない。今回の調査でも須恵器や陶磁器などの出土は全く認められず、時期的には周辺調査と似たような傾向を示すものと考えられよう。

0549 有田遺跡群第 221 次調査(ART-221)

所在地 早良区有田 1 丁目 31-5

調査面積 59.17 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 久住 猛雄

調査期間 2006.1.6 ~ 2006.1.20

処置 記録保存

位置と環境

有田遺跡群は、早良平野の北部中央に位置し、最大標高 15m 前後の独立中位段丘上に立地する。段丘には深く切り込む谷が幾つか存在し、台地は北方向に向かって八つ手状に分岐する。221 次調査地点は、段丘中央最高所の西側に位置し、調査地内南側は標高 13.6m、北側道路面は 12.7m 前後を測る。



1. 調査地点の位置 (82 号 0309 1:8000)

検出遺構

調査区は共同住宅建設が行われる敷地内の中、車庫等の造成工事により埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲である。遺構検出面は鳥栖ローム上面である。遺構の遺存は北側が顯著に削平されている。溝状遺構 5、柱穴を検出した。溝状遺構の一つは推定幅 10m 以上の大溝である。東側の落ち込み肩部の SD01 と溝中央部落ち込みの SD03 を便宜上分けたが、周囲の調査状況や土層観察から一連の埋没堆積と考えられ同一の溝であろう。中世末(16 世紀)の掘削か。またこれらに平行して SD01 の底面に二つの小溝が走るが、近世の耕作に関わる溝か。SD01 底面は凹凸が多く、近世の畠作痕の可能性がある。SD01 の南東外側の高い部分に SD02 があるが、方向がやや異なり覆土から中世と考えられる。他に古代～中世の柱穴がある。



2. 調査区全景 (南から)

出土遺物

遺物の総量はパンケース 2 箱。中世～近世の土器・輸入陶磁器・国産陶磁器、一部弥生時代～古墳時代の土器が出土した。



3. 調査区全景 (東から)

まとめ 調査区の大部分は中世末に掘削された推定幅 10m 以上の大溝に占められ、他の遺構の検出は少なかった。ただし本調査に先行する敷地南東側の立会調査では、削平気味であるが古墳時代から中世の柱穴(建物)群、古墳時代の方形区画(櫛列)の一部、土坑、溝状遺構が存在することを確認している。また大溝は中央下層部分の埋没後、近世以降は整地され畠地として利用されたと考えられる。

報告書は 2007 年度以降刊行予定である。

0550 那珂遺跡群第 110 次調査(NAK-110)

所在地 博多区竹下 5 丁目 515

調査面積 257 m²

調査原因 共同住宅建築

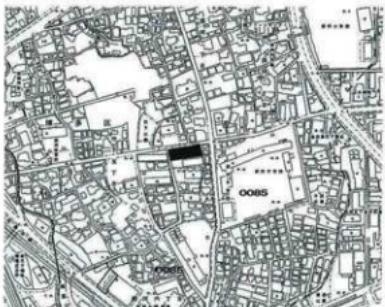
担当者 吉武 学

調査期間 2005.11.15 ~ 2005.12.20

位置 記録保存

位置と環境

那珂遺跡群は、福岡市博多区博多駅南から那珂～南区五十川方面にのびる台地上に位置しており、今回の調査地点はこの南端付近にあって、尾根筋に近い中央部に立地する。北側に道路を挟んで第 26・33・44 次調査地点が、南側に一区画置いて第 9・41 次、更に 1 区画離れて第 70 次調査地点が位置し、これらの調査では弥生時代から中世の遺構を確認している。



1. 調査地点の位置 (38 塙原 0085 1:8000)

検出遺構

調査前は倉庫跡地で、共同住宅建設により切り下げられる敷地の外周部分のみを調査した。遺構面は鳥栖ロームで、隣接道路より若干低く、東側へ緩く落ちる。削平を受けているが、東端の一部ではローム上にクロボク土が残る。

主な検出遺構は、弥生時代中期末～後期中頃の溝 2・井戸 3、古墳時代前期の方形周溝墓 1・及びそれに切られる住居？・土坑、古墳時代後期の溝 2、奈良時代の溝 2 であるが、調査区が狭いため遺構の時期や性格がつかみにくい。また、一部で旧石器時代包含層の調査を行い、フレーク・チップなど 4 点が出土した。



2. 調査区北側（西から）

出土遺物

弥生土器を中心に、コンテナ 22 箱が出土した。

まとめ

弥生時代の溝 2 条は、周辺調査では延伸線上に溝を確認しておらず、性格が明らかでない。後期中頃の井戸では底面から小壺 3・複合口縁壺 1 がまとめて出土した。周辺調査でもこの時期の井戸に祭祀行為が認められる事例が多い。方形周溝墓はコーナーの一部を確認したのみであるが、第 9・41・70 次調査でも同遺構を確認しており、今回の調査地点が墓域の北端にあたると考えられる。奈良時代の溝のうち 1 条は、南側の第 41・70 次調査で検出した溝の延長線上に位置しており、磁北から 16° 東の方位に直線的に伸びて行く溝であることを確認した。



3. 弥生時代後期中頃の井戸（北から）

報告書刊行年度は未定。

0551 博多遺跡群第 156 次調査 (HKT-156)

所在地 博多区竹下祇園町 313 ~ 316

調査面積 296 m²

調査原因 個人兼共同住宅建築

担当者 小林 義彦

調査期間 2005.11.22 ~ 2006.2.28

処置 記録保存

位置と環境 調査地は、博多湾に面した博多遺跡群の西南部に位置し、遺跡群を形成する陸側（南側）の古砂丘「博多濱」の西南端に立地する。

本調査区北隣の第 50 次調査区では、古墳時代初め～後期の竪穴住居跡が、また西の第 147 次調査区では弥生時代前期後半の甕棺墓や古墳時代初めの竪穴住居跡が検出されており、弥生時代～古墳時代の集落や墳墓群の中心域をなしている。

検出遺構 本調査では、標高 3.6m の古砂丘上で古墳時代初めの遺構面を、更にその上層 1.4m の間に古代末～中世初めの遺構面を 3 面検出した。

第 1 面：13 ~ 14 世紀代の井戸跡 6 基、土壙 26 基

第 2 面：12 世紀代の井戸跡 9 基、土壙 37 基、土壙墓 1 基

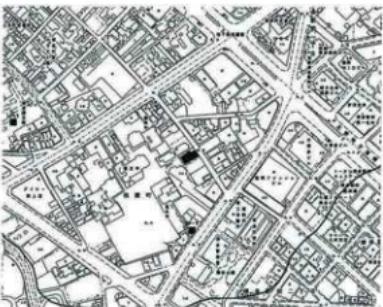
第 3 面：11 ~ 12 世紀代の土壙 8 基

第 4 面：古墳時代初めの竪穴住居跡 5 棟、土壙 17 基。この他に第 4 面上からは小石室状の石組み 1 基が検出されている。

出土遺物 検出した 4 面の遺構や遺物包含層からは、弥生時代前期後半の壺や中期後半の甕のほかに古墳時代の土師器や須恵器をはじめ、白磁や青磁などの中国磁器、瓦器碗などの土器や鉄器、土鍤、石鍤、石鍋などの多用な遺物のほか人骨、獸骨などがコンテナケース 128 箱出土した。また、第 2 層から「和銅開跡」が出土した。

まとめ 本調査では、古墳時代初めと古代末から中世初めの概ね 2 時期の遺構を検出した。殊に古墳時代初めの住居跡は、弥生時代から続く「博多濱」の集落形成を知る上で好資料となる。また、「和銅開跡」は、9 例目の福岡市内出土例であり、すべてが博多遺跡群から出土している。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)



2. 調査区西側第 4 面全景 (北から)



3. 第 2 面 2143 号土壙 (南東から)

0552 飯倉古墳群第2次調査(IKK-2)

所在地 城南区荒江1丁目561外

調査面積 141 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 阿部泰之

調査期間 2004.11.22～12.9

処置 記録保存

1. 調査に至る経過

2005（平成17）年8月29日付で濱地満子氏より本市教育委員会埋蔵文化財課（以下、埋文課）宛に早良区荒江1丁目（561・562・576・577）の一部における集合住宅建築に伴う埋蔵文化財事前審査願が提出された。これを受けて埋文課は申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である飯倉古墳群1号墳にかかるることを確認し、当該地で平成17年11月1日に試掘調査を実施した。この試掘調査において版築状の盛り土が検出され、この成果を元に両者で協議を行ったところ、建築工事によって古墳の破壊を免れないため、建物部分について本調査を実施することとした。その後、委託契約を締結し、2004年11月22日から発掘調査、翌2005年度に資料整理・調査報告書作成を行うこととした。

2. 位置と環境

飯倉古墳群は、早良平野の東部、油山から北に伸びる低丘陵である飯倉丘陵に立地する。今回の調査地点である飯倉1号墳は、前述の丘陵の北部に位置し、谷部を北に挟むため突端状となる地形に立地する。今回の調査は1号墳の南斜面を対象として実施された。（なお、調査地点の位置特定には国土地理院が都市再生街区基本調査で用いた世界測地系を当局に申請の上使用し、既設基準点から2点結合トラバースによって引用した。）

3. 検出遺構

墳丘裾部および周辺が大きく削平されていたため顕著な遺構は検出されなかった。

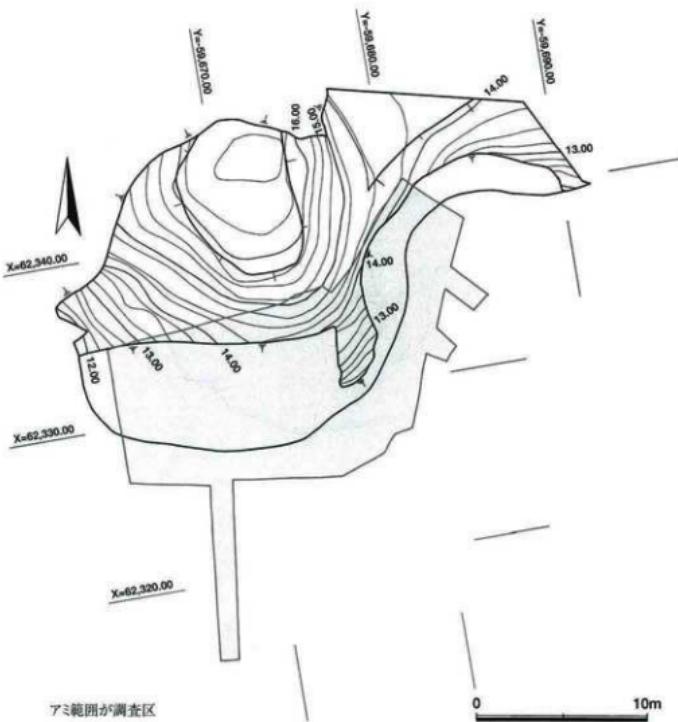
調査区中央付近に設定したセクションベルトの土層断面図を4に示す。表土の腐植土直下にて基盤層の砂礫層を検出した。それも半ばから重機で削られ、整地されている。墳頂付近に旧表土・墳丘盛り土の可能性を残す堆積土を検出したが、今回の調査範囲の中ではそれを確認するには至らなかった。

4. 出土遺物

遺物は、弥生土器・須恵器・土師器が出土した。いずれも1号墳に伴う遺物とは認められず、細片であり、量も少ない。これらは墳丘およびその周囲に堆積した表土から出土したものである。このほか玄武岩質の板石が重機による整地後の堆積層から出土している。



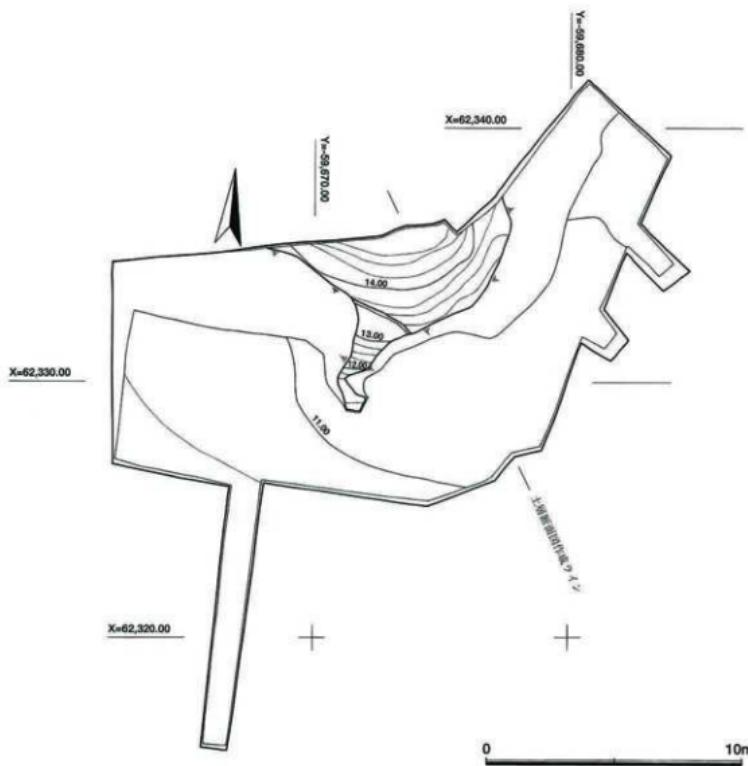
1. 調査地点の位置 (73 茶山 1237 1:8000)



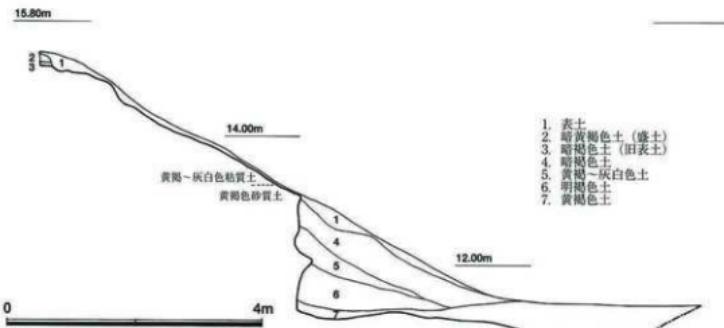
2. 調査前測量図 (1 : 300)

5.まとめ

今回の調査では、顕著な遺構は検出されず、古墳であるという確証も得られなかった。しかし整地後の堆積土からではあるが玄武岩質の板石が出土しており、旧表土および墳丘盛り土の可能性を残す堆積層の検出と併せ古墳の可能性を否定するには至らなかった。古墳であるとすれば墳丘の大部分が地山の削りだしで構築され、盛り土は墳頂部付近にごく薄く行われたものと推測される。また北東方向に伸びる低平な丘陵部について円形の部分とを区画する施設の痕跡は観察されない。この部分を前方部とすれば、低平な前方部の形状、玄武岩質の板石の存在、古墳自体の立地から、古式の前方後円墳である可能性もでてくるだろう。いざれ機会を捉えて頂部においてこれが古墳か否か確認のための調査を行うことが必要と思われる。



3. 表土除去後測量図 (1 : 200)



4. トレンチ土層断面実測図 (1 : 80)



5. 1号墳現況（南東より）



6. 表土除去後状況（南より）



7. セクションベルト土層断面状況（西より）

0553 今宿地区古墳群確認調査(第2次)

所在地 西区大字飯氏、徳永地内

対象面積 2,015,000 m²

調査原因 詳細分布調査

担当者 加藤良彦・久住猛雄

調査期間 2005.12.7 ~ 2006.3.29

処置 現状保存

位置と環境

今宿地区は、福岡市の西部、糸島半島の東に位置し、今宿平野を望む高祖山の北麓から派生する小支丘群上に350基を超える群集墳が分布し、この中に錫崎古墳や丸腰山古墳等13基の前方後円墳が分布しており、平成16年4月5日、主要な前方後円墳が「今宿古墳群」として一括で国史跡に指定されている。



調査概要

対象域は伊都地区区画整理事業等大規模開発が進み、これに伴って民間事業者の開発事業も増加する傾向にある。埋蔵文化財の破壊を未然に防ぎ、適切な保護と活用を図るため、平成17年度より首長墓群と他の群集墳との関連・新たな首長墓の確認等基礎的な資料を得るために、古墳群の詳細分布調査を実施しており、今年度は第2年次にあたり、高祖山西麓、飯氏・徳永地区を中心に実施した（地図アミ部分）。

古墳の確認は人力で現地踏査を行い、確認した古墳ごとに墳形・規模・外部施設・内部主体・現況の各項目で調査を実施し、位置は誤差1m以内の詳細な分布地図を作成するためGPS受信機を導入し、確認した古墳ごとに測定を実施しデータを集積している。

調査成果

今年度確認した古墳はのべ119基にのぼり、飯氏古墳群で新たに、円墳62基・前方後円墳の可能性がある古墳5基、徳永地区で新たな円墳5基を確認した。糸島平野域の飯氏地区での新発見が著しく、飯氏B群を中心に、各期の古墳が入り交じった特異な分布を示し、かなり深い山間部にまで分布が及んでいる。中でも新たな5基の、全長15m~50mを測る前方後円墳の可能性が高い古墳の発見は、糸島・今宿平野での前方後円墳の首長系譜に再検討を迫る重要なものである。

1. 調査地点の位置 (121 飯氏 0699 他 約1:3万)



2. 調査風景



3. 飯氏地区 NO.107 新規確認円墳 (南東から)

0554 福岡城跡第55次調査(FUE-55)

所在地 中央区内1-4

調査面積 73.7 m² (平面積)

調査原因 石垣保存修理工事

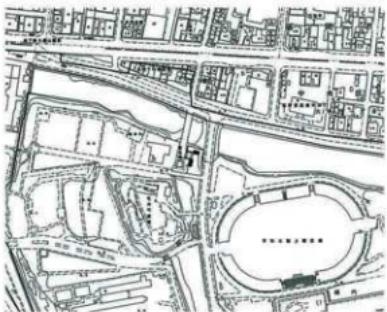
担当者 田中壽夫・長家伸・榎本義嗣

調査期間 2005.11.15～2006.3.20

処置 修理工事後保存

位置と環境

福岡藩黒田氏の居城として江戸時代初期に築城された福岡城に残る下の橋大手門の枠形石垣は、花崗岩の割石を乱層積みした築石面と典型的な算木積みの隅角部から構成されるが、従来から築石面の孕み出しによる変異が確認されていた。平成18年度より焼損した大手門の復元工事が予定されていることから、同工事に先行して、石垣の保存修理工事を行うこととし、変異状況の検討結果により、北側1面(1区)、南側3面(2区)を修理対象とした。それぞれ、石垣の高さは約5.0m、5.8m、修理工事の立面積は38.25m²、52.96m²を測る。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 1:8000)

調査および 修理工事の 方法

当該石垣の天端面については、過去に遺構確認調査を終えていることから、まず、保護盛土を除去し、石垣最上段(1面)の築石や裏込め石を露出させ、図化、写真撮影等の記録を行うとともに、石積みの手法や裏込めの状態、変異の要因等の観察を行った上で、クレーンや人力によって、石垣を解体した。また、築石については、1石ごとに法量や石材、加工方法等に関するカルテを作成した。これらの作業を築石の一段ごとに繰り返しを行い、両区ともに9面の調査を実施した。また、石垣面に直交する土層ベルトを設置し、内部構造の把握に努めた。



2. 1区石垣解体状況 (南から)

出土遺物

石垣内部から、コンテナケース39箱の瓦や漆喰片等が出土した。



3. 2区石垣積み直し状況 (北から)

まとめ

裏込めは、風化の進行した大振りな角礫が大半を占めており、孕み出しの主要因は、それらの空隙に多量の土砂が流入し、築石面を押し出したものであることが判明した。

0555 吉塚遺跡群第12次調査(YSZ-12)

所在地 博多区堅粕5丁目440-1

調査面積 126.1 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 藏富士 寛

調査期間 2005.12.9～2006.1.20

処置 記録保存

位置と環境

吉塚遺跡群は御笠川東岸流域に位置し、博多湾沿いに連なる古砂丘上に存在する、弥生時代中期～中世にかけての複合遺跡である。吉塚遺跡群西側の砂丘上には博多遺跡群がある。



1. 調査地点の位置 (36 博多駅 0123 1:8000)

検出遺構

合計2面の調査を行っており、表土下1m前後の暗褐色砂層上を第1面、表土下1.5m前後の黄褐色砂層上を第2面としている。激しく擾乱を受けており、遺構の遺存状況は良いものではない。第1面では土坑、ピット、第2面では溝、井戸、土坑、ピットを検出している。第1面の遺構は近世～中世、第2面は中世～奈良時代を中心とするものである。

出土遺物 輸入・国産陶磁器、須恵器、土師器、弥生土器等コンテナ12箱分が出土した。

まとめ 当調査地点は御笠川河岸に存在するにも関わらず、安定した砂丘面と遺構を検出することができた。このことは御笠川の対岸に至る、更なる遺構の広がりを示唆しているものといえよう。また、今次調査ではさほど顕著に見ることはできなかったが、遺構面切り下げの際、弥生時代～古墳時代に相当する多くの遺物を採集しており、周辺においては該期の遺構が相当数存在したのだろう。

尚、報告書は2006年度に刊行予定である。



2. 調査区南側（西から）



3. 調査区北側（南西から）

0556 蒲田部木原遺跡群第10次調査(KHH-10)

所在地 東区蒲田3丁目1121-1外

調査原因 倉庫建築

調査期間 2005.12.21～2006.4.28

調査面積 1,350 m² (総調査面積 1805.38 m²)

担当者 中村 啓太郎

処置 記録保存

位置と環境

蒲田部木原遺跡群は福岡市の東部、粕屋町との境、久原川と多々良川に挟まれた丘陵及び沖積地に立地する。第10次調査地点は遺跡群の西部、北端に位置し、北部を旧河川、南部を水路によって限られている。現況は水田で標高16.0mを測る。遺跡群周囲には南に部木古墳群、江辻遺跡、北に蒲田水ヶ元遺跡、蒲田原遺跡等が位置する。

検出構造

弥生時代前末～古墳時代前期にかけての竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、柱穴、旧河川等が水田等による削平を受けているにも関わらず極めて高密度で確認された。中心となる時期は弥生時代中期から後期にかけてである。竪穴住居や溝等の主要な構造は旧河川に平行、直交するものが多く、地形の制約を受けているようである。またその覆土には焼土、炭化物を含むものが多くみられた。土坑には壁が焼け、炭化物とともに被熱した多量の弥生土器（中期）が出土したものや大型の長方形で同一方向に並ぶものが見られる。柱穴の遺存は良く大半は柱痕跡が確認された。

出土遺物

調査区北側には密度の高い包含層が形成されており、遺構出土分と合わせて弥生時代前末～古墳時代にかけての弥生土器、土師器、須恵器、石器等がコンテナ300箱ほど出土した。

まとめ

第10次調査地点は遺跡群の端部であるが、遺構、遺物ともに極めて高い密度で弥生時代から古墳時代まで継続的に確認される。現時点できれりより北で遺構は確認されていないが、その広がりには注意が必要であろう。遺跡の西部については部木古墳群の位置する丘陵北側の裾部にかけて墓地群、その縁辺部に集落が展開するものと考えられる。

報告書は2007年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (2 蒲田 0003 1:8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 弥生時代焼土坑 (南から)

0557 有田遺跡群第 222 次調査(ART-222)

所在地 早良区有田 1 丁目 33-15

調査原因 個人住宅建築

調査期間 2005.12.15 ~ 2005.12.26

調査面積 38.1 m²

担当者 阿部 泰之

処置 記録保存

位置と環境 有田遺跡群は、早良平野のはば中央部、最高所で標高 15m 前後を測る低丘陵上に位置し、旧石器時代から中世にわたる時期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査地点は、現西福岡中学校の南にはば隣接する位置にある。

検出遺構 今回の調査では、古墳時代後期の竪穴住居 1 軒を検出した。調査地南部は駐車場構築のため 90cm 以上削平されており、遺構は検出できなかった。

出土遺物 遺物は、須恵器・土師器・弥生土器がコンテナケース 1 箱出土した。

まとめ 今回の調査では、古墳時代後期の竪穴住居 1 軒を検出した。遺物は土師器が大半で、床面直上から出土した土師器から 6 世紀前半頃の住居と推測される。住居の床面の下からピットが数基検出されたが、これらは遺物僅少のため時期等は不明である。削平が激しく遺構・遺物ともに少ないが、南に隣接する 141 次調査でも古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物が検出されており時期的には矛盾しないだろう。これらの結果から調査地周辺に当該期の集落が広がっていたことが推測され、有田遺跡群の古墳時代後期の様相を推し量るための 1 資料となろう。

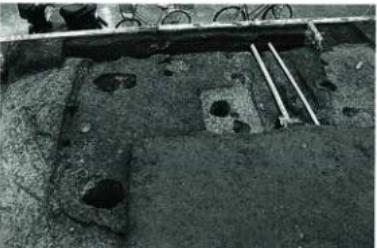
調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (82 座 0309 1:8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 竪穴住居跡 SC01 (東から)

0558 那珂遺跡群第 111 次調査 (NAK-111)

所在地 南区五十川 1 丁目 815-9
 調査原因 個人住宅建築
 調査期間 2005.12.15 ~ 2005.12.27

調査面積 12.2 m²
 担当者 大塚 紀宣
 処置 記録保存

1. 位置と環境

本調査地点は那珂遺跡群の南側部分に位置する。本来は比恵・那珂遺跡群が立地する台地の南側縁辺部にあたっていたとみられるが、現在では周囲の宅地化が進み、旧地形を伺うことは困難である。

2. 検出遺構

本調査に先行して行われた試掘調査の結果から、調査対象地内には南北方向の溝以外に遺存する遺構がないことが判明していたため、調査対象を溝周辺に限定して調査区を設定し、調査を実施した。したがって、検出できた遺構は溝 1 条のみである。

溝 (SD-01) はほぼ南北方向に向き、調査区内でわずかに西方向に曲がる。断面は平坦で細かい凹凸があり、検出時点での断面形はコ字形を呈するが、削平以前の溝の形は特定することができない。南北方向に床面の高低差はほとんどな



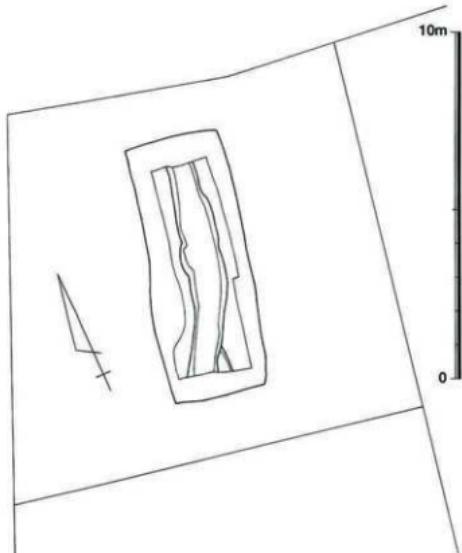
1. 調査地点の位置 (38 塩原 0085 1:8000)



2. SD-01 全景 (北から)



3. SD-01 土器出土状況 (西から)



4. 遺構配置図 (1:150)

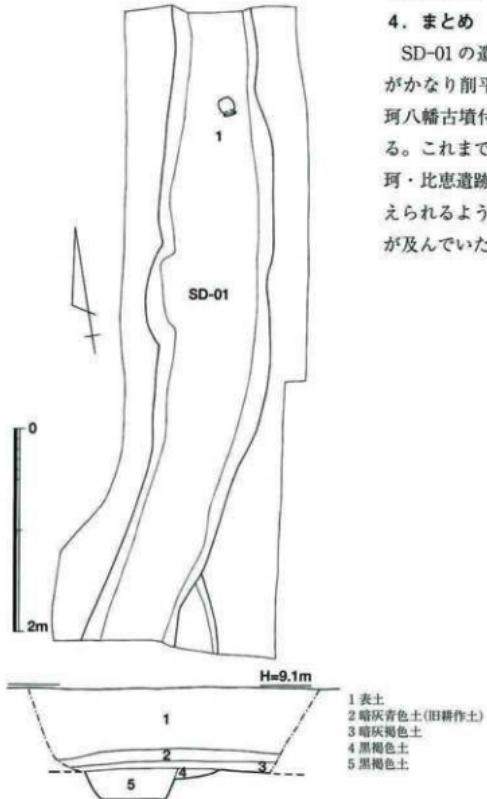
く、溝内で水が流れた痕跡もないことから、自然あるいは人工の流路であった可能性は低いと考えられる。遺構検出面から床面までの深さは30cm程度で、削平をかなり受けているものと考えられる。また調査区南側で、SD-01主軸に対して平行方向の段が付いている。段は深さ2~3cmとごく浅いが、段部分の覆土は遺構面上の土層とも溝覆土とも土質がわずかに異なることから、この遺構は溝とは別の遺構と考えられ、溝掘削以前の遺構の一部であるとみられる。

3. 出土遺物

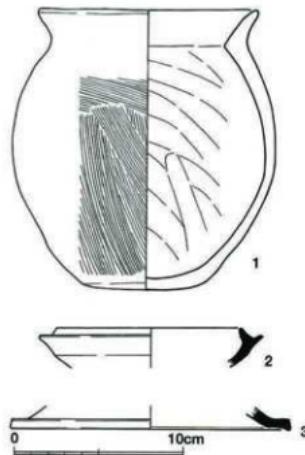
SD-01からは6世紀半ばを中心とした土師器・須恵器などの遺物が出土している。1は土師器壺で、完形で出土した。口径13.0cm、器高16.4cmで、口縁は短く外反し、胴部は卵形を崩した形を呈し、底部は抹角のレンズ状を呈し、自立する。全体に器壁が厚く、凹凸が多いなど洗練された形ではない。外面には縦方向のハケ目、内面には縦方向のケズリ痕跡が明瞭に残る。2・3は須恵器。2は壺身で、全体の1/6程度の破片である。復元口径は10.6cmで、胎土は青灰色を呈する。受け部の立ち上がりは太く内傾している。外面は受け部近くまで回転ヘラケズリで仕上げる。3は高环脚部で、全体の1/6程度の破片。底径は16.2cmで、端部は下に短く突出する。胎土は薄灰青色を呈する。

4. まとめ

SD-01の遺存状況や試掘調査の結果からみて、周辺一帯がかなり削平されていることが考えられる。SD-01は、那珂八幡古墳付近から南北方向に延びる溝の一部と推定される。これまでの調査結果から、弥生時代後期～古墳時代の那珂・比恵遺跡群一帯は溝や道路状遺構で区画されていたと考えられるようになっている。本次調査地点付近までこの影響が及んでいたことが今回の調査結果から推定される。



5. 調査区全体図 (1:50)



6. 出土遺物 (1:3)

0559 箱崎遺跡第51次調査(HKZ-51)

所在地 東区箱崎1丁目36-37

調査面積 225 m² (総調査面積 270 m²)

調査原因 個人兼共同住宅建築

担当者 屋山 洋

調査期間 2006.1.16 ~ 2006.4.11

処置 記録保存

位置と環境

箱崎遺跡は博多湾岸に形成された南北に長い砂丘上に位置する。近隣には博多遺跡、吉塚遺跡などが分布する。箱崎遺跡は今までの調査で宮崎宮を中心として平安時代以降の遺構が密に分布しており、大陸との貿易の拠点として栄えたことが判明している。また、刀伊の入寇や元寇などで何度も灰燼に帰しており、それらに伴う可能性がある焼土を多く含む整地層が途切れながらも確認されている。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1:8000)

検出遺構

古代末から中世にかけての溝や土坑、柱穴群、井戸等を確認した。焼土ブロック整地面は6面確認したが、このうち第3面は12世紀頃と思われる。この時期には調査区中央に南北方向の溝があり、それから東側には黄褐色土による細かな整地層がみられる。この黄褐色土整地層は寺院などの建物基壇である可能性が高いと考えられる。基壇は最初調査区内で南北の端を確認できたが整地ごとに規模が拡大しており、第3焼土整地層では調査区の北側に延長し、第2焼土整地層では南側にも拡大したのを確認できた。



2. 調査区3面遺構検出状況 (東から)

出土遺物

土師器碗、土師皿、黒色土器碗を主とし貿易陶磁は白磁の碗や皿を中心とする。第1調査面では口禿の白磁皿が数点出土している。その他に三彩鳥形水注片や古代瓦片、土錐、滑石製石鍋とその転用品などを含めてパンケース約90箱ほど出土した。



3. 調査区土層 (北から)

まとめ

古代末から中世にかけての小型建物基壇とそれに伴う礎石、その他集落を検出した。遺物から見ると10世紀後半から13世紀前半までの遺物がほとんどである。特に土師皿、土師碗が多く出土しており、貿易陶磁器は少なめである。

報告書は平成2006年度に刊行予定である。

0560 博多遺跡群第 157 次調査(HKT-157)

所在地 博多区祇園町 183 外

調査面積 200 m² (総調査面積 230 m²)

調査原因 商業ビル建築

担当者 荒牧 宏行

調査期間 2006.1.10 ~ 2006.4.12

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群の南端近くに位置する。地山の砂丘砂の標高は約 3.2m を測り、北東側にやや高くなる。

検出遺構 遺構面は中世の灰色粘土層、古代、古墳初頭の遺構が検出される褐色砂層、地山の黄灰色砂層の概ね 3 面とした。西側は比較的遺構面の堆積が良好であるが、東側は地山の砂丘砂近くまで解体の擾乱が入る。

中世は 12、13 世紀が中心となり、中世末の遺物はみない。遺構は町割りに則した幅約 2.3m の溝、1 辺 2.5m の方形竪穴、土師皿の集中土壙、全身骨格が遺存した木棺墓 1 基、頭骨（おそらく、木棺墓）1、犬 1 軒が井筒に埋置された井戸などが検出された。

古代は北側隣接の 59 次で検出されたような大型の柱穴が検出された。古墳初頭の竪穴住居跡は 4 軒検出された。

出土遺物 出土遺物は 12、13 世紀を主体として総量コンテナ 60 箱分が出土した。

まとめ 中世末においては周辺一帯の調査同様に区画するような溝は検出されるが、生活遺構は少なく、畑等の利用も考えられ、土地利用を考察する上で注意される。

古代では既往の調査成果からみても官衙域に含まれているものと思われる。

古墳初頭の集落は本調査区から西側へ広く展開しているものとみられる。

報告書は 2007 年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)



2. 調査区 2 面全景 (北東から)



3. 井筒内犬埋葬 (南から)

0561 飯倉 A 遺跡群第 2 次調査 (IKA-2)

所在地 早良区飯倉 5 丁目 191-1 外

調査原因 共同住宅建築

調査期間 2006.1.10 ~ 2006.2.17

調査面積 235.6 m²

担当者 阿部 泰之

処置 記録保存

位置と環境

本調査区は、早良平野の東縁を形づくる飯倉丘陵の西麓に位置する。調査地の層序は現地表面から -1.2m で平安時代の整地層、約 1.6m で弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物を含む遺物包含層、約 2.1m で基盤層である黄褐色砂礫層となる。基盤層が南西方向に傾斜するため、整地層、包含層とも南西に向かって低くなる。

検出遺構 今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物 6 棟、炉跡 3、溝 3 条、ピットである。いずれも遺物包含層を切る。包含層に切られる遺構は確認できなかった。

出土遺物 今回の調査で出土した遺物は、整地層から越州窯系青磁碗、黒色土器、柱穴から須恵器坏、土師器、包含層から弥生土器、土師器、石斧が出土した。

まとめ 今回の調査では、平安時代の掘立柱建物群を検出した。建物は 2 間 × 2 間 または 2 間 × 3 間で、いずれも整地層を切って構築されている。3 棟切り合うなど重複が多い。整地層は複数の層からなり、整地を繰り返しながら掘立柱建物を建て替えたと推測される。炉跡が掘立柱建物と重複して検出され、建物は炉の覆い屋であった可能性も考えられる。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (73 茶山 0245 1 : 8000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 土壠 SK 84 (南から)

0562 元岡・桑原遺跡群第47次調査(MOT-47)

所在地 西区大字元岡字広瀬

調査面積 107 m² (古墳1基)

調査原因 大学移転用地造成

担当者 上角 智希

調査期間 2006.1.5 ~ 2006.3.10

処置 記録保存

位置と環境 元岡・桑原遺跡群は糸島半島の丘陵地帯に位置する。47次調査は丘陵南側の尾根筋のひとつに占地する元岡古墳I群を対象にした確認調査である。遺跡分布図によれば、元岡I群は前方後円墳(1号墳)1基、円墳(2号墳)1基の計2基で構成される。

開発により消滅する2号墳の記録保存と1号墳の規模を確認するための確認調査を行なった。

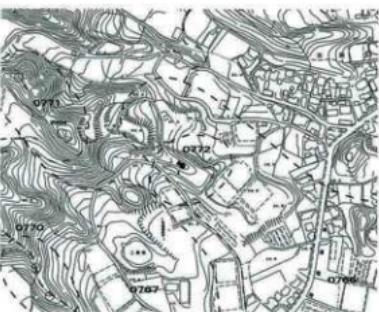
検出遺構 現況を測量後、古墳の規模を推定する目的で、主軸線上、後円部、くびれ部にトレンチを設定し

出土遺物 た。その結果、くびれ部の片側がくびれていない、前方部の墳端らしき部分が見当たらないなどの所見から、1号墳は前方後円墳ではないという見解に達した。次に主体部を調査し、2.8m四方の墓坑掘り方を検出した。その途中、表土を剥いた段階で赤色顔料が付着した薄い割石の破片数点が出土した。盜掘を受けている。調査中に1号墳については開発をしないという決定がなされたため、調査はきりのよい所で中断し、埋め戻した。赤色顔料、薄い割石が出土したが、遺物は皆無である。墓の詳細な時期は不明であるが、弥生時代終末の墳丘墓か古墳時代前期の円墳と思われる。

2号墳は近世墓地の中に立地する堆みで、一見古墳石室の石材抜き跡に見えなくもない。調査の結果、長方形の平面プランをした近世墓の改葬跡であった。

まとめ 元岡古墳I群1号墳は、前方後円墳ではなく、弥生時代終末の墳丘墓あるいは古墳時代前期の円墳であった。

報告書は2007年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 2782 1:8000)



2. 元岡古墳群I群1号墳 (北西から)



3. 1号墳 (北東から)

0563 元岡・桑原遺跡群第48次調査(MOT-48)

所在地 西区大字桑原字戸原

調査面積 447.3 m²

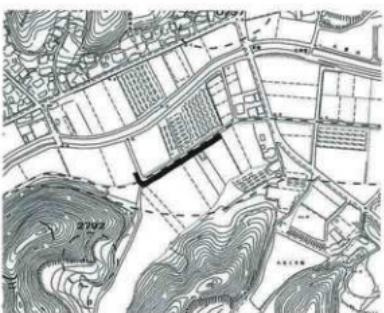
調査原因 大学移転用地造成

担当者 池田祐司

調査期間 2006.1.10 ~ 2006.2.23

処置 記録保存

位置と環境 20次調査の北側に接する。西半は南西側の谷からの扇状地状の地形である。数m北側は西側からの大原川の谷への落ちとなると考えられる。東半は南西からの谷本体となる。調査区は約4m幅と狭い。



1. 調査地点の位置 (129 桑原西部 2782 1:8000)

検出遺構 西側の高まりで竪穴式住居3棟、掘建柱建物3棟、溝、土坑、ピットを検出した。いずれも削平を受け、調査区内に収まらない。竪穴式住居SC010は古墳時代前半のものでベットを持ち2本柱と考えられる。SC011は壁溝のみが遺存する。掘建柱建物2棟は2×2間の総柱建物が復元できる。時期は不確実だが古墳時代後期か。1棟は竪穴式住居に切られる1×1間である。溝は等高線にはば並行して走り、耕作に伴うものと考えられる。西端では北側の谷への落ちを確認した。

西側は谷状の地形となり黒色の粘質土に古墳時代までの遺物を含む。谷の落ち際からは比較的まとまった量の弥生時代中期および古墳時代前期の遺物が出土した。



2. SC010 (南東から)

出土遺物 コンテナケース17箱の遺物が出土した。西側の遺構からは須恵器、土師器が出土した。また、遺構中よりナイフ形石器、ラウンドスクレーパーが出土している。西端の落ちからは木簡が1点出土した。



3. 東側段落ち部古式土師器出土状況 (南から)

まとめ 東側の谷部では弥生土器、古式土師器が出土し、古式土師器は完形品がつぶれた状態で出土した。また少量ながら製塩土器が見られる。20次調査と同様に古墳時代後半の竪穴式住居、古代と考えられる掘建柱建物を検出した。遺構面はさらに北に数m延びると考えられる。

報告書は2009年度刊行予定である。

0564 博多遺跡群第 158 次調査 (HKT-158)

所在地 博多区店屋町 66-1 外

調査面積 331.6 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 星野 恵美

調査期間 2006.1.16 ~ 2006.3.17

処置 記録保存

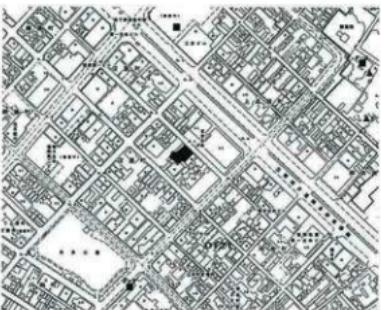
位置と環境 博多遺跡群は博多湾に面した砂丘上に立地し、西を博多川、東を石堂川、南を那珂川に挟まれ、地形的に独立した一角を成す。今回の調査地点は、博多遺跡群のほぼ中央部にあたり、「博多濱」の西側斜面に位置する。

検出遺構 第 158 次調査は、既存建物によって砂丘面まで大きく搅乱されていた。そのため、地山である黄褐色砂層での 1 面の調査となった。検出面の標高は約 3.0 ~ 3.2m を測り、南西側に向かってわずかに傾斜する。古代から近世にかけての遺構を検出した。中世の主な遺構は溝、井戸、土坑、ピットである。井戸は 11 世紀後半から 14 世紀であり、井側には全て木桶が使用されていた。12 世紀後半の土坑からは、ガラス玉、ガラス玉の失敗品が土師器とともに廃棄された状況で出土した。また、14 世紀の土師器の廃棄土坑も検出し、出土した土師器の中には墨書をもつものもある。古代の遺構は竪穴住居と大型土坑 2 基である。竪穴住居は南北方向約 4.0m を測る。大型土坑からは大量の須恵器と土師器が出土し、そのうちの 1 基は床面で鍛冶炉を検出した。鍛冶炉に伴う方形の竪穴状遺構と思われる。鍛冶炉の操業が停止した後は、廃棄場になっており、鍛冶炉の直上からは鉄滓とともにウマ・ウシの歯、骨が出土した。

出土遺物 土師器・須恵器・黒色土器・国産陶器・輸入陶磁器の他、瓦、青銅製品、ガラス製品、石製品、鉄製品、鉄滓、獸骨が出土し、遺物は総量コンテナ 160 箱を数える。

まとめ 南東側の第 43 次調査では製鉄炉が 4 基検出されており、今回検出した鍛冶炉とは時期的にも合致しており、一連のものと考えられる。また、鍛冶炉の直上からウシ、ウマが 3 体以上まとめて出土しており、注目される。

調査報告書は 2007 年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)



2. 鍛冶炉検出状況 (東から)



3. ウシ、ウマ検出状況 (南から)

0565 有田遺跡群第 223 次調査(ART-223)

所在地 早良区小田部3丁目204-2

調査面積 107.14 m²

調査原因 個人住宅建築

担当者 久住 猛雄

調査期間 2006.1.26 ~ 2006.3.10

処置 記録保存

位置と環境

有田遺跡群は、早良平野の北部中央に位置し、最大標高 15m 前後を測る独立中位段丘上に占地している。段丘には深く切り込む谷が幾つか存在し、台地は北に向かって八つ手状に分岐する。223 次調査地点は段丘中央から西側に延びる支丘の北側斜面に位置する。周囲地形は南と西側が高く、北側が低い。周囲標高は 8.4 ~ 9.0m 前後を測る。



1. 調査地点の位置 (82 原 0309 1 : 8000)

検出遺構

排土置場の都合上、調査区を東西に分割して反転調査を行い、西側を I 区、東側を II 区とした。遺構検出面は地山の鳥栖ローム下層上面である。遺構面の標高は北西側で 8.05m、南側で 8.6m である。遺構は総じて削平気味で、西側の遺存が悪い。竪穴住居 1 (+貼床残存範囲 1)、竪穴遺構 2、土坑 2、井戸 2、柱穴多数を検出した。II 区東側検出の竪穴住居の北東辺には北東側壁際に焼土塊で構築された竪穴を検出した。5 世紀代の可能性がある。主柱穴が無い。これを切る 12 世紀の竪穴遺構がある。II 区東側には壁面沿いに杭列がある竪穴遺構がある。片方の短辺が広く墓壙の可能性もあるが不明である。I 区南西側には浅い凹み遺構が多くあるが、竪穴住居の貼床を考えた。II 区南側の井戸には大きな掘方の素掘り井戸があり、古墳時代初頭である。I 区中央の井戸は径が小さいが、深く湧水があり井戸と判断した。覆土から古代か。その他、古墳時代から中世と考えられる多くの柱穴があり、建物が想定される。



2. I 区全景 (南から)

出土遺物

遺物の総量はパンケース 3 箱。弥生土器、古墳時代～古代の土師器・須恵器、中世の土師器、陶磁器、石器（弥生時代か）が出土。



3. II 区全景 (北東から)

報告書は 2007 年度以降刊行予定である。

0566 博多遺跡群第 159 次調査(HKT-159)

所在地 博多区博多駅店屋町 102 外

調査原因 共同住宅建築

調査期間 2006.2.10 ~ 2006.4.10

調査面積 160 m² (総調査面積 190 m²)

担当者 吉武 学

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群の中央西部に位置し、博多浜が北西へ落ちた位置に当たり、周辺調査事例から中世前半以降の生活面が存在するものと予想された。現地表面は標高 4.5m 前後で、南側隣地は約 1m 高く旧地形を反映すると考えられる。

検出遺構 試掘結果から GL-1.6m で中世面となると想定したが、1.8m まで前建物により破壊を受けており、現物重機でスキ取りを行ったあと、この面を第 1 面として遺構検出を行い、以後第 3 面まで遺構面を設定して調査を行った。標高は、第 1 面が 2.6 ~ 3.1m で北に低く、第 2 面は 2.3 ~ 2.4m、第 3 面は 1.6 ~ 1.8m の砂質土の上面で、以下は自然堆積層となる。

主な検出遺構は、15・16 世紀の井戸 5 (方形井戸 1・桶型 4)、道路状遺構 1、建物基礎とみられる石組 1、土坑多数、近世の井戸 3 (瓦 2・木筒 1)、石積土坑 2 である。調査区中央に縦断して設けたトレンチにより、第 3 面以下は、黒色粘質土、細砂、木質を含むヘドロ層、硬化した粗砂 (川底) へと推移することを確認した。いずれも層厚は薄く、細砂層あたりまで白磁等の遺物を含むが、以下は遺物が少ない。粗砂層上面で標高 0.5m を測り、地下水位は 0.6 ~ 0.9m にある。

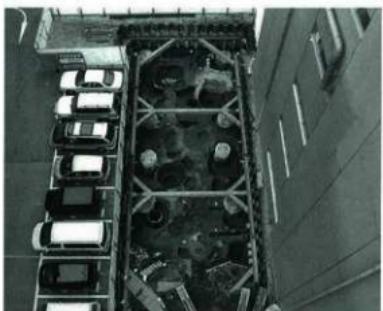
出土遺物 コンテナ 90 箱分。中世の国産土器・輸入陶磁器が大半を占め、他に銅錢等の金属遺物・獸骨、摩滅した古式土師器・奈良時代須恵器、近世の土器や瓦などがある。

まとめ 第 3 面以下では 11 ~ 12 世紀頃の白磁片の出土が目立つ。龍泉窯系青磁など 13 世紀前後の遺物は少なく、15・16 世紀頃の土器と混在している。現時点では 14 世紀以前の遺構は未確認だが、現在遺物を整理中であり、当地点が陸化し都市に含まれた時期については今後に検討を要する。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)



2. 第 1 面全景 (北西から)



3. 中世の方形井戸 (南から)

0567 乙石遺跡群第3次調査(OTI-3)

所在地 西区大字金武地内

調査面積 1,000 m²

調査原因 園場整備

担当者 宮井善朗

調査期間 2006.2.1～継続中

処置 記録保存

位置と環境 乙石遺跡は室見川西岸の扇状地上に位置する。南北を谷に囲まれ、南側は小河川が開削する段丘崖になっている。北側は都地遺跡に、南側は金武城田遺跡に隣接する。

検出遺構 今年度は表土剥ぎと構造検出の一部を行ったのみである。18年度調査区からは製鉄炉、大型掘立柱建物、古墳時代から中世の土壙墓、木棺墓、古墳時代竪穴住居などが検出されている。出土遺物を含め、次年度に詳細を報告する。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (93 都地 2838 1 : 8000)



2. 遺跡全景（西から）

0568 野芥遺跡群第14次調査(NKE-14)

所 在 地 早良区野芥2丁目524-1

調査面積 145 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 田上 勇一郎

調査期間 2006.2.6～2006.2.21

処置 記録保存

1. 調査に至る経緯

当地に平成17年12月15日付けで埋蔵文化財事前審査願が提出された。以前行った確認調査で遺構が確認されており、今回の建築計画では遺構に影響が及ぶと判断されたため本調査を行うこととなった。

2. 位置と環境

野芥遺跡群は早良平野の南東部に位置し、油山山系の南から西にのびる低丘陵上を中心に、一部丘陵下の沖積地を含む南北約1,600m、東西約300mの細長い範囲に広がる。本調査地点は沖積地部分にあたる遺跡の北部、西端に位置する。北側に5次調査V区、南側に13次調査地点がある。現標高は16m前後である。

3. 発掘調査の経過

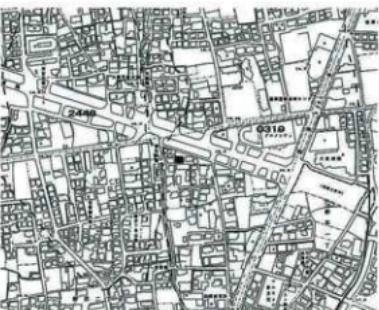
原因者の表土掘取り、撤出後に作業に着手した。遺構面は調査区の東西で食い違いを見せ、土層の確認から東側が高く、西側はすでに下の層に下がっていることがわかった。排土置き場の都合上、まず、東側上層遺構と西側下層遺構を調査し、その後、人力で掘り下げ、東側下層遺構を調査することになった。上層遺構は標高15.7～15.8mの灰白色シルトで、黒色砂質土を覆土とする遺構を確認した。また、下層遺構は標高15.4～15.5mの暗灰褐色～灰白色粗砂層で黒色砂質土を覆土とする遺構を確認した。

4. 検出した遺構と遺物

上層でピットを約70基、下層でピットを約110基確認した。また、下層で確認した旧河川にトレンチを入れたが遺物は出土しなかった。遺物は上面で検出したSP01より古墳時代とみられる土師器片が数点出土したのみである。

5. まとめ

上下2面で遺構検出を行い、ピットを検出したが、1つを除いて遺物は出土せず、大部分は人為的な掘り込みではないと思われる。本調査地点は集落域からはずれた部分にあたると考えられる。



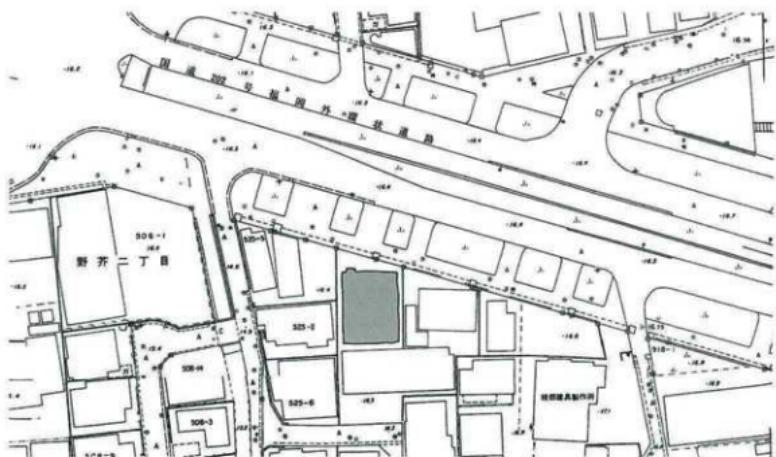
1. 調査地点の位置 (83 野芥 0319 1:8000)



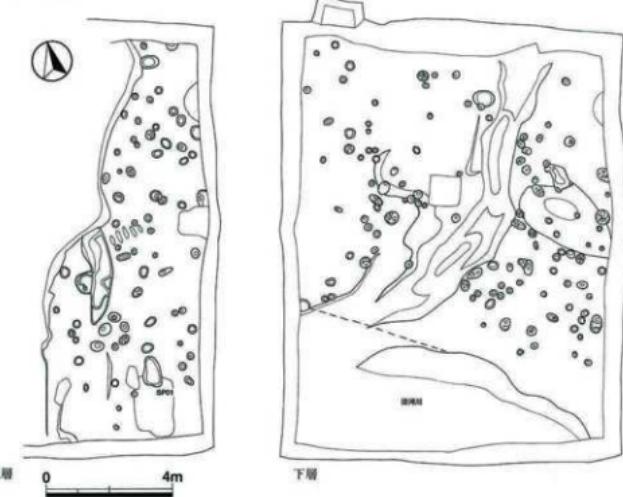
2. 調査区全景 東側上層、西側下層（南から）



3. 調査区西壁土層（南東から）



4. 調査区位置図 (1 : 1000)



5. 造構分布図 (1 : 160)



6. 調査区西壁土層図 (1 : 100)

0569 飯氏遺跡群第11次調査(IIJ-11)

所 在 地 西区大字飯氏 666-3

調査面積 86.24 m²

調査原因 個人住宅建築

担当者 加藤 良彦

調査期間 2006.2.6～2006.2.20

処置 記録保存

1. 調査に至る経緯

本調査は、西区大字飯氏 666-13 番地内において個人専用住宅建設を計画するにあたって、埋蔵文化財の有無の照会のため平成 17 年 7 月 4 日事前審査願いが埋蔵文化財課に提出されたことにより始まる。申請面積は 431.68m²、受付番号は 17-2-318 である。

確認したところ、申請地が飯氏遺跡群内であり、西側 100m には帆立貝式の前方後円墳飯氏 A-1 号墳（兜塚）が立地しているため、平成 17 年 8 月 8 日試掘調査を実施した。結果、地表下 15cm で土壌・柱穴を検出し、遺跡の存在を確認したため、盛土等の工法変更を含め協議を行い、道路までの切り下げ工事を行う車庫部分のみを対象に事前に緊急調査を実施することとなり、平成 18 年 2 月 6 日より発掘調査を実施した。

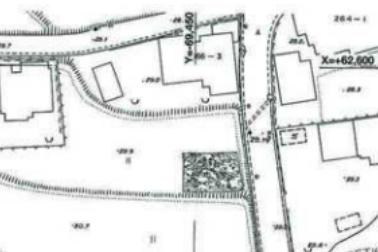
2. 位置と環境

遺跡は福岡市西部に位置する糸島平野の東部、高祖山北西の山麓・低位段丘上に立地する。周囲を谷底平野に囲まれ独立丘状を呈しており、北から小谷が数本開析し舌状の丘陵が延びる。

調査区は遺跡群の南東部、飯氏 A-1 号墳（兜塚）が立地する北西に延びる低位段丘上の北東緩斜面に位置する。検出面の標高は 29.5m である。遺構は耕作土および暗褐色混粗砂土包含層下の明黄褐色粘質土の上面で検出される。周辺では第 5 次調査が実施され、弥生時代中期前半～中頃の甕棺墓群が検出されている。



1. 調査地点の位置 (121 飯氏 0685 1:8000)



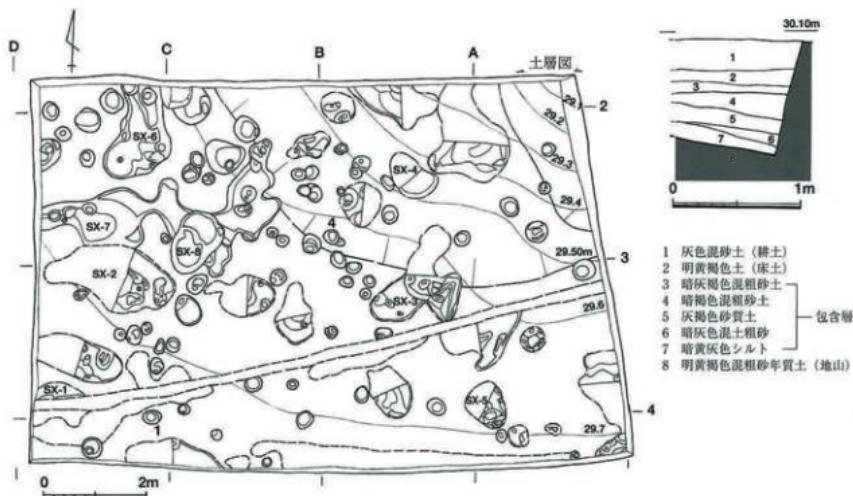
2. 調査区位置 (1:1000)



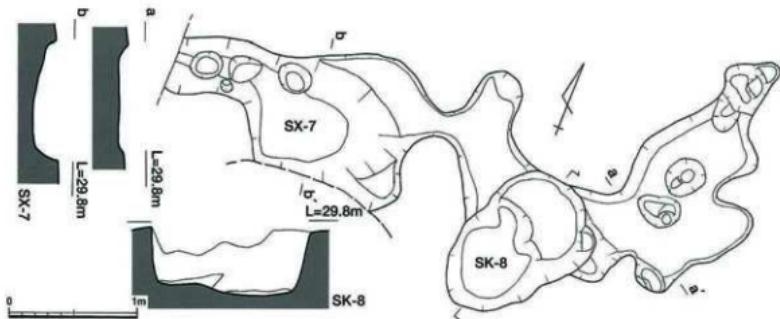
3. 調査区全景 (西から)



4. 調査区北壁土層 (南から)



5. 遺構全体・土層断面図 (1:100, 1:40)



6. SX-7・SK-8 実測図 (1:40)

3. 遺構と遺物

検出した遺構は、弥生時代中期初頭の土壙1基、同期の不整形土壙1基、弥生時代の倒木痕等6基である(3-5図)。同期の柱穴を多数検出したが建物としてまとまらない。方位は旧座標系北である。

不整形土壙 SX-7(6-7図) 調査区北西部に位置し、SK-8を切る。4.8 + a × 1.1m、深さ5~20cmを計り、北から西に湾曲し流路状を呈するが砂の堆積は無く、暗褐色砂質土が堆積する。中期初頭の土器片30片弱を検出した。

出土遺物(9図) 1・2は断面三角口縁の堀口縁部で、1は器面調整は不明。2は小型の堀で褐色~淡赤褐色を呈し、摩滅のため口縁刻目の有無は不明。

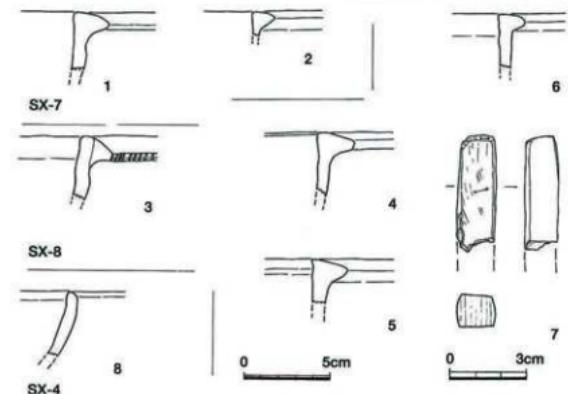
土壙 SK8(6・8図) 調査区中央西よりで検出。平面橢円形で、不整形土壙 SX-07に切られる。幅80cm、



7. SX 7 (東から)



8. SK 8 (東から)



9. 出土遺物実測図 1 (1:3、1:2)

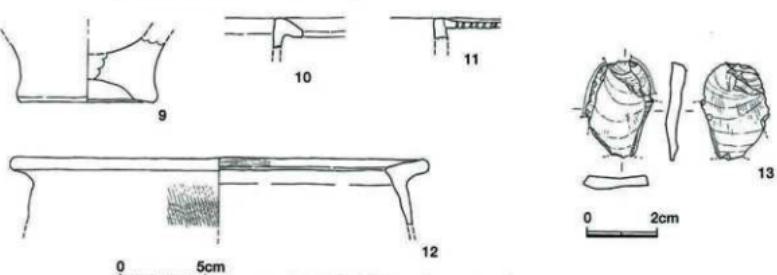
長さ 128cm、深さ 50cm を測る。覆土は暗褐色砂質土。遺物は弥生中期初頭の土器片數十片・柱状片刃石斧・黒耀石および玄武岩の剥片を検出している。

出土遺物 (9図) 3～6は断面三角口縁の壺口縁部で、3は口唇外面に細かな刻目を施す。内外面はヨコナデ。口径 35cm 前後か。4は摩滅のため調整不明。5・6は外面にヨコナデを施す。7は灰白色凝灰質安山岩ホルンフェルス製の柱状片刃石斧。刃部が内から外方に折損し、4.4+ α × 1.8 × 1.3cm を測る。節理の直交方向に刃部をとる。上・表・裏面は横方向に研磨し、両側は剥離する。表・裏面に縦方向の使用痕が残る。

その他の出土遺物 (9～10図) 8はSX-4出土の弥生土器鉢口縁片。9はB2 グリッド SP4 出土弥生中期前半壺底部で径 8.2cm。上げ底で外面はナデ。10はD4 グリッド SP1 出土弥生中期初頭壺口縁部。長めの三角口縁で器面は摩滅。11はC1 グリッド包含層出土の夜白II期深鉢口縁片で、口縁直下の「L」字状突帯に浅い刻目を施す。以下をヨコにナデする。12は遺構検査面出土の中前期前半の壺口縁で径 24.5cm。口縁上面と外面口縁下にハケ調整を施す。13は検査面出土の黒耀石の縦長使用痕剥片で両側辺に使用痕を有する。

4.まとめ

中期初頭を中心とした弥生集落の北東端部に位置するとおもわれ、集落の中心部は、兜塚と第5次調査の立地する西100m程の丘陵上にある可能性が高い。該期の集落遺構は300m程北の第1次調査区で住居が、第3次調査I B区・II区で溝・土塁多数が検出され、遺跡群内に2箇所中心が想定される。



10. 出土遺物実測図 2 (1:3、2:3)

0570 比恵遺跡群第 104 次調査(HIE-104)

所在地 博多区博多駅南 5 丁目 114-1 外

調査面積 264 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 藏富士 寛

調査期間 2006.2.7 ~ 2006.3.17

処置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群は福岡平野の中央部に位置し、平野内を流れる那珂川と御笠川に挟まれた標高 5 ~ 8m の洪積台地上に存在する。当調査地点は比恵遺跡群の西側に存在し、北には「那津宮家」に関連すると考えられる遺構群を検出した第 8・72 次調査が行われている。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)

検出遺構

ピット、土坑等がある。土坑は近世以降のものである。調査地点の状況をみれば、この段階に激しい地形改変が行われたことがわかる。また、土坑内から壺棺片を中心とした多くの弥生土器が出土している。なお、ピットから遺物は出土しておらず、ピットの所属時期は不明である。

出土遺物

弥生土器などコンテナ 17 箱。

まとめ

近世以降における激しい地形改変により、遺跡の状況については不明の部分が多い。しかし、多量の壺棺（中期後半）片が土坑内から出土し、しかもある程度原形を留めていたことは、周辺に墓域が存在していたことを示しているのだろう。

尚、報告書は 2006 年度に刊行予定である。



2. 調査区南西側 (北東から)



3. 調査区北東側 (南西から)

0571 山王遺跡第4次調査 (HEM-4)

所在地 博多区山王2丁目37、38-2

調査面積 449.3 m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 大塚 紀宣

調査期間 2006.2.15 ~ 2006.3.31

処置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群の東側、御笠川の右岸の段丘上に位置する。比恵・那珂遺跡群が立地する鳥栖ローム層で形成された丘陵の上に遺跡が広がる。現在では削平が進み、旧地形を伺うことは困難である。現況の標高は6m前後である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 2379 1:8000)



2. 調査区東半全景 (南から)



3. 調査区西半全景 (東から)

検出遺構 遺構面は現地表から30~50cm下で、弥生時代~古墳時代の竪穴住居、古墳時代の井戸・溝状遺構、弥生時代前期の貯蔵穴を検出した。竪穴住居は遺存状況が良好で、遺構面から床面まで30~40cm程度遺存する遺構もある。住居は方形と長方形の2種類に大別でき、出土遺物や切り合い関係からみて長方形の住居は方形のものより後出することが判明する。方形の住居はベッド状遺構を持つものが多く、中央に炉や焼土が明瞭に残る住居が多い。また長方形の住居も中央に炉をもつ。ほとんどの住居が厚い貼床を施す。ベッド状遺構も大半が土を貼って作られている。井戸掘方は検出面上端で径2.8mを測る。検出面から井戸底までの深さは1.9mで、井戸下部は八女粘土まで達し、底面からは現在でも湧水がみられる。溝状遺構は主な溝が3本でうち2本は中世~近世に属する。1本は古墳初頭で、先述の井戸を起点として西に傾斜する。貯蔵穴は方形2基、円形1基を検出し、時期は弥生中期初頭とみられる。

出土遺物 方形の住居からは弥生後期(下大隈式)の遺物が大破片で出土する。長方形の住居からは大型の土器片は出土しないが、須恵器破片が若干混じる。但し柱穴掘込みなどによる混入の可能性もある。井戸底部付近から古墳初頭の変形土器などが完形で出土する。

まとめ 遺構の時期は弥生時代後期から古墳時代初頭まで継続している。遺構の質・密度は西隣の比恵・那珂遺跡群と大差なく、本来は一体の遺跡群だった可能性が高い。

調査報告書は2006年度刊行予定。

0572 博多遺跡群第 161 次調査 (HKT-161)

所在地 博多区店屋町 22-1 外

調査面積 50 m² (総調査面積 246.5 m²)

調査原因 共同住宅建築

担当者 小林 義彦

調査期間 2006.3.17 ~ 2006.7.8

処置 記録保存

位置と環境

調査地は、博多湾に面して拡がる博多遺跡群のほぼ中央部に位置し、遺跡群を形成するふたつの古砂丘「息の濱」と「博多濱」の間に湾入する入り海の埋立地上に立地している。北に隣接する第 40 次・95 次調査では東西と南北方向に交差して延びる道路と付設された側溝が検出されている。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1:8000)

検出遺構

調査では、室町時代後期と近世の遺構面 2 面を検出した。室町時代の遺構は、道路とそれに付設した側溝、土壌、井戸跡である。このうち道路は、幅員が 2 間幅の南北筋の道路で、磁北から 50° 西へ振れ、北接する第 95 次調査区の道路に続いている。この道路の両側には、幅 30 ~ 40cm の側溝が付いている。側溝は、横に並べた板を杭で固定して養生し、溝内の堆積土は道路上に搔き上げている。また、井戸跡は桶や曲げ物を井側とし、井側の中には獸骨や漁骨、魚鱗のほか種子などが投棄されていた。

江戸時代の遺構は、井戸跡や土壌、鍛冶炉のほか礎石を敷いた建物跡がある。



2. 道路遺構 SR (南から)

出土遺物

これらの遺構からは、土師器や陶磁器などの土器類、漆器柄や櫛、箸、下駄、板草履、曲げ物などの木製品、獸骨や漁骨、種子などの自然遺物のほかに銅錢、土錘、石錘、石鍋などがコンテナケース 88 箱ほど出土した。

まとめ

本調査区で検出した道路遺構は、太閤町割り以前の「中世博多」の町の有り様が窺い知れる好資料である。殊に、道路に付設された 2 条の側溝は、道路の補修や開削法を知る上で貴重な資料となる。

調査報告書は 2007 年度に刊行予定である。



3. 道路側溝 SD09 遺物出土状況 (南から)

V 平成 17 年度刊行報告書一覧

集	書名	副題等	調査番号	編集
869	有田・小田部 40	有田遺跡群第 205 次調査報告	0256	藏本 正志
870	有田・小田部 41		7823・7824・7825・7826・7827・7828・ 7830・9301・9634・9847・0020・0036・ 0038・0301・0417・0466	力武 卓治
871	有田・小田部 42	有田遺跡群第 211 次調査報告書	0428	松浦 一之介
872	今宿五郎江 5		0254・0255	杉山 富雄
874	金武地区農村振興総合整備統合事業関係調査報告 金武 3	浦江遺跡第 5 次調査 5・城田遺跡第 2 次調査報告 2・乙石遺跡第 2 次調査 1	0144・0329・0411	阿部 泰之
875	鴻臚館跡 16	平成 15 年度発掘調査報告書	0309	大庭 康時
876	コノリ遺跡 2	コノリ遺跡群第 4 次調査の報告	0463	田上 勇一郎
877	雜餉隈遺跡 6		0460	赤坂 亨
878	山王遺跡 1	山王遺跡群第 2 次調査報告	0459	荒牧 宏行
879	山王遺跡 2	第 3 次調査報告	0468	吉武 学
880	重留村下遺跡 3	重留村下遺跡群第 4 次調査の報告	0453	田上 勇一郎
881	下月隈 C 遺跡 VI	福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈 C 遺跡第 7 次調査報告	0115	山崎 龍雄
882	周船寺遺跡 6	周船寺遺跡群第 16 次調査	0431	阿部 泰之
883	周船寺遺跡 7	周船寺遺跡群第 17 次調査	0442	阿部 泰之
884	住吉神社遺跡 1	住吉神社遺跡第 1 次調査報告	0446	長家 伸
885	田島 A 遺跡 2	田島 A 遺跡第 7 次調査報告	0472	松浦 一之介
886	唐原稻葉遺跡 1	第 1 次調査報告	0427	藏富士 寛
887	那珂 41	那珂遺跡群第 99 次調査報告	0422	吉武 学
888	那珂 42	那珂遺跡群第 103 次調査報告	0455	長家 伸
889	那珂 43	那珂遺跡群第 106 次調査報告	0476	山崎 龍雄
890	那珂 44		0477	赤坂 亨
891	中村町遺跡 2	中村町遺跡第 3 次調査報告	0473	長家 伸
892	博多 106	博多遺跡群第 147 次調査の報告	0426	大塚 紀宣
893	博多 107	博多遺跡群第 148 次調査報告	0436	藏富士 寛

集	書名	副題等	調査番号	編集
894	博多 108	博多遺跡群第 150 次調査報告	0479	藏富士 寛
895	博多 109	博多遺跡群第 151 次調査の報告	0482	大塚 紀宣
896	箱崎 25	箱崎遺跡第 25・32・42 次調査	0104・0224・0351	中村 啓太郎
898	比恵 42	比恵遺跡群第 91 次調査報告	0401	山崎 龍雄
899	比恵 43	比恵遺跡群第 95 次調査報告	0467	藏富士 寛
900	比恵 44	比恵遺跡群第 97 次調査報告	0480	荒牧 宏行
901	広瀬遺跡 2・上広瀬遺跡 1	石釜地区基盤促進事業関係調査報告書 2-広瀬遺跡第 1 次調査 2- 上広瀬遺跡 第 1 次調査	0326・0418	加藤 良彦
902	広瀬遺跡 3	広瀬遺跡第 3 次調査	0419	加藤 良彦
903	藤崎遺跡 16	藤崎遺跡第 34 次調査	0461	阿部 泰之
904	干隈古墳群	D-1 号墳の調査	0471	阿部 泰之
905	三苦遺跡群 6	第 6 次調査報告	0462	藏富士 寛
906	南八幡遺跡 7	南八幡遺跡第 12 次調査報告	0403	中村 啓太郎
907	空港線関係埋蔵文化財発掘調査報 告書 5 席田大谷遺跡群 6	第 7 次調査	0452	吉武 学
908	夫婦塚古墳 2	金武古墳群第 7 次調査	0423	池田 祐司
909	九州大学統合移転用地内埋蔵文化 財発掘調査報告書 元岡・桑原遺跡群 6	桑原金原古墳、元岡石ヶ原古墳、元岡・ 桑原遺跡群第 22・27・28・34 次調査 の報告	9657・9658・0033・0153・0154・0310・ 0340	久住 猛雄
910	元岡・桑原遺跡群 7	一般県道桜井太郎丸線拡幅に伴う発掘 調査報告書	0002	松浦 一之介
911	吉武遺跡群 X Ⅳ	飯盛・吉武画場西武関係調査報告書 12-古墳時代集落遺構編 3-	8335・8416	横山 邦継
912	吉塚祝町 2	吉塚祝町遺跡第 2 次調査報告	0362	星野 恵美
	福岡市埋蔵文化財年報 Vol.19	2004 年度	0402・0405・0406・0408・0409・0412・ 0424・0432・0443・0450・0456・0464・ 0465・0469・0470・0474・0478・0489・ 0491・0492	濱石 哲也

第 873・897 集は都合により平成 18 年度の刊行となった。

福岡市内の遺跡調査として福岡県教育委員会から下記の報告書が福岡県文化財調査報告書第 200 集として刊行されている。

県 200	県立修猷館高校改築事業関係埋蔵 文化財調査報告書 6 西新町遺跡Ⅳ	福岡県福岡市早良区西新所在西新町遺 跡第 17 次調査報告書	0339	(県教委) 重藤輝行 坂元雄紀
----------	---	-----------------------------------	------	-----------------------

VI 平成 17 年度福岡市新指定文化財

平成 17 年度の福岡市新指定文化財は、平成 18 年 2 月 14 日開催の福岡市文化財保護審議会において、6 件の文化財について答申を得、平成 18 年 3 月 23 日の福岡市公報により告示されました。

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者
有形文化財	絵画	紙本著色筑前・豊前国絵図屏風	六曲一雙	早良区次郎丸 3 丁目	石橋義章
	彫刻	銅像弘法大師坐像	1 顕	博多区上呉服町	宗教法人入定寺
	考古資料	福岡城出土輪宝・壺	3 点	博多区井相田 2 丁目	福岡市
民俗文化財	有形民俗	志賀海神社の力石	1 個	東区大字志賀島	宗教法人志賀海神社
	有形民俗	若八幡宮の力石	1 個	博多区博多駅前 1 丁目	宗教法人若八幡宮
	有形民俗	住吉神社の力石 附 銘「折目三拾六貫目」1 個	1 個	中央区港 3 丁目	宗教法人鳥飼八幡宮

指定文化財の概要

1. 有形文化財「紙本著色筑前・豊前国絵図屏風」

本屏風はかつての三瀬街道に面した次郎丸の旧家に所蔵されるものである。六曲一雙・紙本著色での作品で、筑前の雙・豊前の雙ともに保存状態は良好である。制作年代は山峠を金泥で描く手法や使用している藍色の色合いから、江戸時代中期を下らないものと考えられ、画面に表現された景観年代からは 17 世紀後半代が考えられる。また筑前図が詳細なのに比べ、豊前図は名所図的にえがかかれていることなどから作者は福岡藩側の絵師の手になるものと考えられる。



筑前の雙

2. 有形文化財「銅像弘法大師坐像」

本像を安置する入定寺はかつての蓮池町に位置する真言宗寺院である。青銅製で高約 93.5cm の坐像である。背面に「文政 8 年(1825 年)」、「鑄物官工 深見興昌・鎮定」他工人や大仏師の銘が残されている。深見家は近世博多を代表する鑄物師の一つである。主に鍋・釜・鋤などのほか鐘錠を鋳造していたようであるが、現在までに残る製品は少ない。近世鋳造技術を伝える作品として貴重な作品である。



銅造弘法大師坐像

3. 有形文化財「福岡城出土輪宝・壺」

昭和 36 年校舎整備に伴う工事に当たり、国史跡福岡城内にある舞鶴中学校敷地内より出土した、青銅製輪宝・壺（蓋及び身）の計 3 点であ

る。中世後期から近世にかけて城館の建築に当たっては地鎮修法が行われたことが発掘調査事例等で明らかとなっている。本資料についても、聞き取りにより数枚のカワラケとともに並んで据えてあつたことが報告されており、福岡城三の丸下屋敷または屋敷地全体の地鎮具として、一組をなして使用されたものと考えられる。

4. 民俗文化財「志賀海神社の力石」

力石とは力試しをする石の事である。本来聖的な意味合いを持つと考えられるが、いつしか若者の力自慢の道具と見られるようになった。

本志賀海神社力石には「芥屋町三右衛門」の銘があり、廻船業や漁業を生業とした現博多区奈良屋町の三右衛門が、海上安全や豊漁祈願またはその報賽として、あるいは力比べの記念として奉納したものではないかと考えられる。

5. 民俗文化財「若八幡宮の力石」

本力石は西町上（現博多区店屋町）の世話人により奉納されたものであり、持ち上げた人物・時代として「木村與五郎」「文政十三年」の銘が刻まれている。木村與五郎は難波・讃岐・尾張などで興業を行っており、「鶴の谷渡り」「獅子の追ぶち」等の曲持ちを得意とした有名な力持ち。元は西町上の楊池（柳ヶ池）神社に奉納されたものだが、明治の末年同社が若八幡宮に合祀された際に移されたもの。

6. 民俗文化財「住吉神社の力石」 附 銘「掛目三拾六貫目」1個

住吉神社は荒戸山の東麓に享和2年(1802)に勧請された神社である。本力石はその銘から「加奈川権次郎」「稻毛平次郎」らの力持ちが持ち上げたものであることがわかる。共に神奈川県出身で、幕末～明治にかけて各地を興行して回っていたものと考えられ、櫛田神社の力石にもその名を残している。また力石の台座には二十数名の世話人の名前（屋号）も刻まれており、港町の生業・賑わいなど当時の息吹を今に伝える貴重な資料となっている。



福岡城出土輪宝



左から志賀海神社、若八幡宮、住吉神社の力石

付 福岡県西方沖地震指定文化財災害復旧事業

平成 17 年 3 月 20 日、玄界島沖で発生した福岡県西方沖地震及びその余震により、市内では多くの被害が報告されたが、指定文化財についてもまた大きな影響を受けた。そのうち毀損の大きなものについては災害復旧事業として、平成 17・18 年度に現状復旧を図ることとした。

平成 17 年度災害復旧事業概要

福岡藩主黒田家墓所〈市・史跡〉 事業期間 平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 3 月 10 日

博多区崇福寺に隣接する墓所の塀が延長 100 m 以上にわたり倒壊したためこれを復旧したものである。倒壊以前は旧墓所の石材を積み上げて塀としていたものであり、これを旧状に復するのは安全上問題が大きく、コンクリート塀に変更して吹き付け塗装を行った。なお、この過程で墓跡が新たに発見され、これについては、132 頁に「市指定史跡黒田家墓所（崇福寺）立会報告」として掲載した。

奈多の志式座〈市・有形民俗〉 事業期間 平成 17 年 9 月 10 日～12 月 10 日

東区奈多に所在する農村舞台である。土壁の落下、瓦のずれ・落下、束柱のずれなどが生じ、建物の維持にあたって危機的な状況となり、これを復旧修理したものである。

今宿古墳群（丸隈山古墳）〈国・史跡〉 事業期間 平成 18 年 1 月 21 日～3 月 23 日

石棺材の折損についてはアンカー接合を行った。石室構築材については落石部分を元に戻した上で間詰め材を充填し、亀裂の入った天井石は無機質の注入材で接合した。また石室入り口部分については折損した上部の棹石は交換し、ゆがみの生じた門扉についても交換することとした。

菅崎宮本殿・楼門・鳥居〈国・建造物〉 事業期間 平成 18 年 7 月 1 日～10 月 31 日

鳥居は柱の継ぎ目でずれが生じたため、一旦解体し清掃・欠損部の充填をおこなった上で組み立てをおこなった。楼門は毀損した棟・北側の鬼瓦を交換した。本殿は漆喰壁・漆塗り等に亀裂が入ったものについて塗り直しを行い、ずれが生じた外陣の床下には、柱・束に沿って補強財を据えている。

木造観音菩薩立像〈市・彫刻〉 事業期間 平成 17 年 12 月 1 日～平成 18 年 3 月 15 日

東区志賀島所在の禪宗寺院莊嚴寺に安置される木造観音菩薩立像が堂内で転倒しかかり、本体・台座・後背部分に毀損が生じたため、これを復旧修理した。修理は毀損部分の復旧を主としているが、今後の災害予防のため像の安定を図るための修理も一部行っている。

石造宝篋印塔〈県・考古資料〉 事業期間 平成 17 年 11 月 21 日～12 月 28 日

志賀海神社所在の石造宝篋印塔が、基壇・基礎を残して倒壊し、相輪については折損した。基礎は基壇から取り外し、水平を取り直して再度据えなおした。この上部の塔身・笠・相輪については花崗岩製のダボを取り付けて据えなおしている。なお相輪の折損部位についてはダボと接着剤を併用して接合している。

崇福寺輪藏〈県・有形民俗〉・山門〈県・建造物〉 事業期間 平成 17 年 11 月 21 日～平成 18 年 3 月 20 日

輪藏については経蔵建物に傾斜が認められたため、基壇部分の復旧工事を行い傾きを補正した上で、扉・壁板の修理を行った。また経蔵に伴い傾いた輪藏は復旧正置した後固定している。

山門は下見板・板扉・板壁・階段・漆喰壁に毀損が見られたため、一部解体を行った後現状復旧を図った。また背面の両控え柱についてはズレが生じたため、旧位置に戻したうえで金具による補強を行っている。

住吉神社能楽殿〈市・建造物〉 事業期間 平成 17 年 12 月 1 日～平成 18 年 1 月 31 日

外壁のひび割れ、内壁土壁の崩落が生じたため、外壁部分はコーキング処理、内壁については解体後荒壁・中塗・漆喰の上塗りにより復旧修理を行った。



福岡藩主黒田家墓所	奈多の志式座
丸隈山古墳	宮崎宮鳥居
木造観音菩薩立像	石造宝篋印塔
崇福寺輪藏	住吉神社能楽殿

市指定史跡黒田家墓所(崇福寺)立会報告

所在地 博多区千代4丁目7-79区

調査原因 現状変更に伴う工事立会

調査期間 2005.11.23

調査面積 16 m²

担当者 田中壽夫

処置 盛土保存

1. 位置・環境

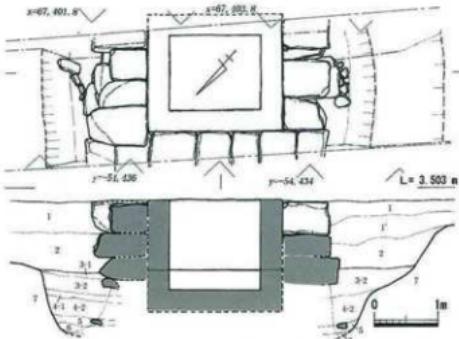
崇福寺は慶長5年に黒田長政により大宰府横岳から現在地に移され黒田家菩提寺となった。寺域北西部に位置する広大な墓所には如水・長政の墓塔を中心に直方藩主等の墓塔二十数基が点在していたが、昭和25年の改葬・合葬の際、墓所は縮小された。調査した墓跡は福岡県西方沖地震で倒壊した塀の復旧工事中に発見された。

2. 遺構と遺物

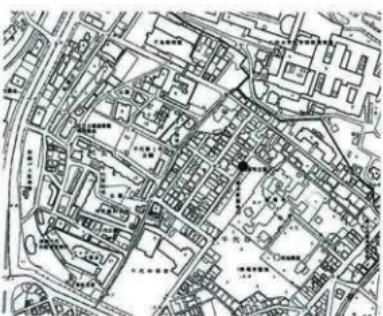
糸島花崗閃緑岩製組合せ式の石棺が1基である。遺物は確認できなかった。墓跡は、墓所北西部隅から南西約28mに位置する。古砂丘の基盤層である白色粗砂層まで墓坑を二段に掘削した後、基底面に拳大の川原砾石と粘性のある真砂土で整地し、その上に底板を水平に据えている。一抱えほどの四角い花崗岩で周囲を根固めした後、剃り抜きの側板を置き、その周囲にやや大振りで、厚さ40~50cmの花崗岩を小口と側壁が接するように丁寧に重ね置きしている。主軸はほぼ45度北から東へ振れており、外寸法量は東西辺2.13m、南北辺推定1.84mで、深さ1.42mを測る。厚みは、各辺ともほぼ同じで、0.33~0.35mである。内外面とも微細な敲打によって平滑に仕上げている。石蓋は発見時にはすでになかったが、底盤と同様な構造とすると、内法高は1.7m、外法高2.5mの規模が推定でき、石槨の可能性もある。

3.まとめ

当該墓跡の被葬者を特定することは難しいが、改葬前の原位置を留めていると思われ、黒田家墓所の景観や墓塔の配置などを復元する上で必要な成果が得られた。



3. 石棺平面及び断面図 (1:80)



1. 調査地点の位置 (48 千代博多 1:8000)



2. 石棺 (北東から)



4. 墓跡石棺 (北西から)

福岡市埋蔵文化財年報

VOL.20

—平成 17 (2005) 年度版—

発 行 日 平成 19 年 3 月 30 日

編集・発行 福岡市教育委員会文化財部

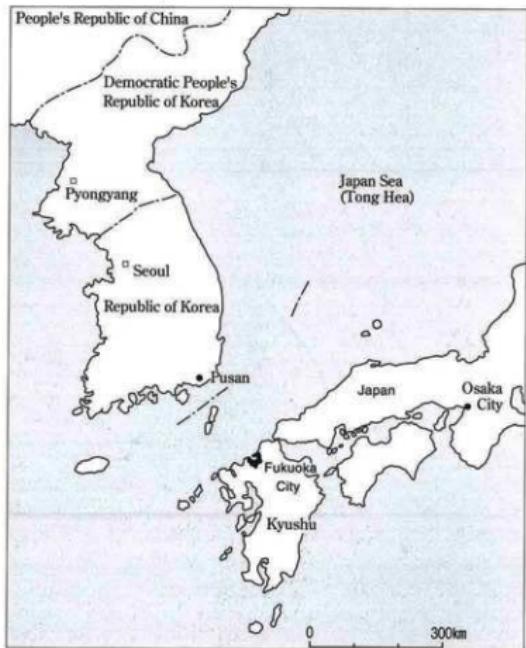
埋蔵文化財第 1 課

福岡市中央区天神 1 丁目 8-1

印 刷 福岡印刷株式会社

福岡市博多区東那珂 1 丁目 10-15

THE ANNUAL REPORT
OF
THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY
VOLUME 20



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY
MARCH 2007
JAPAN